

事項	令和8年度「Hatch Technology NAGOYA」課題提示型支援事業に係る行政課題等の庁内募集について																								
内容	<p>本市では、先進技術社会実証支援事業「Hatch Technology NAGOYA」において、本市が提示する行政課題及び社会課題に対して先進技術を活用した社会実証を支援する「課題提示型支援事業」を実施しています。</p> <p>このたび、先進技術を活用して解決したい行政課題及び社会課題を下記のとおり募集します。今年度も1件あたりの負担金上限額を行政課題は150万円、社会課題は300万円として募ることとしています。</p> <p>また、昨年度実施した社会実証の報告書が完成しましたので、併せてお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 今年度募集する課題</p> <table border="1" data-bbox="316 965 1417 1281"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>件数</th> <th>実証事業者への支援の上限額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">行政課題</td> <td>4件</td> <td>1,500千円/件</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会課題</td> <td>一般</td> <td rowspan="3">4件</td> <td rowspan="3">3,000千円/件</td> </tr> <tr> <td>グリーン化</td> </tr> <tr> <td>DX</td> </tr> </tbody> </table> <p>※行政課題とは行政における業務改善やサービス向上に関する課題、社会課題とは社会が抱える様々な分野における課題のこと。 ※実証にかかる費用のうち、市（経済局）は実証事業者に対して上記の上限額まで負担します。</p> <p>2 事業スケジュール（予定）</p> <table border="1" data-bbox="316 1512 1417 1776"> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>行政課題等の庁内募集（～5月8日）</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>行政課題等の選定・ブラッシュアップ</td> </tr> <tr> <td>6月～7月</td> <td>企業等の募集・課題説明会の実施</td> </tr> <tr> <td>8月～2月</td> <td>実証プロジェクトの選定・実施</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>成果報告会の実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 昨年度実施した社会実証の報告書 別添のとおり</p> <p>4 参考 先進技術の実証ニーズを持つスタートアップ等の企業等と行政や民間の施設等のフィールド（社会実証の場）をマッチングする「フィールド活用型支援事業」も引き続き別途実施します。</p>	区分		件数	実証事業者への支援の上限額	行政課題		4件	1,500千円/件	社会課題	一般	4件	3,000千円/件	グリーン化	DX	4月	行政課題等の庁内募集（～5月8日）	5月	行政課題等の選定・ブラッシュアップ	6月～7月	企業等の募集・課題説明会の実施	8月～2月	実証プロジェクトの選定・実施	3月	成果報告会の実施
区分		件数	実証事業者への支援の上限額																						
行政課題		4件	1,500千円/件																						
社会課題	一般	4件	3,000千円/件																						
	グリーン化																								
	DX																								
4月	行政課題等の庁内募集（～5月8日）																								
5月	行政課題等の選定・ブラッシュアップ																								
6月～7月	企業等の募集・課題説明会の実施																								
8月～2月	実証プロジェクトの選定・実施																								
3月	成果報告会の実施																								

<専用ウェブサイト>

<https://www.hatch-tech-nagoya.jp/>



<令和7年度課題提示型支援事業実証プロジェクト一覧>

区分	課題名	実証事業者	市担当部署
行政課題	国民健康保険料未納をゼロへ！革新的技術で支える安心社会	(株)TACT	健康福祉局 保険年金課
	接遇向上！職員と市民が笑顔になる先進技術を利用した窓口改革	(株)スタジアム	千種区保健福祉センター 保健管理課
	AIで価格予測！給食献立作成の負担を軽減	(株)システムサーバー	教育委員会事務局 学校保健課
	過去の設計データをAIで資産化！上下水道管の設計業務の効率化プロジェクト	(株)KK Generation	上下水道局 配水設計課 下水設計課
社会課題	美しい緑を未来へ！持続可能な芝生ソリューション【グリーン化】	イクスアール(株)	住宅都市局 都心まちづくり課
	メタバース技術を活用し、効果的な防災啓発を実現！【DX】	(株)ビーライズ	防災危機管理局 防災企画課
	技術で実現！駅の案内、もっとスムーズに【DX】	アクセント・アドバンス・テクノロジーセンター名古屋(アクセント(株))	交通局 駅務課
	子どもたちの悩みを早期発見・早期対応したい！	(株)ZIAI	教育委員会事務局 子ども応援課

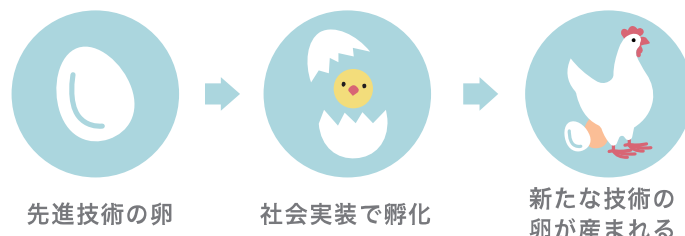
備考

事業の詳細は、本日付け、企画調整担当課長及び区企画経理課長宛てお知らせします。

(経済局イノベーション推進部次世代産業振興課 内線 2418)
 (総務局行政DX推進部デジタル改革推進課 内線 2267)
 (総務局総合調整部総合調整課 内線 2215)

Hatch Technology NAGOYAとは

「Hatch (ハッチ)」とは「かえす、孵化する」を意味します。この「Hatch Technology NAGOYA」は、先進技術の社会実証を支援することで、技術の研究開発や社会実装を促進する取り組みです。「課題提示型」と「フィールド活用型」の2つの支援事業を展開しています。この名古屋から、先進技術という「卵」を社会実装という形でどんどん「孵化」させていくことを目指します。



1 課題提示型支援事業

詳細は P. 2 ~ 6

2 フィールド活用型支援事業

詳細は P. 7 ~ 10

成果の発信

「Hatch Technology NAGOYA」では、先進技術の有用性を広く市民に周知することで、技術に対する市民の理解を深め、普及の後押しとなるよう、実証内容および成果の発信につとめています。

● 展示会出展（メッセナゴヤ2025）

2025年11月5日～7日（3日間）

ポートメッセなごやで開催された異業種交流展示会「メッセナゴヤ 2025」にブース出展しました。2024年度に本事業で実証実験を行った5つのプロジェクトについて出展し、参加した企業から実証内容やその後の事業展開などについて紹介いただきました。

出展企業

株式会社はこぶん
株式会社中電シーティーアイ
株式会社スマートシティ技術研究所・ニチレキ株式会社
株式会社長大・チャリチャリ株式会社
株式会社ダイイチ・ヤマハ発動機株式会社



● 成果発表会

2026年3月23日

本年度、新たに実施した実証プロジェクト14件について、各プロジェクトが取り組み内容および成果を発表しました。会場では、実証技術の紹介ブースも設けました。

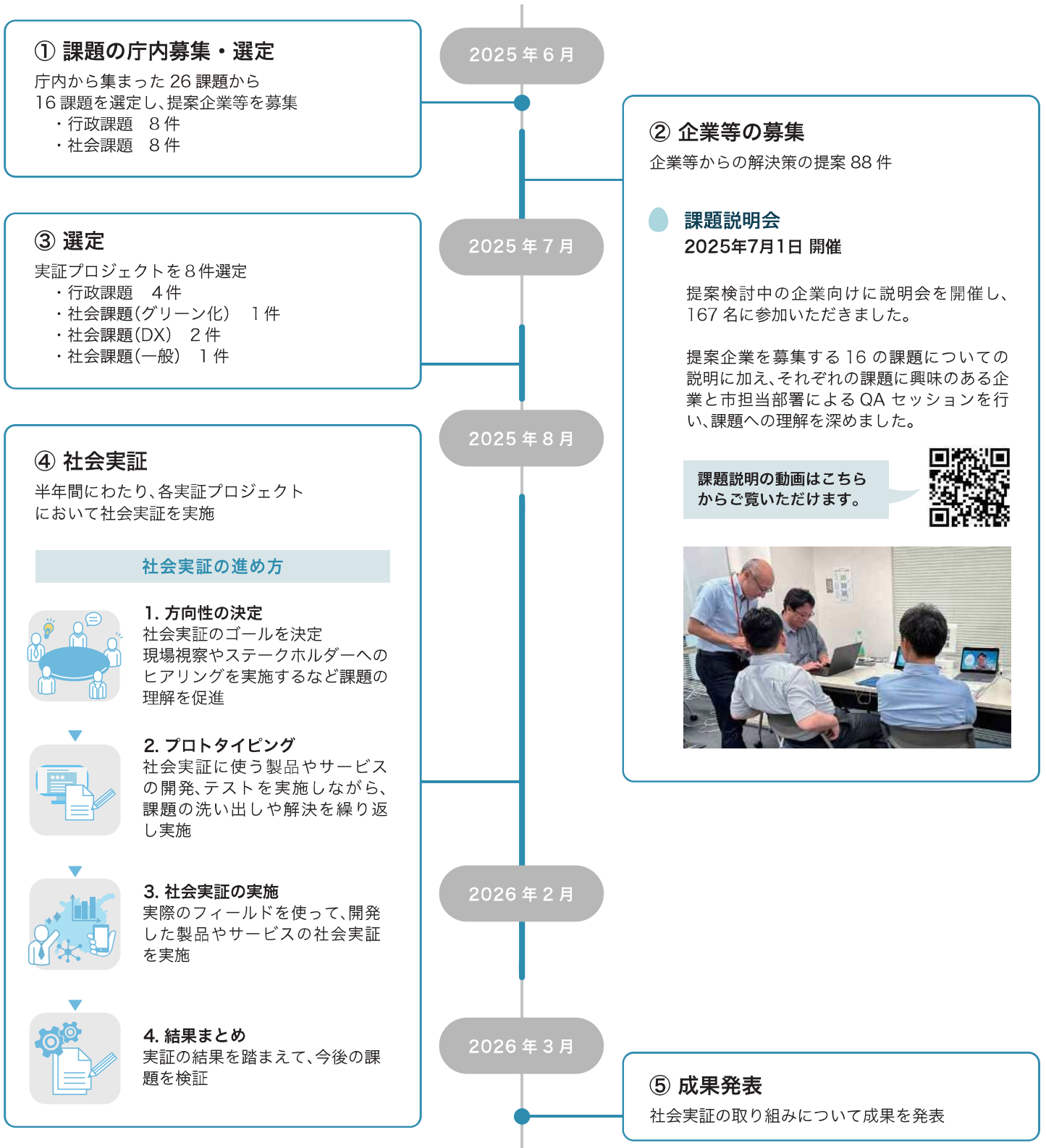


1 課題提示型支援事業

本市が提示する行政課題、社会課題(グリーン化及びDXに関する課題を含む)に対して先進技術を活用した解決策を持つ企業等を広く募集し、選定した実証プロジェクトに対する費用の一部負担や実証に必要な調整等の支援を実施する事業です。

本年度は、8件の実証プロジェクトを実施しました。(各プロジェクトの詳細は3～6ページに掲載)

経緯と実績



行政課題

1 生成AI・自動架電を活用した国民健康保険料の納付促進

解決したい課題

口座振替世帯数の減少・窓口での説明機会の減少を背景に、国民健康保険料の収納率が低下している。職員リソースが限られるなか、効率的な催告とフォローアップで収納率を向上させたい。

実証事業者：株式会社 TACT
市担当部署：健康福祉局 保険年金課

実証内容

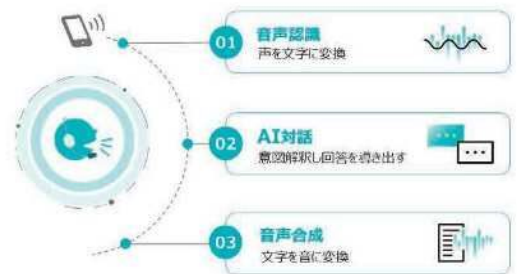
AI 音声対話技術と生成 AI のデータ解析を組み合わせ、電話催告業務の効率化を目指した。「つながる時間」を特定して納期前に自動架電を行い、SMS も併用して納付手続きを促した。また、英語、ベトナム語、やさしい日本語での自動架電も実施した。

成果

AI 架電の対象となった世帯の納付率は 62.4% となり、非架電世帯の値 (58.0%) を上回った。また、データ解析で得た「つながる時間」に架電したことで、完了率 (催告終了まで通話した割合) が 1.9% 向上した。外国人未納世帯への多言語架電でもベトナム語 29.5%、英語 25.1%、やさしい日本語 32.8% の納付率を達成した。

今後の展開

今回得られた架電・納付データを活用して PDCA サイクルを継続、市民一人ひとりのライフスタイルに合わせた架電時間・言語の個別最適化を深化させていく。将来的には口座振替への移行促進も組み合わせ、持続的な収納率向上の仕組みを検討する。



行政課題

2 窓口対応を AI で可視化し、接遇の質向上を目指す実証実験

解決したい課題

窓口対応において、職員の経験やスキルにより対応の質がばらつくことがある。窓口対応の質を客観的に評価し、職員の接客スキル向上に繋げることで、市民サービスの質向上を目指す。

実証事業者：株式会社 スタジアム
市担当部署：千種区 保健福祉センター 保健管理課

実証内容

応対品質評価 AI ツールを活用し、音声認識や感情解析、生成 AI を用いて窓口での録音データを解析した。実際の窓口対応における改善点を可視化し、職員の意欲を引き出すために前向きなフィードバックを行うことで、職員の接客スキルの向上を目指した。

成果

AI ツールが示した解析結果を基に職員へフィードバックを行ったところ、対象者全体のうち 64% の職員が「自身の接遇に変化があった」と回答した。また、36% の職員はフィードバック後に自身の接遇を実際に工夫し、「案内のスムーズ化や市民の理解度把握などの具体的な効果を実感した」と回答した。

今後の展開

今後の課題として、対象者数が増加しても、フィードバック担当者の業務負担を増やさない運用体制の構築が必要。また、本実証実験で得た技術や知見を用いて、行政窓口に限らず、対面対応が業績に直結する様々な場面に展開し、AI ツールの活用を目指す。



行政課題

3 野菜の価格予測・献立表カレンダー作成支援で実現する学校給食DX

解決したい課題

学校給食において、食材価格の劇的な変動により価格管理が難しい。また、献立作成は完成に至るための複雑な制約があり、熟練教諭の長時間作業に依存している。業務効率化と負担軽減を進めたい。

実証内容

過去の市場データや気象データから4か月先の野菜価格を予測する価格予測ツールを開発した。また、生成AIと数理最適化を用いて、複雑な制約を満たす献立表カレンダーを自動生成する献立編成ツールを開発し、各業務の効率化を目指した。

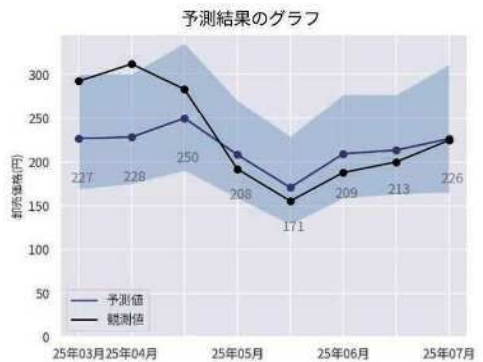
成果

価格予測ツールでは、ねぎ・にんじんの2品目で仕入先が提示した参考価格より高い予測精度を実現した。また、価格上昇トレンドを把握するのに役立つと評価された。献立編成ツールでは、16種類の制約を同時に満たす5ブロック分の献立表を約3分で自動生成し、栄養教諭から「次回以降も活用したい」との声を得た。

今後の展開

価格予測ツールでは、他の品目においても精度良く価格を予測するために、野菜毎で異なる生育期間内のデータを自動で取得・最適化する仕組みの開発が必要である。献立編成ツールでは、実用化に向け費用対効果の検証と具体的なサービス提供スキームを検討する。

実証事業者：株式会社システムサーバー
市担当部署：教育委員会事務局 学校保健課



行政課題

4 AIを活用した上下水道管設計データの照査業務の効率化

解決したい課題

毎年数多く行われる上下水道管の更新工事において、設計図や設計書の照査業務の負担が大きい。職員の高齢化によるノウハウ継承の難しさや人手不足が進む中、精度の維持と効率化を図りたい。

実証内容

具体的な照査の方法やチェック項目について職員より聞き取りを行い実務に即した市独自の照査AIを実装した。設計図や設計書を入力して記載内容を構造化し、項目との整合性を判定して誤りを検出することで、チェック漏れの防止と照査業務の負担軽減につながるか、検証を行った。

成果

今回照査した項目は照査業務のごく一部であるものの、単純な突き合わせ作業では、約350秒が約35秒となる事例もあり、AIの処理能力の速さが確認できた。また、本モデルはテキスト情報を持つ図面や積算書から文字情報を高精度に抽出し、突合できることが分かり、見落としやヌケモレ防止に有用であると分かった。

今後の展開

今回は小規模・基礎的な工事を対象とし、条件の整った工事については高い照査精度が確認された。今後は一層の精度向上と、より大規模・複合工事への適用に向けて開発とチューニングを行うことで、実務に活用できるシステムになることが期待される。

実証事業者：株式会社 KK Generation
市担当部署：上下水道局 配水設計課・下水設計課



項目に【図面付】【図】平面図の口径別延長（掘削あり）が【図】表層一層毎に正しく集計されているか
口径別延長（掘削あり）が一覧して見えます。（1/1ページ）

詳細情報
- 平面図（図面）：4口井、平面図（図面）：4口井
- 施工業者（図面）：4口井、施工業者（図面）：4口井

抽出データ

比較表	口径	平面図 延長	施工業者 延長	新設判定	平面図 長さ	施工業者 長さ	適合判定
φ40	1.0m	1.0m	-	○	24.0m	24.0m	○
φ100	-	-	-	-	10.0m	10.0m	○
φ150	448.0m	448.0m	-	○	-	-	○
φ200	3.0m	3.0m	-	○	2.0m	2.0m	○
φ300	974.0m	974.0m	-	○	2.0m	2.0m	○
φ400	1.0m	1.0m	-	○	1.0m	1.0m	○

－ 社会課題（グリーン化）－

5 AIとXR技術で芝生の“見えない”負荷を可視化する実証実験

解決したい課題

名古屋市のシンボルのひとつであるヒサヤオドリパーク、その一部であるシバフヒロバは利用者が多く、芝生の管理が難しい。利用制限を敷くこと無く、美しい青々とした芝生を維持したい。

実証内容

AIとGIS（地理情報システム）を用いてカメラ映像から人流とその踏圧を解析し、芝生への負荷を可視化した。現実空間にマップを重ねて表示するAR技術も活用し、負荷が高いエリアの集中的なケアなど持続可能な芝生管理が可能か検討した。

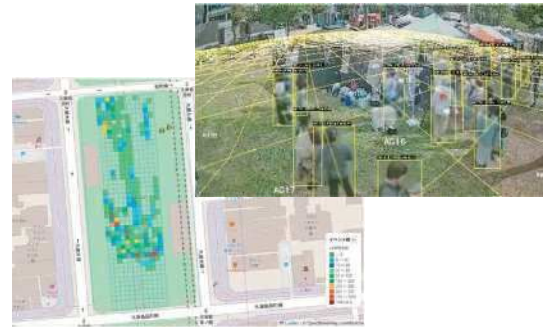
成果

「人の動き」を重視した独自の解析ロジックを用い、芝生への負荷をより実態に近い形で算出。負荷のかかった箇所を時間軸毎に把握でき、施肥や養生など芝生回復のための対策を効果的に行うことが可能になった。また、AR技術を用いた現地での状況確認も実現し、データに基づく管理体制の土台を築くことができた。

今後の展開

日照データの統合による総合的なストレス評価の実装や、リアルタイム解析の運用を目指す。蓄積されたデータを春の張り替え計画など具体的な維持管理への活用を検討する。他の公園や学校など、多様な緑地管理への技術転用を視野に事業の横展開を検討する。

実証事業者：イクスアール株式会社
市担当部署：住宅都市局 都心まちづくり課



－ 社会課題（DX）－

6 新たなメタバースゲームで防災教育!「共助」を学ぶための実証実験

解決したい課題

南海トラフ巨大地震などの大規模災害の発生が懸念される昨今、防災をより身近なものとして捉え、市民の主体的な行動変容を促すため、「共助」を体験できる新たな防災啓発の取組みを進めたい。

実証内容

メタバース空間と現実のグループワークを組み合わせたゲームを開発した。災害時特有の情報の錯綜を再現し、プレイヤー同士の対話なしでは解決できない状況を体験させることで、子どもたちが共助を学び、平時の備えへの行動変容につながるかを検証した。

成果

開発したゲームの子ども向け体験会を実施した。テーマは避難所生活における「共助」であり、子どもたちはメタバース空間内での体験を通じて「助け合いの意識」を学ぶことができた。また、「災害時の状況の解像度向上」「平時の備えへの具体的行動誘発」などの指標に対しても、アンケートや言動から明確な成果が見られた。

今後の展開

メタバース空間と現実を行き来するため、現状ではゲームの進行役が必要である。ゲーム内のナビゲーションを改善し、運用の効率化を図る。また、利用場所・環境を選ばないブラウザアプリ化も検討することで、学校現場などで利用可能な防災コンテンツを目指す。

実証事業者：株式会社ビーライズ
市担当部署：防災危機管理局 防災企画課



社会課題 (DX) -

7 AIを活用した案内ロボットによる駅業務効率化の検証

解決したい課題

観光客増や問合せの多様化で、地下鉄駅員の案内業務量が増加している。将来的な労働人口減少も見据え、限られた人員で効率的な駅務運営と顧客満足度の維持向上を実現する仕組みを構築したい。

実証内容

駅員の知識や経験を組み込んだ生成 AI 搭載の自走式案内ロボットを名古屋市営地下鉄栄駅に設置し、対話アプリとともに活用した。経路案内や Web 検索による最新情報の提供を行い、案内業務の負荷軽減と利用者サービスの向上につながるかを検証した。

成果

多言語対応等で有用性を確認し、利用件数は目標を上回る毎時約 8～10 件を記録した。案内解決率は約 40%であったが、未解決要因の約 6 割が雑音など現場の対話環境に起因すると特定できた。無事故での運用も達成し、先進技術の社会実装に向けた実践的な課題と改善の方向性を見出す重要な成果を得た。

今後の展開

多様化する問合せ対応において、AI の業務補完には高い期待が持てる。本格導入や市全域への拡大には音声認識の向上や環境整備などさらなる検証が必要であり、今後は本実証実験の知見を活かして改善を重ね、最適な形での段階的な社会実装を目指す。

実証事業者：アクセンチュア・アドバンスト・テクノロジーセンター名古屋
市担当部署：交通局 駅務課



社会課題 -

8 傾聴 AI チャットを用いた子どもが相談しやすい環境づくり

解決したい課題

子どもの悩みは近年一層複雑・深刻化しており、すべての悩みを見つけて出すことが難しくなっている。自ら助けを求めることが難しい子どもの「見えないサイン」を早期に発見し、支援へつなげたい。

実証内容

解決策を提示せず相手の話に耳を傾ける特殊な AI を用いた匿名チャットツールを試験的に導入。相談ハードルを下げて悩みを引き出し、重大な悩みを検知した場合はスクールカウンセラー (SC) 等の専門的な人の支援へ確実につなぐ新たな連携モデルを検証した。

成果

学校外からの利用割合は全利用件数の約 39%を示した。SC 等の人の支援は平日日中に行われることから、本取組みは時間的な制約をカバーできる可能性がある。また、過去に相談経験のない生徒・児童からの利用が 7 割以上を占め、悩みはあるが大人に相談するのが難しい子どもたちも利用できる新しい相談窓口として機能した。

今後の展開

学校側から「期待通りで良かった」86% と好意的な反応があり、一定の成果も得られたが、実施期間後半では相談数があまり増えなかった。相談しやすくなる周知の方法や、プライバシーに配慮しながら相談内容を分析するなど、さらなる工夫や検証が必要である。

実証事業者：株式会社 ZIAI
市担当部署：教育委員会事務局 子ども応援課



2 フィールド活用型支援事業

先進技術の実証実験を希望する企業等に対して、行政施設等を社会実証の場(フィールド)としてマッチング支援を行う事業です。

本年度は、新たに6件の実証プロジェクトを創出しました。(各プロジェクトの詳細は8～10ページに記載)

事業イメージ



支援内容



行政フィールドのマッチング

企業等からの実証ニーズに基づき、実証プロジェクト創出に向けた計画書作成支援を行い、行政フィールド活用のマッチングをサポートします。



事務局による伴走支援

行政との連携プロジェクトに精通している事務局メンバーが、実証プロジェクトの課題解決支援や調整サポート等、伴走支援を行います。



先進技術の広報支援

市が有する施設等での実証実験が開始される際に、名古屋市のプレスリリース等による情報発信を行います。

イベント「Hatch Meets UP!」の開催



「フィールド活用型支援事業」に興味を持つ企業等の皆様に向けて対面型イベントを開催しました。

第1回

2025年6月5日

2025年度キックオフイベント!

第2回

2025年8月1日

実証フィールド説明会

第3回

2025年9月25日

『MEET UP CHUBU × Hatch Meets UP!』
特別連携イベント

第4回

2026年2月16日

行政フィールドで、自社技術を“事業につなげる”第一歩を。

1 車載カメラの撮影データを活用した区画線の識別と延長計測の実証

実証実験のゴール

道路点検 DX システムの機能拡張を目指した。道路上に敷設された「白い実線」「白い破線」「黄色の実線」の3種類の区画線を識別してデータ化し、それぞれの延長距離を正しく算出する。

実証内容

車内に取り付けたスマートフォンのカメラで撮影された路面の画像から区画線を検知・識別するAIモデルを開発し、3種類の区画線を対象に、それぞれの有無および延長距離の検出精度を検証した。精度の評価は、地図アプリで計測した値と、AIにより算出された値を突合して実施した。

成果

市内道路のある一定区間をサンプルとした。ウェブ地図における計測値を正解とし、AIモデルを用いた計測値と比較した結果、2車線以下の道路については約98%の一致率を達成した。区画線の有無だけでなく3種類の区画線延長を自動計測できるため、データ計測による定量的な評価に基づいた区画線の維持管理への活用が期待される。

今後の展開

検証結果を踏まえ、より実用性を重視したシステム設計や他自治体への展開の検討を進める。またAIを用いた道路インフラ管理技術として維持管理業務の標準化・高度化につなげることで、将来的な道路の安全性と管理の効率性の向上を図る。

実証事業者：ニチレキ株式会社
株式会社スマートシティ技術研究所
フィールド提供者：緑政土木局 道路維持課



2 多様な学びを実現する代読代筆アプリの有用性検証

実証実験のゴール

開発中の代読代筆アプリを小学校の授業に試験導入し、多様な学び方を示すことで、読み書きに苦手意識を持つ児童の学習制約を軽減できるかを検証する。

実証内容

小学3年生・5年生の2学年の授業で代読代筆アプリを継続的に活用した。教科書やプリントなどの教材読み上げ機能や、解答欄への音声・キーボード入力機能を利用してもらい、児童の利用意向、疲労度、学習意欲、テスト結果への影響などを調査した。

成果

児童が自発的にアプリを使い、友達同士で教え合いながら学ぶ様子が見られた。読み書きに苦手意識を持つため普段は学習に消極的だった児童も、アプリを使って前向きに授業へ取り組む姿勢が確認された。結果、6割を超えるアプリの利用意向があり、読み書きの苦手な子の疲労度を、通常の子と同等まで軽減することができた。

今後の展開

今後も小学校で実証実験を継続し、児童の学習におけるアプリの効果を引き続き調査したい。また、得られた結果を基に、アプリ機能の性能向上等によるサービス改善を行い、学校を含む様々な教育現場でのアプリ導入を目指す。

実証事業者：株式会社 Nanka
一般社団法人読み書き配慮
あいち学習支援相談室
フィールド提供者：名古屋市立明治小学校



3 IoTセンサー、AI分析、および衛星データを駆使した名古屋城三の丸地区の都市環境モニタリング

実証実験のゴール

名古屋城三の丸地区の環境特性を定量的に評価・可視化し、まちづくりの基盤となる環境情報を得ることで、開発した環境モニタリングシステムの有用性を検証する。

実証内容

IoTセンサーを三の丸地区に設置し、気温・湿度・気圧を継続的に測定した。得られたデータをAI処理で補正し、衛星地表面温度データと組み合わせることで、緑化エリアと舗装地との差分をヒートマップ等で可視化し、三の丸地区の環境特性を分析した。

成果

IoTデータ分析では基盤構築と安定運用を実現し、緑化エリアの低温傾向を確認した。AI分析では現地計測データを基に画像生成AIを開発し、実計測が困難な局所的な温度分布の再現に成功した。一方、衛星データとの連携による精度向上は、悪天候等の影響で適切なデータが得られず継続検討中である。

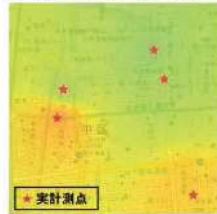
今後の展開

本実証実験では、秋から冬にかけて三の丸地区の環境特性を分析した。夏季に向けて来年度も実証実験を継続し調査を続ける予定である。今後は自社インフラ機器と環境基盤を連携させ、実証実験を起点とした社会実装ソリューションの提案を目指す。

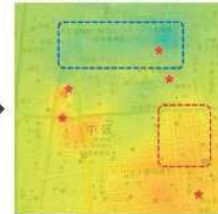
実証事業者：名古屋電機工業株式会社
フィールド提供者：住宅都市局 都心まちづくり課

センサ未設置箇所の分布を補正する画像生成AI開発

【実計測5点によるヒートマップ】



【画像生成AIによる補間あり】



実計測5点では推定できない分布特徴を表現



4 BMXレーシング競技の高精細VR映像(16K)による追体験環境構築

実証実験のゴール

世界最先端の16K VR映像技術を活用して、BMXレーシング競技を臨場感あふれる追体験として再現し、観戦体験の価値向上を検証する。

実証内容

16Kに対応した最新鋭のVRカメラを用い、名古屋競輪場BMXコースでTOYO TIRES presents 2025アジアBMXレーシング選手権を撮影した。高精細VR映像の撮影・編集・配信技術を検証し、VR体験ブース等での視聴体験や定性的評価を行った。

成果

圧倒的な没入感を持つ16K超高精細映像により、従来の映像体験を超えるBMXレーシング競技の観戦追体験が実現できた。また、視聴体験を行ったことで、競技の熱気や迫力を届ける新しい観戦モデルの可能性が示された。さらに、映像は選手権大会のPR素材としても活用可能で、ファン層拡大へ向けて役立つことが示唆された。

今後の展開

撮影・編集の技術的知見を深化させ、一般公開用のVR映像プラットフォーム配信を進める予定である。さらに、他スポーツイベントや観戦環境の強化、ファン拡大に向けた応用展開を検討する。

実証事業者：InfoMediji d.o.o.
フィールド提供者：総務局 アジア・アジアパラ
競技大会推進課



5 妊娠悪阻に伴う嗅覚過敏に対する無香性ヘアケアの有用性の検証

実証実験のゴール

敏感な嗅覚を持つ人が不快感やストレスを感じず使用できる無香性ヘアケア製品の有用性を、医療従事者の評価を通じて検証し、製品改良につなげる。

実証内容

妊娠中で悪阻の症状を持つ人や嗅覚過敏の人の負担軽減を目的に、合成香料無添加かつ独自処方では原料由来のニオイ（基材臭）も極力抑えたヘアケア試作品を医療従事者に使用してもらい、使い心地や印象を主観的評価で収集・分析した。

成果

実験参加者から「完成品は不快感が少なく安心して使えた」という声が得られ、ニオイを抑える処方の方向性を確認できた。アンケートの自由記述により使用時の印象や改善要望も把握でき、今後の製品改良と他製品への展開、さらには嗅覚配慮が必要な場面への応用に向けた具体的な意見が得られた。

今後の展開

参加者の声を反映しながら処方や使用感をさらに磨き込み、より多くの人が安心して使えるヘアケア製品へ発展させる。将来的には、ニオイへの配慮が必要な様々な生活場面で使える他製品への展開も視野に入れて検討を進める。

実証事業者：ホーユー株式会社

フィールド提供者：名古屋市立大学大学院看護学研究科



6 AIを活用したストレス状態のセルフチェックによる不調未然防止の効果検証

実証実験のゴール

AIとWebカメラを用いた独自の非接触式ストレス計測技術で、計測を受けた人自身がストレス状態に気づき、セルフケアの意識向上による不調の未然防止に役立てるか検証する。

実証内容

脈拍や自律神経指標、まばたきなどの生体データをカメラ映像からAIが解析するシステムを使い、ストレスの可視化とセルフチェックの仕組みを構築した。職員研修の参加者に自身のストレス測定とセルフケアを実践してもらい、セルフケアの認知度向上を目指した。

成果

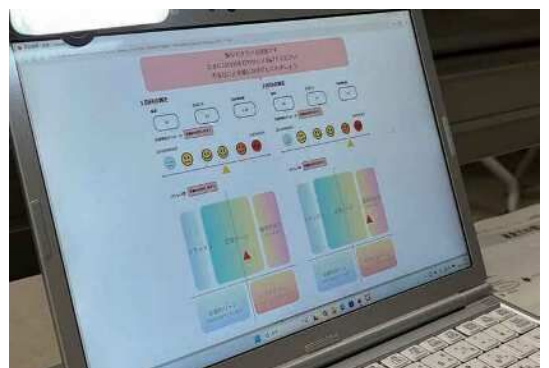
職員のストレス状態をセルフケア前後でそれぞれ測定することで、セルフケアによるストレスの緩和を示すことができた。これにより、多くの職員がセルフケアの必要性を実感したことがアンケート結果からわかった。また、旧システムを改良し、UIの操作性を向上させたため、撮影エラー率を大幅に改善することができた。

今後の展開

今後は、本実証実験で得られたデータやアンケートを基に、AIの精度向上とUIの改善により利便性をさらに高め、組織全体のメンタルヘルス向上と健康経営のさらなる推進に寄与するサービスの提供を目指す。

実証事業者：Zero To Infinity 株式会社

フィールド提供者：総務局 安全衛生課



問い合わせ



名古屋市
City of NAGOYA

〒460-8508

愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
名古屋市経済局イノベーション推進部

次世代産業振興課

TEL: 052-972-2418

Mail: a2417@keizai.city.nagoya.lg.jp

Web サイト

<https://www.hatch-tech-nagoya.jp/>



<p>事項</p>	<p>「なごやグリーンインフラまちづくりガイド」の策定について</p>
<p>内 容</p>	<p>自然の多様な機能を活かして持続可能で魅力的な地域づくりに取り組む「グリーンインフラまちづくり」を推進するため、関係5局で構成する推進会議[※]において「なごやグリーンインフラまちづくりガイド」を策定しました。</p> <p>本ガイドでは、市民・事業者・行政の各主体に共通する取り組みの方向性として「あらゆる場面でグリーンインフラを」「あらゆる分野でグリーンインフラを」と掲げています。本ガイドを参考に、幅広い分野の業務において、自然の機能の活用を検討いただきますようお願いいたします。</p> <p>1 位置づけ</p> <p>名古屋市総合計画2030に掲げる「グリーンインフラによる自然共生社会の実現」および「グリーンインフラまちづくりの推進」のための手引き</p> <p>2 配布・広報</p> <p>令和8年3月31日より、市公式ウェブサイトにて公開しています。また、市民情報センター等での配架を開始します。</p> <p>※ グリーンインフラまちづくり推進会議</p> <p>総務局、環境局、住宅都市局、緑政土木局、上下水道局で構成する局長級の庁内会議。事務局は環境局。関係局間の総合的な調整及び相互連携を強化することにより、自然環境が有する多様な機能を活用した持続可能で魅力あるまちづくりを推進することを目的とする。</p>
<p>備考</p>	<p>本件は、令和8年3月31日付、市政記者クラブへ資料提供しました。</p>

なごやグリーンインフラ まちづくりガイド

令和8年3月版



目次

第1章 はじめに	2
1 なごやグリーンインフラまちづくりガイドについて	2
(1) 趣旨	2
(2) 位置づけ	3
2 グリーンインフラとは	4
(1) 定義	4
(2) 意義	5
第2章 グリーンインフラの機能・効果	7
1 持続的で快適な都市・生活空間の形成	7
(1) 良好な生活環境の形成	7
(2) 身体的・精神的な健康の増進	10
(3) 子育て・教育	13
(4) コミュニティ形成	14
2 治水・水循環（雨水の貯留・浸透・蒸発散）	15
3 暑熱緩和	17
4 生物多様性の確保	20
5 防災・減災	22
6 地域経済の活性化	24
7 温室効果ガスの削減	25
第3章 各主体共通のグリーンインフラまちづくりの方向性	26
1 あらゆる場面でグリーンインフラを	26
2 あらゆる分野でグリーンインフラを	31
第4章 各主体におけるグリーンインフラまちづくりの取り組み方	32
1 市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの取り組み方	32
2 名古屋市（行政）のグリーンインフラまちづくりの取り組み方	37
(1) グリーンインフラ導入	37
(2) グリーンインフラの維持管理	37
(3) グリーンインフラまちづくりに関する情報発信・誘導策等の実施	37
第5章 グリーンインフラの要素技術	42
1 壁面緑化	43
2 屋上緑化	44
3 芝生等草地の広場	45
4 花壇、菜園	46
5 生きものへの配慮	47
6 緑陰	48
7 親水空間	49
8 <small>あめにわ</small> 雨庭	50
9 浸透雨水ます、浸透トレンチ	51
10 舗装面の工夫	52
11 雨水タンク	53
12 建物敷地と道路等との一体的な空間	54
13 風の道の形成	55
第6章 グリーンインフラまちづくりに役立つ補助制度等	56
1 指針等	56
2 補助制度等	58
3 認定制度	60

1 なごやグリーンインフラまちづくりガイドについて

(1) 趣旨

国土交通省は、令和8（2026）年1月に策定した「グリーンインフラ推進戦略2030[※]」において、「グリーンインフラが持つ多様な機能を活用した、持続的で魅力ある都市・生活空間の形成、地域経済の活性化等を推進することによって、2030年までに『グリーンインフラの活用が当たり前の社会』の実現を図り、2050年に向けて『自然共生社会』の実現を目指す」としています。

また、本市は、これまで各分野の計画等においてグリーンインフラに言及してきましたが、令和6（2024）年10月に策定した「名古屋市総合計画2028」において「グリーンインフラの取り組みによる自然共生社会の実現」を明確に位置づけ、取り組みのステップアップを図ることとしました。

そこで、本市におけるグリーンインフラに関する各分野の取り組みを効果的に実施できるようにするため、以下2つの目的を掲げ、「なごやグリーンインフラまちづくりガイド」（以下、「本ガイド」という。）を策定いたします。

目的

- ① 国の戦略や本市の状況を踏まえ、市民・事業者・行政の各主体がグリーンインフラに取り組む際の共通の方向性を分かりやすく示す。
- ② グリーンインフラの機能・効果や要素技術を紹介し、各主体が自ら行動するための手引きとする。

市役所の各局が本ガイドに沿って施策・事業を進めることはもとより、市民・事業者のみなさまに本ガイドを活用していただき、グリーンインフラの導入を進め、「名古屋市総合計画2028」の基本方針に掲げた「リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する世界都市、誰もが幸せと希望を感じられる名古屋」の実現をめざします。



図：グリーンインフラの観点からみた「めざす都市像」の実現

※グリーンインフラ推進戦略2030

平成27（2015）年、「第二次国土形成計画」において、政府文書としてはじめて「グリーンインフラ」という言葉が使われました。令和元（2019）年には、グリーンインフラのめざす姿を示し、多様な主体が参画できる環境整備の礎として、また国土交通省の取り組みを示すものとして「グリーンインフラ推進戦略」が策定されました。その後、令和5（2023）年9月に「グリーンインフラ推進戦略2023」に改訂され、令和8（2028）年1月に改訂された現行の戦略が「グリーンインフラ推進戦略2030」です。

(2) 位置づけ

「名古屋市総合計画2028」の重点戦略を推進する取り組みに「グリーンインフラの取り組みによる自然共生社会の実現」を掲げ、令和10(2028)年までに加速させるプロジェクトとして「グリーンインフラまちづくりの推進」を位置づけています。本ガイドは、本市の方針と社会のニーズをふまえ、グリーンインフラまちづくりを推進するための手引きとして、市民・事業者・行政等、市に関わるすべての方を対象としています。

本ガイドは、グリーンインフラを取り巻く社会情勢を鑑み、必要に応じて改訂を行います。

めざす都市像 (2040年を見据えて実現をめざす将来のまちの姿)

- 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できる都市
- 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つ都市
- 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせる都市
- 快適な都市環境と自然が調和した都市
- 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれた都市

めざす都市空間 (めざす都市像を空間的に捉えなおしたもの)

- ◆リニアがつなぐ巨大交流圏の中心都市として
新しい技術やアイデアが実装された、スマートで防災・減災力を備えた強靱な都市
- ◆“人”中心の基礎自治体として
都市機能が適切に配置・連携された集約連携型都市構造、多様な人々の交流を促すウォークブルなまちづくり
- ◆日本全体の成長をけん引する都市へ
誰もが幸せと希望を感じられる豊かな社会、都市圏の持続可能な成長

重点戦略 (めざす都市像の実現に向け、優先的に取り組む戦略。重点戦略に位置づけられた取り組みに対して、行政資源を優先的に集中して配分することにより計画全体を着実に推進)

戦略5 独自の魅力で世界から多様な人が集い交流する、環境と経済の好循環で成長する都市

(2) 脱炭素型・循環型・自然共生まちづくり

③グリーンインフラの取り組みによる自然共生社会の実現

豊かな自然環境や生物多様性を保全し、将来にわたって自然と共生する社会を実現するため、あらゆる分野・場面において、グリーンインフラの取り組みを推進し、持続可能で魅力的な地域づくりに取り組みます。

視点を踏まえたプロジェクト (都市基盤)

(めざす都市像の実現に向け、「名古屋市総合計画2028」を契機に加速させるプロジェクト)

グリーンインフラまちづくりの推進

自然環境の持つ多様な機能を、生物多様性保全や気候変動対策、防災、にぎわい創出等のさまざまな課題解決に活用する「グリーンインフラ」の考え方が注目されています。生物多様性緑化や雨庭[※]等をまちづくりに導入することで、グリーンインフラの実装を加速化します。

図：「名古屋市総合計画2028」におけるめざす都市像等

※詳細についてP.50で解説

2 グリーンインフラとは

(1) 定義

グリーンインフラは「グリーン」と「インフラストラクチャ（社会基盤）」をもとにして欧米で生まれた言葉です。国内においては、国土交通省の「グリーンインフラ推進戦略2030」により「自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの」とされています。

グリーンインフラの「グリーン」は、「ネイチャー（自然）」であり、樹木や花等の「緑」のみならず、土壌、水、風、地形といったものも含まれます。例えば、1本の大きな樹は、緑陰をつくって夏の暑さを緩和し、風にそよぐ木の葉は心の安らぎをもたらす、鳥や虫たちにはすみか・エサ場となり、根は土壌を耕し、雨を受け止めて水害リスクを低減し、吸い上げた水を蒸発させて気候を穏やかにし、木の枝や落ち葉は子どもたちの遊び道具にもなります。また、樹木が連なれば生きものの行き来や人が楽しく快適に歩けるネットワークができ、さらには土地の価値向上等にもつながります。このように、自然環境は、わたしたちが普段意識していないものも含め、多様な機能を備えています。

これまで、樹林地や河川をはじめとする自然環境が私たちの暮らしを支えてきました。こうした既存の価値をあらためて認識し適切に保全しつつ、自然の多様な機能をより積極的に活かして、持続可能で魅力的な地域づくりに取り組むことを「グリーンインフラまちづくり」といいます。

「グリーンインフラ推進戦略2030」におけるグリーンインフラの定義

グリーンインフラとは、自然の多様な機能^{*1}を活用した社会資本^{*2}であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング^{*3}向上に貢献するもの。これは、人と自然の関わりから形成される^{*4}ものであり、戦略的な計画^{*5}、持続的な維持管理^{*6}、幅広いステークホルダー^{*7}の参画等を通してより大きな効果の発現が期待できる。

※1 自然の多様な機能

生態学的プロセスや進化のプロセスを通じて発現する働きであり世界中の研究成果を基に政策提言を行う政府間組織IPBES (Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services / イブベス) : 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォームによって18項目に分類される。なお、「自然」には、原生的な自然だけでなく、二次林、里山、都市緑地等の人為的に改変されたものも含まれる。

※2 社会資本

広く社会一般に利害・影響を持つ性質を持つ財である。これには、民間所有の緑地等、公共的機能を果たす非公的な財も含まれる。

※3 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいう。

※4 人と自然の関わりから形成される

自然と人間が相互関係を有する状態をいう。

※5 戦略的な計画

技術、政策等に裏付けられ、グリーンインフラの効果を最大限発揮させるための計画等をいう。

※6 持続的な維持管理

自然の多様な機能を持続的に発揮・向上させるために、グリーンインフラを適切に保全・管理・育成する活動である。

※7 ステークホルダー

関心や利害を持つ個人、グループ、または組織であり、組織の活動に影響を与える、または影響を受ける存在である。

(2) 意義

国土交通省の「グリーンインフラ推進戦略2030」では、7つの社会課題を挙げており、グリーンインフラが多様な機能を発揮することで、社会課題への対応策となり得るとしています。

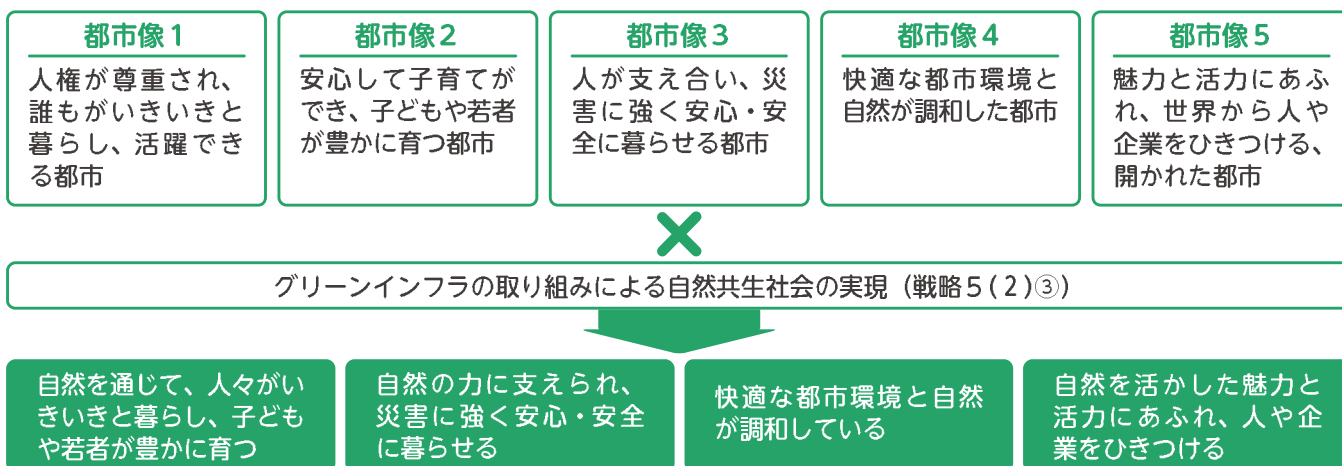
「グリーンインフラ推進戦略2030」に掲げられたグリーンインフラをとりまく社会課題

- | | | |
|---------------------|------------|-------------|
| 1 持続的で快適な都市・生活空間の形成 | 2 防災・減災 | 3 暑熱対策 |
| 4 生物多様性の確保 | 5 地域経済の活性化 | 6 温室効果ガスの削減 |
| 7 循環型社会の形成 | | |

グリーンインフラが複数の社会課題への対応策になり得ることは、既に「名古屋市総合計画2028」に記載しています。

「名古屋市総合計画2028」では、基本方針「リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する世界都市、誰もが幸せと希望を感じられる名古屋」の下、5つの「めざす都市像」を掲げ、その実現のため優先的に取り組むこととして設定した5つの「重点戦略」の中に、「グリーンインフラの取り組みによる自然共生社会の実現」を掲げています。

本市としては、幅広い分野の課題解決や魅力向上等を図り、めざす都市像を実現するため、グリーンインフラまちづくりを進めていきます。そして、その取り組みを通じ、市域への影響に留まらずカーボンニュートラル^{※1}やネイチャーポジティブ^{※2}といった世界規模の課題解決にも貢献していきます。



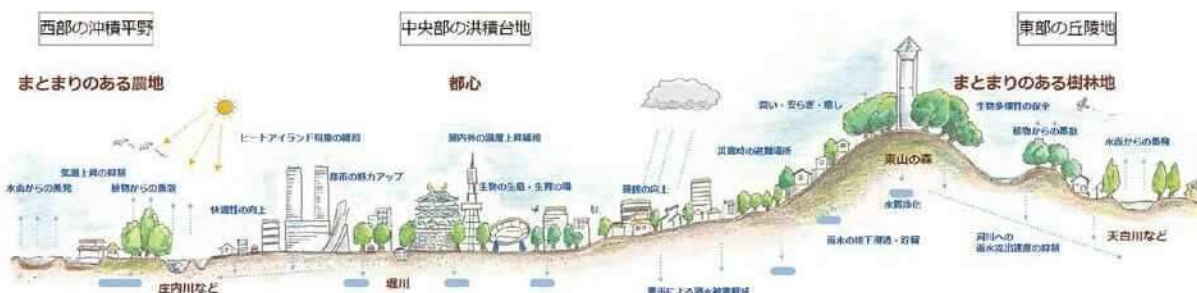
図：グリーンインフラの取り組みにより実現する名古屋のイメージ

※1 カーボンニュートラル

二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量と森林等による吸収量との間の均衡が保たれた状態のことをいいます。地球温暖化や気候変動を取り巻く状況は厳しさを増しており、世界では、2050年にカーボンニュートラルをめざす機運が高まっており、この動きを捉え、令和2（2020）年10月の首相所信表明演説において、2050年カーボンニュートラル宣言が行われました。

※2 ネイチャーポジティブ

「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること」と定義され、昆明・モンリオール生物多様性枠組の2030年ミッションに考え方が位置付けられるとともに、日本の生物多様性国家戦略においても、2030年に向けた目標として位置づけられています。また、平成31（2019）年の国連総会では、令和3（2021）年から令和12（2030）年までを「国連生態系回復の10年」とすることが決議され、世界各国にさらなる取り組みを求めています。



図：本市におけるグリーンインフラのイメージ

本市の状況～名古屋市の“みどり”～

本市の緑のまちづくりの方向性を示す「名古屋市みどりの基本計画2030」では、公園や街路樹、樹林地、農地や水面等を含めて平仮名で“みどり”と呼んでいます。このような“みどり”が、既存のグリーンインフラとして多様な機能を発揮しています。



図：名古屋市のみどり

写真① 樹林地・森



- 夏の昼間でも、地表面温度が都心と比べて5℃程度低く、クールスポットとなっている。
- 生きものの生育、生息、繁殖の場となっている。希少種も存在する他、タヌキ等里山の生きものにとっても貴重。
- 都市にいながら自然観察、自然の中で散策や運動を楽しむことができ、環境教育の場にもなっている。

写真④ 農地



- 暮らしに無くてはならない食料を供給する。
- 降った雨をその場に貯めたり浸透させたりすることで、水害のリスクを低減する。

写真② 公園



- 大きなオープンスペースであり、地震や火災といった災害時の避難場所として機能する。
- 子どもの遊び、大人の健康づくり、地域の交流の場として機能する。

写真⑤ 河川



- 周囲に降った雨を、海へと運ぶ。
- 水中、水辺に生きものが生息し、人には自然観察や釣り等レクリエーションの場を提供する。
- 都市に潤いある景観を形成する。

写真③ 街路樹



- 歩道に大きな日陰をつくり、夏の酷暑を和らげる。
- 市街地の貴重な緑として、都心の生活者の心の安らぎにつながるとともに、風格ある都市景観を形成する。
- 鳥やチョウをはじめとする生きものの移動経路として機能する。

写真⑥ 干潟



- 希少種を含む多様な水辺の生きものを育んでおり、それらを餌とする渡り鳥にとっても重要な休憩地である。
- 生態系により水をきれいにする機能も担っている。

グリーンインフラの導入を進めるにあたって、グリーンインフラの機能・効果を知る必要があります。国の「グリーンインフラ推進戦略2030」に掲げられた社会課題と、本市における課題解決、都市の魅力向上の視点から、機能・効果を紹介します。

1 持続的で快適な都市・生活空間の形成

樹林地や河川から屋上緑化といったさまざまな“みどり”[※]や生きものを通じて自然とつながることは、私たちの心と体の健康を保つ働きがあります。また、環境教育や子育ての場として利用したり、そこでの活動を通じて人と人とのつながりを得られたりします。

※公園、街路樹、樹林地、農地、水面を幅広く“みどり”と表記する（P.6参照）

(1) 良好な生活環境の形成

さまざまな“みどり”は、人々が自然とつながることができる貴重な空間です。また、大気や水質を改善したり、騒音を低減したりして、都市生活における環境に起因する健康リスクを軽減します。

本市は、大都市としては空間にゆとりがあり、今後のグリーンインフラまちづくりにより魅力を高められるポテンシャルを有しています。

本市の状況～良好な生活環境の形成～

本市では、ウォーカブルなまちづくりを進めるため、めざすまちの姿や、官民が連携して取り組むための基本方針等を盛り込んだ「Nagoyaまちなかウォーカブル戦略（Nagoまち戦略）」を策定しました。

この戦略では、ウォーカブルなまちを実現するための要素としてグリーンインフラの活用を掲げています。ウォーカブルなまちなか、すなわち、ひとりひとりに居場所があり（滞在性）、そこでの出会いや交流があり（偶然性）、そうした場所が連続することで歩いてみたい（回遊性）と思えるようなまちなかの実現に向けて取り組みを進めていきます。

また、「名古屋市総合計画2028」では、「回遊性やにぎわいを面的に広げることで、多様な人々の交流を促す居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを進めていく」としています。

1 戦略策定に向けて
(1) 目指すまちの姿～戦略のねらい～

これから名古屋は、どのようなまちを目指していくのでしょうか

これまで、まちの活力向上に向けた戦略の視点として、中心市街地活性化、都市再生、コンパクトシティなどの言葉が使われてきました。

こうした視点はこれからは大切であることに変わりはありませんが、今後成熟期を迎え、多くの人が多様な価値観をもって暮らし、活動する都市において、改めて**人中心の視点**に立ち返り、その行動の受け皿となる都市空間のあり方をとらえなおすことが大切になってきています。

そのような都市において、自宅、学校や職場と通う人それぞれにとって、居心地の良い特別な場所があることが大切であり、ゆるやかなサードプレイスが求められています。

都市空間という点で、名古屋は道路・公園をはじめ原野も含めた**空の豊かさ**が特徴であることから、これらを活かして多様な人にとって、**居心地が良く歩きたくなるような人中心の場所**～ウォーカブルな空間～として再生することで、サードプレイスがあふれるようなNAGOYAを目指していきます。

自然とつながる

居心地の良い特別な場所
サードプレイスあふれる「NAGOYA」
一層心地の良さで選ばれるまちへ

4 ウォーカブルなまちを実現するための要素
④ グリーンインフラの活用

取組概要
グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハードソフト両面において自然環境の持つ多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを築く仕組み。
※住居の住居・住居の確保、良好な景観形成、気候上層の創出等

●グリーンインフラの創
・ 生物多様性に配慮した緑化
・ 雨庭
・ レインフォレストの創出
・ 透水性舗装と樹木を植える歩道づくり

●創出できる効果
コミュニティの形成
レクリエーションの場の形成
美しい景観の形成
健康の促進
環境教育
生物の生息・生育環境の確保
温室効果ガスの吸収
ヒートアイランド現象の緩和
雨水の流出抑制
騒音・大気汚染等の公害防止
など

wellbeingの向上 生物多様性の向上 気候変動対策

地域の価値向上

グリーンインフラを創り出したまちのイメージ

図：「Nagoyaまちなかウォーカブル戦略（令和7年度版）」より抜粋

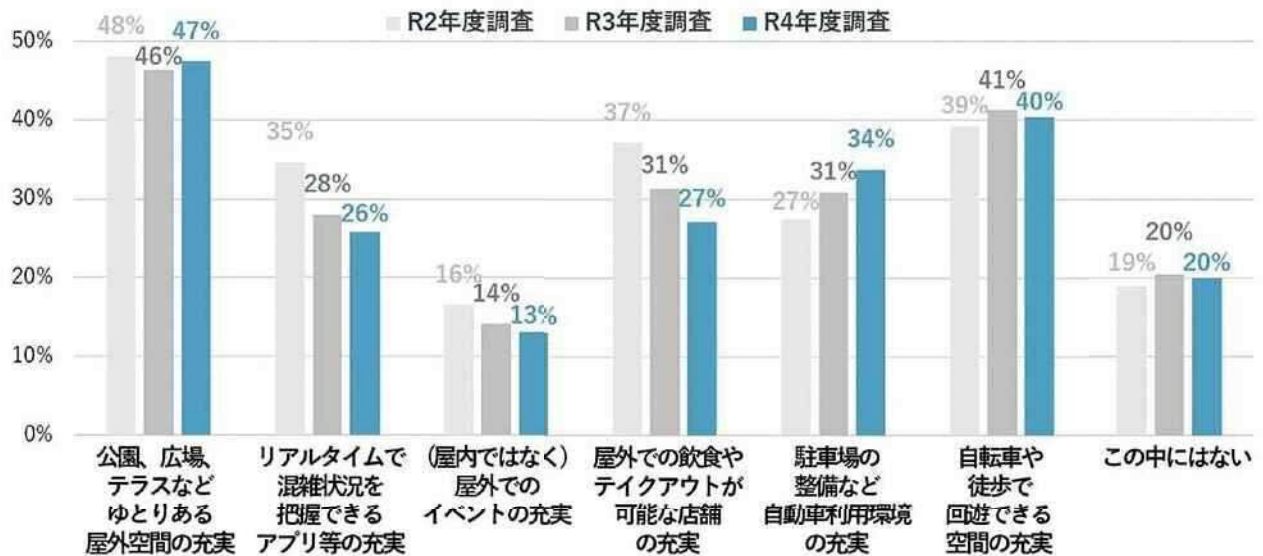
出典：「Nagoyaまちなかウォーカブル戦略（令和7年度版）」（令和6（2024）年3月策定）

事例～ゆとりのある屋外空間を求めるニーズ～

国土交通省は令和2～4年度、「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活行動調査」を実施しました。
 (調査方法：調査会社を通じたWebアンケート、回収数：各年度とも約13,000件)

グラフは「都心や中心市街地等、人が集まる街なかにおいて、どのような取り組みを充実すべきだと思いますか(複数回答可)」に対する回答の推移です。

人々の活動場所の傾向が新型コロナウイルス流行前に概ね戻ってきていることが確認された令和4年度調査においても、他の期間と同様、「ゆとりある屋外空間の充実」や「自転車や徒歩で回遊できる空間の充実」へのニーズが高い結果となっています。



図：都市空間に対する意識

出典：国土交通省都市局都市計画課（2023.5.30報道発表資料）、新型コロナウイルス感染症の影響下における生活行動調査（第三弾）～人々の活動場所が新型コロナウイルス流行前に戻ってきていることを確認～

効果の見える化～樹木による空気の浄化～



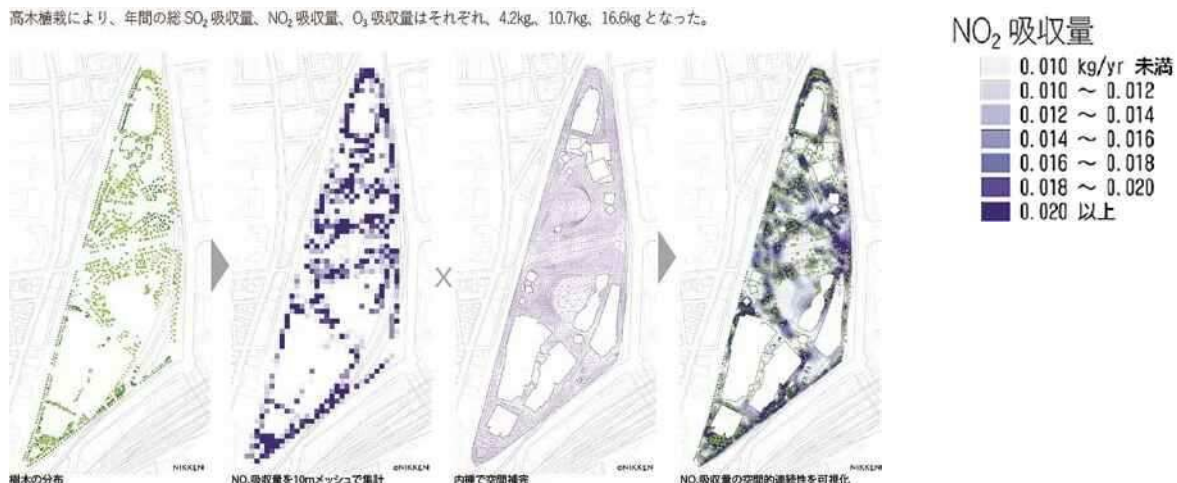
図：グラングリーン大阪

JR大阪駅の北側に整備が進む「グラングリーン大阪」（うめきた2期地区）は、都心部では貴重な緑地空間です。株式会社日建設計では、その環境価値（温室効果ガス削減、空気の浄化、温熱環境の改善、生物多様性促進、雨水流出抑制）を可視化・定量化する「みどりのものさし」を策定しました。ここでは、樹木による空気の浄化機能をご紹介します。

大部分の植物は、CO₂を固定するとともに大気汚染物質（NO₂やSO₂、O₃）を吸着・吸収しており、生育に支障のない範囲であれば、汚染濃度が高いほど吸着・吸収量が増えると報告されています。「グラングリーン大阪」内の高木植栽によるNO₂吸収量は10.7kg/年と算定され、乗用車が地球約3.1周分走行^{*}して排出するNO₂量に相当します。

^{*}40km/h走行時のNO_x排出量原単位0.086g/km（普通車、小型車、大型特殊自動車の全国平均）を用いて算出

高木植栽により、年間の総SO₂吸収量、NO₂吸収量、O₃吸収量はそれぞれ、4.2kg、10.7kg、16.6kgとなった。



^{*}内挿で空間補充：メッシュ単位のデータから、分布を計算して予測し、ヒートマップ化

図：敷地全体の汚染物質の吸収量の可視化

出典：株式会社日建設計（2024.7.17）、緑の環境価値を評価・可視化する「みどりのものさし」
 一般財団法人日本自動車研究所（2014.3）、自動車排出ガス対策関係のガイドライン
 独立行政法人環境再生保全機構（2015.1）、大気浄化植樹マニュアル（2014年度改訂版）

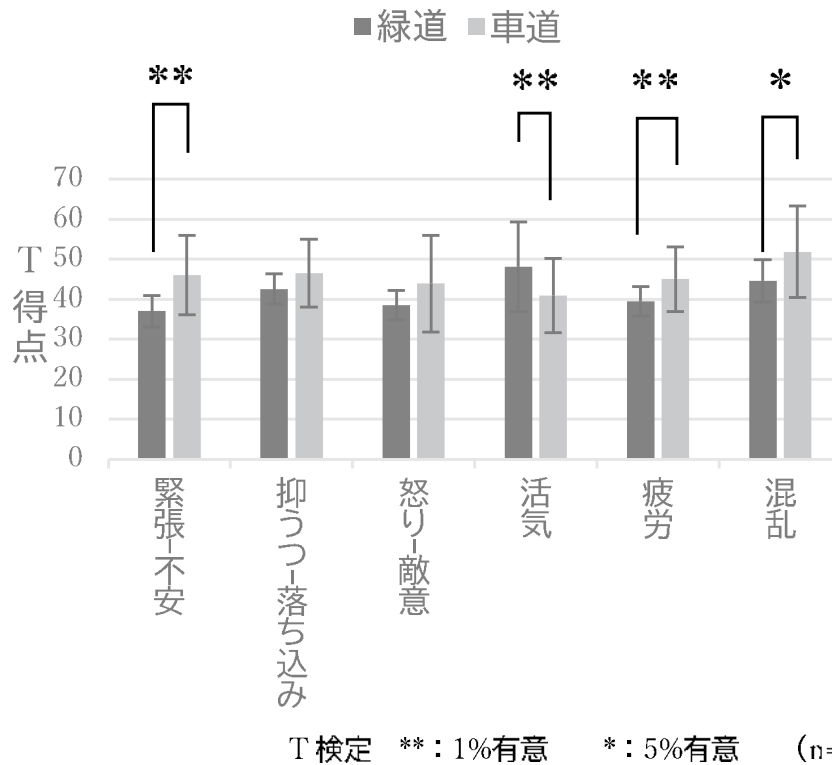
(2) 身体的・精神的な健康の増進

樹林地や河川、まちなかの“みどり”や生きものとの関わり等は、人々の心にうるおいや安らぎ、癒しをもたらしたり、散歩やスポーツ等運動の場を提供するといった、心身両面での健康を増進します。

事例～健康福祉施策のゼロ次予防としてのグリーンインフラ～

医療保健・公衆衛生分野における予防医学では、生活習慣の改善に取り組む一次予防、早期発見・早期対応に取り組む二次予防、再発防止や重症化防止に取り組む三次予防が位置付けられています。近年、患者本人ではなく環境側を変化させることで病気のリスクを低減する「ゼロ次予防」も提唱されており、この観点からグリーンインフラは医学的にも注目されています。

千葉大の岩崎教授は、2010年12月に北総花の丘公園（千葉県印西市）で、20代の男女14名を対象にウォーキングコースの種類による心理的効果の違いを比較し、緑の多い空間におけるウォーキングの効果を検証しています。公園内の緑道と隣を並行するアスファルト舗装の車道を15分間ウォーキングし、終了後にPOMS（Profile of Mood States：気分プロフィール検査。人の感情を定量化する65問のテスト）を実施したところ、緑道は、車道に比べ落ち着いて、安心して、楽しみながら歩けること、さらに緑道の方が「疲れにくい」と感じることを示されました。



図：緑道と車道におけるPOMSの結果

出典：増田悠希・岩崎寛（2011），緑地におけるウォーキングの心理的効果に関する基礎的研究，日本緑化工学会誌，37(1)，249-252

岩崎寛（2023），みどりの処方箋－ヒーリング時代の緑の使い方－，株式会社グリーン情報，152-154

また、千葉東金道路の野呂パーキングエリア（PA）では、利用者が意識せずとも自然の恩恵を受けられるよう、駐車場から建屋に至る主要な動線上にグリーンインフラを配置しました。さらに、芝生で覆われた座りやすい高さの盛り土「レイズドローン（raised lawn）^{*}」を整備しました。

休憩前後でPA利用者のPOMSの結果を比較したところ、「怒り・敵意」「混乱」「抑うつ・落ち込み」「疲労」「緊張・不安」の低減が認められ、特に「怒り・敵意」「混乱」「抑うつ・落ち込み」については、グリーンインフラ整備前には見られなかった低減効果が確認されました。休憩による運転時のストレス軽減や安全運転への寄与が期待されます。



図：利用者の動線上に配置されたみどり



図：レイズドローン

出典：岩崎寛（2024.9.23）、公開シンポジウム「ウォークブルなまちを評価する」～居心地の良いまちを目指して～発表資料

厚生労働省は、国民の健康増進の総合的な推進を図るための基本的な方針である「健康日本21」を定め、全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現を目指しています。「健康日本21（第三次）」（令和6（2024）年度～）から加わった新たな視点の1つとして「自然に健康になれる環境づくり」があります。健康づくりに積極的な方だけでなく、関心の薄い方も含む幅広い層に対してアプローチするために、本人が無理なく自然に健康な行動を取ることができる環境の整備を掲げています。

出典：厚生労働省健康・生活衛生局健康課（2023.10.20）、健康日本21（第三次）の概要

※レイズドローン（raised lawn）

レイズドローンは、車椅子ユーザーや高齢者でも簡単に座ったり寝転んだりできるユニバーサルデザインの芝生地となっている。同じ発想で、車椅子ユーザーや高齢者でも草花を楽しむよう底上げされた高床式花壇「レイズドベッド（raised bed）」がある。



図：千葉県千葉市花園公園のレイズドベッド



図：東京都多摩市オーガニック・エディブル・コミュニティガーデン多摩のレイズドベッド

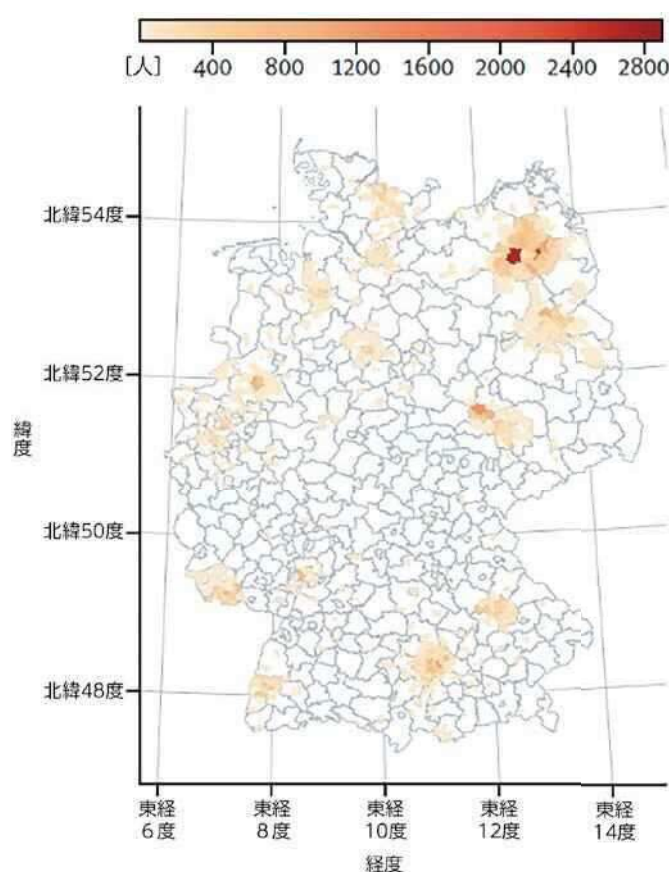
出典：公益財団法人都市緑化機構・一般社団法人第一生命財団（2022.3.15）、第31回緑の環境プラン大賞受賞作品集

効果の見える化～鳥類の多様性がもたらす心の健康～

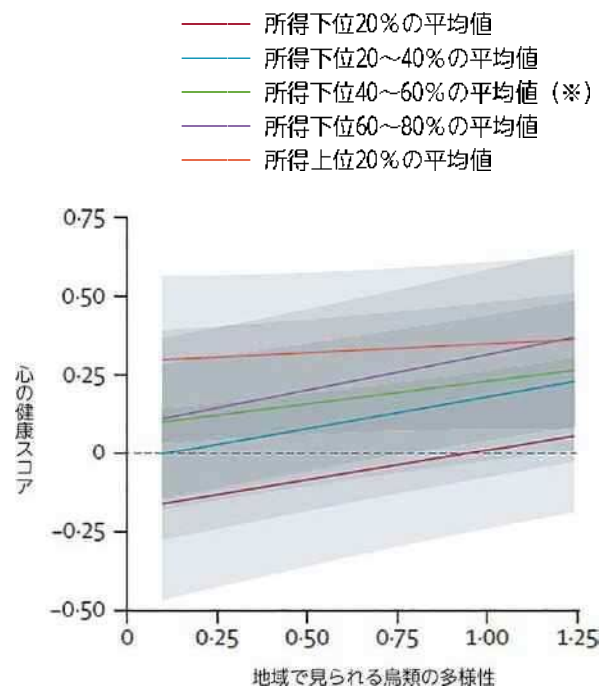
平成28（2016）～令和元（2019）年の鳥の観察記録と住民の健康診断のデータを分析し、鳥類の多様性と住民の心の健康との関係性を調査した研究があります。

研究には2つの調査を活用しており、1つめはNGOドイツ自然保護連合（NABU）が、春先と夏の年2回、ドイツ国内の郵便番号エリアごとに、観測された鳥の種類を記録した調査です。2つめは連邦研究所や大学等で構成される団体が研究目的で実施する、ドイツ最大規模の健康調査であるドイツ国民コホート調査（NAKO）です。この調査は年齢や性別が偏らないよう無作為抽出した被験者（19～74歳）を対象に、ドイツ国内18箇所のNAKO研究センター（都市部だけでなく人口密度の低い農村部にも設置）で継続的な健康調査を実施し、20万人以上の健康調査結果を収集しています。

この2つの調査結果を用いて、郵便番号エリアごとに地域性の影響を排除した分析を行ったところ、地域で見られる鳥類の多様性と、健康調査で計測された心の健康スコア（MCS）に正の相関があることが分かりました。このことから、鳥類の多様性が人のメンタルヘルスにプラスの影響を与える可能性が示されました。



図：郵便番号エリア別NAKO参加者数



図：心の健康スコアと鳥類の多様性の関係
※所得の違いによる心の健康スコアへの影響を排除するため、所得別に調査し、とりまとめた。

出典：Methorst, Joel. "Positive relationship between bird diversity and human mental health: an analysis of repeated cross-sectional data", Lancet Planet Health. 2024 May; 8(5):e285-e296.

(3) 子育て・教育

まちなかにおける子どもの遊び場は、子どもを生み育てやすく、子育てをしながら働くことのできる環境を整えます。また、子どもが豊かな自然に接し、遊んだり学んだりする機会を提供することは、次世代を担う子どもたちの健全な育成につながります。

効果の見える化～自然とのふれあいが育む人間関係能力や共生感～

人間形成に必要な資質・能力（ここでは「体験の力」という）は、子どもの頃の体験を通して身につけられると言われています。

国立青少年教育振興機構は、20代～60代の計5,000名（各年代の男女各500名）にアンケート調査を実施し、子どもの頃の体験6項目と、成人期に身につけている「体験の力」7項目の関係を分析し、その結果、子どもの頃の各種の体験と関係の深い「体験の力」が明らかになりました。

このうち、子どもの頃の**自然体験**（海や川での魚釣り、湧き水や川の水を飲んだこと等）については特に成人期の**人間関係能力**（友達を仲直りさせることができる、初対面の人とも話ができる等）を、**動植物との関わり**（米や野菜の収穫、昆虫の捕獲等）については特に成人期の**共生感**（自然の中で過ごすことが好き、悲しい体験の話を聞くとつらくなる等）と関係が深いという分析結果でした。また、特に**小学校低学年**での**動植物とのかかわり**が、幅広い「体験の力」と関係しているとの結果が示されました。

表：年齢別「体験の力」との関連がみられる体験

体験の力	年齢期			
	小学校に通う前	小学校低学年	小学校高学年	中学校
自尊感情			地域活動	地域活動 家族行事
共生感		友だちとの遊び 動植物とのかかわり	地域活動	自然体験 地域活動 家族行事
意欲・関心		友だちとの遊び	自然体験	自然体験 地域活動
規範意識	友だちとの遊び	友だちとの遊び 動植物とのかかわり 家族行事	友だちとの遊び 家事手伝い	家族行事 家事手伝い
職業意識	友だちとの遊び	動植物とのかかわり		家族行事 家事手伝い
人間関係能力	自然体験	友だちとの遊び 動植物とのかかわり 家事手伝い	地域活動	友だちとの遊び 地域活動 家族行事 家事手伝い
文化的作法・教養		動植物とのかかわり		地域活動 家族行事 家事手伝い

※報告書P.104の表に着色して作成

出典：国立青少年教育振興機構（2010）「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書

(4) コミュニティ形成

自然のある空間を継続的に利用できることにより、住民の交流の促進、コミュニティの形成等につながります。

事例～現代のまちの雑木林「まちのみどりを、自分たちの手で」～

近年、都市の緑地空間を共有の財産として住民達自身が管理することで、社会課題を解決する国内外の事例が注目されています。

東京都世田谷区の下北沢地域には、東北沢駅～世田谷代田駅間の小田急線地下化後の線路跡地に生まれた約1.7kmに及ぶ「下北線路街」という緑道に、「シモキタのはら広場」があります。地域内外の人々が植物と関わり、活用し、日々の暮らしを成り立たせていく「現代のまちの雑木林」というシモキタのはら広場のコンセプトの下、シモキタ園藝部が発足し、2021（令和3）年8月に一般社団法人化しました。

シモキタ園藝部では、植物の循環に寄り添い、自然を自分たちの手で育て、自然の恵みを活かし、土に還し、また循環させる活動を展開しています。近隣住民や子どもたちが参加した種まきワークショップ、養生中の草が茂った広場内を子どもたちが遊びまわることによる自然な通路の配置、広場の植栽の手入れ、植栽管理の技術や観察眼を学ぶ園藝学校や自然に親しむイベント、育てきれなくなった植物の新しい引き取り手を探す「古樹屋」、広場で刈った雑草や周辺の飲食店から出たコーヒー粕等を活用したコンポスト事業、広場で採れた野花のお茶や近隣建物の屋上で養蜂したハチミツの販売等「循環」をキーワードとした活動を行っています。



図：シモキタ園藝部が目指す循環のかたち



図：シモキタのはら広場



図：種まきワークショップの様子

出典：二浦倫平（2025）ソーシャル・イノベーションとしての都市緑地の commons 化—シモキタ園藝部を事例として、都市社会研究、第17号、55-75

一般社団法人シモキタ園藝部、シモキタ園藝部公式サイト (<https://shimokita-engei.jp/>) (2026.2.18アクセス)

2 治水・水循環※（雨水の貯留・浸透・蒸発散）

降った雨は、低い方に流れて川や下水道へと集まりますが、一気に集まりすぎると、あふれて水害となります。樹林地や農地、ため池、建物敷地の雨水貯留浸透施設、緑化等は、降った雨をその場に留め、水害リスクを低減する働きがあります。また、地中に浸み込んだ雨は、草木を潤したり、地下水や湧き水となったりして、それぞれの機能を発揮します。

※水循環

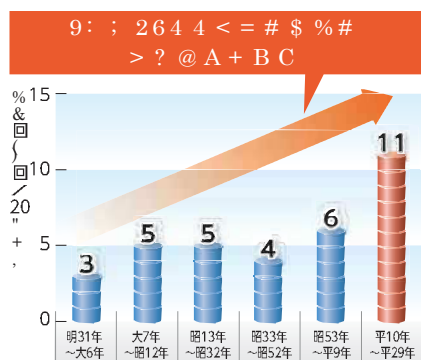
「水が気体・液体・固体と姿を変えながら地球をめぐること」です。詳細は「水の環復活なごや戦略実行計画2030」を参照ください。

本市の状況～雨水流出抑制～

本市では、河川改修や雨水貯留施設等の整備によって浸水に対する安全性は一定の向上が図られました。しかし、気候変動により雨の降り方は激しさを増しており、1時間50mmを超える大雨の発生回数が増加傾向、1時間100mmを超える豪雨も発生しており、こうした豪雨には、行政によるハード整備のみで対応することは困難です。

水害には、流域の大雨等を原因として河川流量が異常に増加し、堤防の決壊や河川の水が堤防を越えることによる「洪水」と、市域において下水道等の排水能力を超える雨が降ったり、排水先の河川の水位が高くなったりする等して、雨水が排水できなくなることによる「内水氾濫」があります。

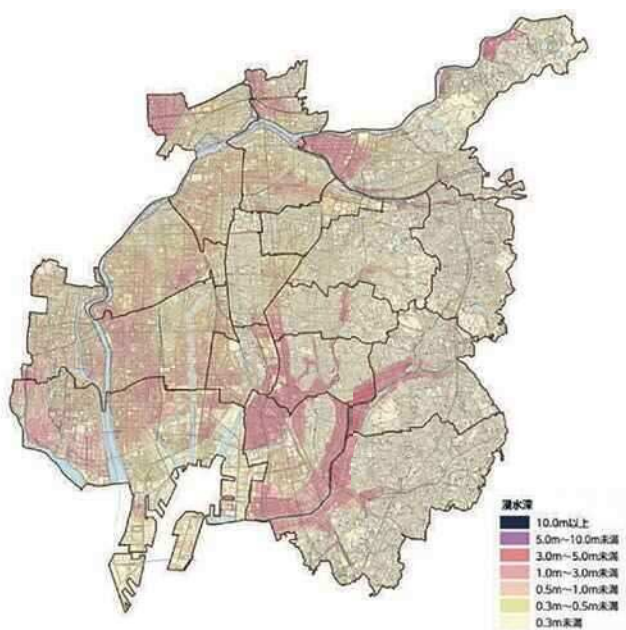
このうち主に「内水氾濫」について、市域における緑地や農地の減少、舗装面等人工被覆面の拡大等による雨水の貯留・浸透量減少がリスクの増大に関係しています。



図：名古屋地方気象台における1時間50mmを超える降雨の発生状況

表：近年、市内で発生した1時間100mm前後の降雨

年月日	1時間最大雨量	雨量観測区
平成25年9月4日	111.0mm	中川区
平成26年8月6日	104.5mm	守山区
平成28年8月2日	85.5mm	中村区
平成29年7月12日	106.5mm	東区



図：内水氾濫ハザードマップ

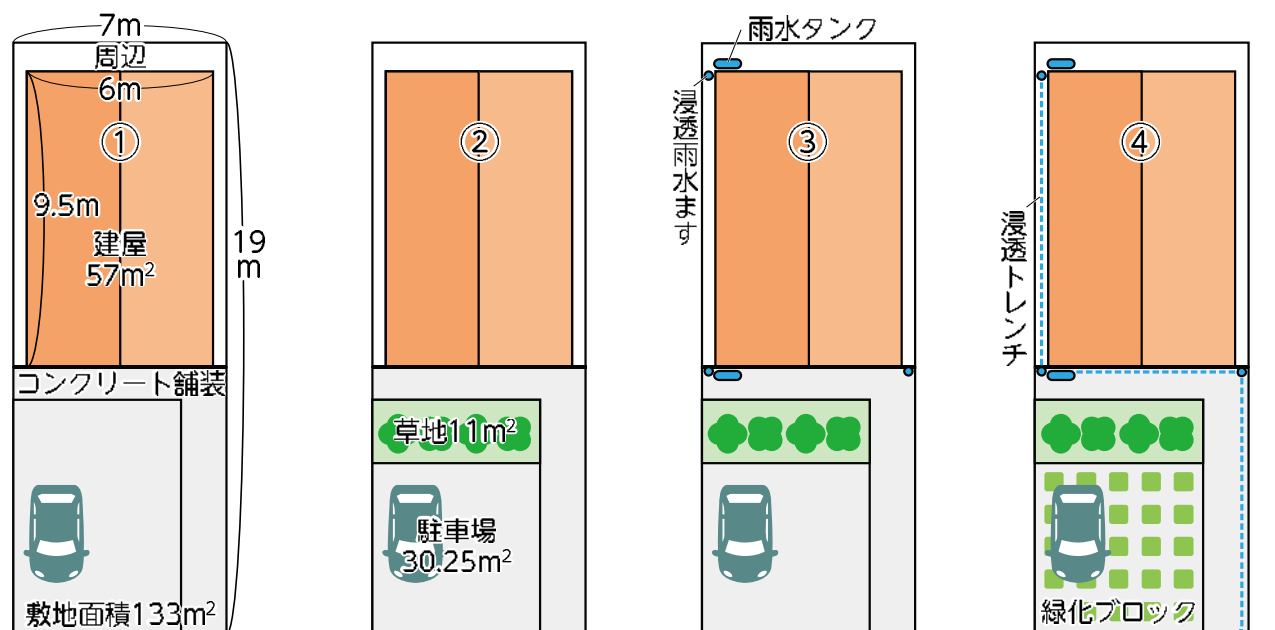
効果の見える化～グリーンインフラによる雨水流出抑制 （「名古屋市雨水流出抑制施設設計指針」による試算）～

本市では、「名古屋市雨水流出抑制実施要綱」および「名古屋市雨水流出抑制施設設計指針」（以下、「指針」という。）に基づき、敷地面積（自然浸透や蒸発散に資する緑化された部分を除く）100㎡あたり4㎡の「貯留浸透施設」の設置を進めています。



ここでいう「貯留浸透施設」は、「校庭」「建物」等土地本来の機能を確保しながら設置でき、雨が降ったその場所で貯留・浸透することで敷地外への流出を少なくするもので、敷地内の地下に設ける貯留槽等とともに、グリーンインフラの要素技術である透水性舗装、浸透雨水ます、浸透トレンチ等が該当します。

宅地における、こうした技術の導入効果を、指針に基づき算出してみます。



①の宅地
コンクリート舗装等により
全面不浸透

（目標量）
5.32m³

（貯留浸透量）
0m³

→目標量未達



②の宅地
①の宅地の庭を一部を緑化

（目標量）
※草地は集水面積から除外
4.88m³

（貯留浸透量）
0m³

→目標量未達



③の宅地
②の宅地に浸透雨水ますと
雨水タンクを設置

（目標量）
※草地は集水面積から除外
4.88m³

（貯留浸透量）
1.51m³

→目標量未達



④の宅地
③の宅地に浸透トレンチを
設置、駐車場を緑化ブロッ
クとした

（目標量）
※草地は集水面積から除外
4.08m³

（貯留浸透量）
6.79m³

→目標量達成



このように、グリーンインフラを導入することで、宅地等から流出する雨水の量を削減できます。目標値を達成できることが理想ですが、まずは、可能なものから取り入れていきましょう。

（参考） 計算式

- ①の宅地…目標量は $133\text{m}^2 \times 4\text{m}^3/100\text{m}^2 = 5.32\text{m}^3$ で、貯留浸透量はゼロです。
- ②の宅地…草地は自然浸透及び蒸発散するため集水面積から除外し、目標量は $(133\text{m}^2 - 11\text{m}^2) \times 4\text{m}^3/100\text{m}^2 = 4.88\text{m}^3$ で、貯留浸透量はゼロです。
- ③の宅地…目標量は②と同様4.88m³です。貯留浸透量は、浸透雨水ますによる0.37m³（指針における標準値）× 3個=1.11m³と、雨水タンクによる0.2m³× 2個=0.4m³の合計1.51m³です。
- ④の宅地…③の宅地に加え、駐車場（30.25m²）を緑化ブロック（緑化率66%、緑化部分19.97m²）とし、目標量は $(133\text{m}^2 - 11\text{m}^2 - 19.97\text{m}^2) \times 4\text{m}^3/100\text{m}^2 = 4.08\text{m}^3$ です。貯留浸透量は、浸透トレンチによる0.22m³/m（指針における標準値）× 24m=5.28m³を加えて6.79m³であり、目標量を上回ります。

3 暑熱緩和

植物や水面は、緑陰をつくったり、水を蒸発散させたりすることで、暑さを和らげる働きがあります。

本市の状況～暑熱緩和～

本市は、日本の大都市の中でも有数の暑さであり、更に地球温暖化の影響等により、年々気温が上昇しています。暑さの指標は様々ありますが、国内の都市（人口100万人以上）で近年の値を比較すると、猛暑日（最高気温が35℃以上となる日）日数は京都に次いで多く、8月の最高気温は最も高くなっています。こうした過酷な状況下で熱中症による搬送数も増加しており、暑熱対策の重要性が増しています。



気象台・気象観測所をもとに集計
川崎は市内に気象台・気象観測所がない
出典：気象庁データからグラフ化

図：国内の100万人都市の猛暑日日数
（令和3（2021）～令和7（2025）年）

図：国内の100万人都市の8月の最高気温
（令和3（2021）～令和7（2025）年）

毎年実施している市政世論調査アンケート（18歳以上の市民を対象）でも、「名古屋市の悪いところ」のワースト1位が、ここ9年連続で「夏が蒸し暑い」となっています。まちづくりにおける暑熱対策は、本市の魅力にも関係する重要な課題です。



※選択肢は年度により異なる

出典：名古屋市政世論調査（第61回、第64回）からグラフ化

図：市民が考える名古屋市の悪いところ上位3項目（平成29（2017）年度～令和7（2025）年度）

事例～暑熱緩和のため樹冠被覆率の目標を設定～

オーストラリアのメルボルン市では、異常な暑さにより深刻な干ばつと水不足が発生し、平成7(1995)年～平成21(2009)年にかけて、何百人もの命が失われました。被害を受けた同市は、気温を4℃低下させる目標を掲げ、目標達成の手段として、樹冠被覆率の増加や都市の透水機能向上、雨水収集ネットワークの拡大、緑地の拡大を設定しました。樹冠被覆率^{※1}については、2040年までに22%から40%に倍増させる目標^{※2}を掲げ、年間3,000本以上の植樹に取り組んでいます。



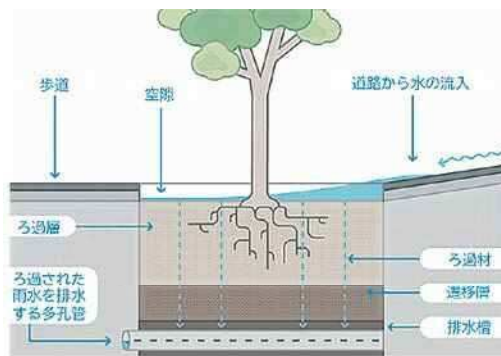
図：植樹の状況 (Central city)^{※3}



図：メルボルン市内の樹冠被覆率と植樹の状況 (2012～2024年)^{※4}



図：メルボルン市の樹冠分布^{※5}



図：雨庭植栽ピット^{※6}



※1：樹冠被覆率：樹木を真上から見たときに、枝葉（樹冠）が地表を覆っている割合

※2：メルボルン市 (2011.1.9), Urban Forest Strategy 2012-2032

※3：メルボルン市 (2024.12.30), Urban Forest Precinct Plan 2025-35 Central City, P.16

※4：メルボルン市公式サイト, 都市森林地区計画 (<https://www.melbourne.vic.gov.au/urban-forest-precinct-plans>) (2026.2.18アクセス) 一部翻訳

※5：メルボルン市公式サイト, Heatwaves (<https://www.melbourne.vic.gov.au/heatwaves>) (2026.2.18アクセス) 一部翻訳

※6：メルボルン市公式サイト, Rainwater tree pits (<https://www.melbourne.vic.gov.au/raingarden-tree-pits>) (2026.2.18アクセス) 一部翻訳

また、同市は平成30(2018)年には、2050年の温室効果ガス排出量をゼロにすることを目指し、「気候変動緩和戦略2050 (Climate Change Mitigation Strategy 2050)」を策定し、優先的戦略として、100%再生可能エネルギー及びゼロエミッション建築物・街区・輸送の実現、廃棄物の削減を掲げています。

同市では、こうした取り組みの一環として、屋上緑化や雨庭、透水性舗装等、水環境配慮型都市設計 (WSUD; Water Sensitive Urban Design) を進めています。その1つである雨庭植栽ピットは、雨水を利用した街路樹の健康を保つ小さな雨庭で、縁石に沿って設置され、道路や歩道から流れてきた雨水を木の周囲の空隙に滞留させ、土壌により浄化して排水管に流します。

出典：国土交通省都市局都市環境課 (2024.10.4), まちづくり×カーボンニュートラル～世界の潮流と日本における政策動向～, GX Creation Meeting 都市と緑とカーボンニュートラル×世界の都市政策の最前線 第1回「カーボンニュートラルに向けて変わっていく世界の都市」配布資料

メルボルン市公式サイト, Cooling our city (<https://www.melbourne.vic.gov.au/cooling-our-city>) (2026.2.16アクセス)

効果の見える化～暑熱のリスクから逃げられるいい日陰とは～

サントリー食品インターナショナル株式会社と株式会社ウェザーマップは、武蔵野大の三坂育正教授監修のもと、地面の照り返しの影響差等により、子どもの高さで計測した温度が大人より高くなる「こども気温」のような、子ども特有の暑熱のリスクから逃げられる「いい日陰」の条件を検証する共同実験を行っています。実験では、子どもたちの遊び場である公園内のさまざまな「日陰」の暑さ指数（WBGT）を、子どもの高さで測定・比較しています。

[検証実験概要]

- ・日時：令和7（2025）年6月30日（月）11:45～14:10
- ・場所：猿江恩賜公園（東京都江東区）
- ・天気：晴後薄曇（はれのちうすぐもり）、東京都心の最高気温33.2℃
- ・概要：公園内の日陰4カ所と日向1カ所にて、各地点の暑さ指数（WBGT）を黒球式熱中症指数計で計測しました。熱中症指数計は、子どもの熱中症リスク軽減につながるような「いい日陰」の条件を検証する目的で、子どもの胸の高さとして地面から80cmの高さに設置し、また、各地点の表面温度について、赤外線サーモグラフィーにて撮影しました。

最も暑さ指数が低かったのは「⑤大きなイチヨウの木陰」で、最も暑さ指数が高かった「①広場中央の日向」と比べると、4.2℃も低くなりました。大きなイチヨウが立ち並び、木陰が重なり合うことで日陰が大きく、濃く、長時間保たれたことや、植物の蒸散（葉から水分が蒸発する際の気化熱で周囲の空気や植物自体の温度を下げる）効果が要因と考えられ、大木等の自然物による暑熱リスク低減効果が期待されます。

また、「③芝生のそばの木陰」「④建物のそばの木陰」「⑤大きなイチヨウの木陰」といった「木陰」の暑さ指数が比較的低いのは、放射熱が弱い自然物に周囲を囲まれていることが要因と考えられます。

中でも「④建物のそばの木陰」「⑤大きなイチヨウの木陰」の暑さ指数が低かったのは、大きな日陰により地面からの放射熱が弱まったことが要因と考えられます。

日陰の中で最も暑さ指数が高い「②遊具の下の小さな日陰」の暑さ指数は、「⑤大きなイチヨウの木陰」より2.9℃も高くなりました。これは、地面の砂や小石、遊具自体からの放射熱の影響と考えられ、一口に日陰と言っても、条件により熱中症警戒レベルの区分が変わるほど、良し悪しがあることが明らかとなりました。

出典：サントリー食品インターナショナル株式会社（2025.7.9）、大人の+7℃にもなる「こども気温」から逃げよう！暑い夏、子どもにとって「いい日陰」は熱中症警戒レベルが1段階下がる
<https://www.suntory.co.jp/softdrink/news/pr/article/SBF1594.html>（2026.2.6アクセス）

表：検証結果

測定場所	写真	サーモグラフィー	暑さ指数/ WBGT(°C)	測定場所の環境
① 広場中央の日向			31.2 (危険)	【日陰の特徴】日陰がない直射日光下 【地面】砂・小石 【周囲の状況】近くに木などの植物がない
② 遊具の下の小さな日陰			29.9 (嚴重警戒)	【日陰の特徴】小さい日陰 【地面】砂・弾性舗装 【周囲の状況】金属製のアスレチック型の遊具が頭上にある
③ 芝生のそばの木陰			28.3 (嚴重警戒)	【日陰の特徴】木漏れ日もある小さくて薄い日陰 【地面】芝生 【周囲の状況】芝生と生け垣、桜の木に囲まれ、自然が多い
④ 建物のそばの木陰			27.5 (警戒)	【日陰の特徴】濃い日陰 【地面】タイル舗装 【周囲の状況】樹木に囲まれた大きな建物のそば。建物の外壁に直射日光はほぼ当たっていない
⑤ 大きなイチヨウの木陰			27.0 (警戒)	【日陰の特徴】濃くて大きな日陰 【地面】芝生よりも丈のある草、ひんやりした土 【周囲の状況】大きな野原が広がり、イチヨウ並木がある

※暑さ指数の計測結果は、計測時間内で日向の暑さ指数の5分間の平均値が最も高くなった、11:53～11:58の値

4 生物多様性の確保

地球上には様々な自然の中に、長い歴史の中でそれぞれの環境に適応して進化した多様な生きものが存在し、相互につながり、支えあって生きています。

まちなかに“みどり”を取り入れることにより、樹林地や河川といったまとまった“みどり”とのネットワークができ、チョウや鳥といった生きものがやってくる等自然が回復します。また、私たち人間は、生きものとのふれあいを通じて生きものに関心を持ち、地球規模の課題である生物多様性の保全に役立つ行動ができるようになります。

本市の状況～生物多様性が支えていることと生物多様性に影響を与える私たちの暮らし～

生物多様性は、それ自体がかけがえのないものであると同時に、食料や薬の供給等「生態系サービス」により、私たちの暮らしを支えています。

生物多様性の恵みがなければ、私たちは生きていくことができません。また、一方で私たちは世界中の生物多様性に依存し、影響を与えています。

【生物多様性に依存している例】

- ・20億人を超える人々が1次エネルギーを木質燃料に依存
- ・推計40億人が医療・健康のために主に自然由来の薬を利用
- ・がん治療薬のおよそ70%は自然由来または自然界から着想を得た合成製品
- ・果物と野菜、コーヒー、カカオ豆、アーモンドなど世界の食料作物の種類のうち75%以上は動物による花粉媒介に依存
- ・海域と陸域の生態系は人類が排出する炭素の唯一の吸収源であり、その量は年間56億トン（世界全体の人為的排出量のおよそ60%に相当）

出典：環境省（2020.3）、IPBES生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書 政策決定者向け要約



図：私たちの生活が世界に与える影響

本市内の生物多様性の取り組み



ベニシジミ



ハラビロカマキリ



図：葉っぱで遊ぶ子どもたち



ヒメボタル

図：まちなかに来る生きものの様子

図：名古屋城周辺に生息する生きもの

効果の見える化

～グラングリーン大阪における「生物多様性の促進」の取り組み～

株式会社日建設計は、先行研究を調査し、緑が持つ環境価値に関する5つの指標^{*1}「みどりのものさし」を策定しました。これを用いて、JR大阪駅北側の再開発である「うめきたプロジェクト^{*2}」で整備される「グラングリーン大阪」の環境価値の数値化やビジュアル化に取り組みました。

このうち「生物多様性の促進」については、生態系ピラミッドの高次捕食者であるシジュウカラに注目しました。シジュウカラは半径200mの円内を飛び回って生活しているとの既往研究^{*3}を参考に、ある点における半径200m圏内の「樹林率^{*4}」が、グラングリーン大阪の整備前後でどのように変化するかを調べました。その結果、グラングリーン大阪から半径200m圏内の樹林率が、従前の3%前後から最大12%に向上することがわかりました。



図：シジュウカラ
出典：なごや生きものライブラリー
(撮影者 H.H 様)

既往研究によると、シジュウカラの安定的な生育には樹林率32%が必要ですが、近くに生息地があれば高い確率で見られる傾向があり、樹林率11.5%以上の地域が連続していればシジュウカラが高い確率で生育するとみられると述べられています。シジュウカラ等の樹上性鳥類等が安定的に移動しやすくなる緑地のネットワークが形成されることにより、高次捕食者であるシジュウカラの生育環境が整い、都市における生物多様性が促進されることがわかりました。

- *1 5つの指標：①温室効果ガスの削減 ②樹木による空気の浄化 ③温熱環境の改善 ④生物多様性の促進 ⑤雨水流出の抑制
- *2 うめきたプロジェクト：旧梅田貨物駅にあたる約24haの区域の再開発で、先行開発区域（グランフロント大阪）と2期区域（グラングリーン大阪）からなる。グラングリーン大阪は令和6（2024）年にうめきた公園のサウスパーク等が先行でまちびらきし、公園全体の開園は令和9（2027）年頃を予定している。
- *3 橋本啓史・夏原由博（2018），ロジスティック回帰をもちいた都市におけるシジュウカラの生息環境適合度モデル，ランドスケープ研究，81(5)，695-698
- *4 樹林による緑被地の面積割合

グラングリーン大阪が整備されることにより、都市内に「飛び石」状に点在する緑地を効率よく利用して生活することが知られているシジュウカラのような樹上性鳥類が容易に移動できると考えられる樹林率10%以上のエリアが多く出現されることが確認された。



図：シジュウカラの行動範囲からみた樹林の潜在的なネットワーク

出典：株式会社日建設計（2024.7.17），緑の環境価値を評価・可視化する「みどりのものさし」

5 防災・減災

公園等のオープンスペースは、災害時の避難場所や避難路、復旧・復興の拠点として役立ちます。また、こうした空間や耐火性のある樹木は、火災での燃え広がりを防ぎます。

事例～オープンスペースの防災拠点としての活用～

東京都豊島区では、災害対策本部が置かれる区庁舎と特定緊急輸送街路となる春日通りの中間に、一時避難場所及び救援物資集積拠点等の防災拠点となる「としまみどりの防災公園 (IKE・SUNPARK)」を整備しました。

防災拠点及びまちづくりの核として、平常時と災害時の2つのフェーズで有効となる緑空間の持つ多機能性を最大限に引き出す公園整備と、人、モノ、公園、まちを育てる持続可能な仕組みづくりにより、地域の賑わいと防災力を高めることを目的としています。

防火樹林帯には耐火力のあるシラカシを列植したうえで、季節の彩りのあるイロハモミジやサクラといった既存樹の移植、実がなり野鳥を呼ぶザクロ、ヒメリンゴ等を配植し、散策エリアとして楽しめる植栽空間となっています。



防火樹林帯
防火樹林帯の奥には住宅街が広がっている。手前には盛土があり、非常時の指示台となる。



かまどベンチ
かまどが収納されているベンチ



芝生広場
普段は近隣の子どもたちの遊び場となっている。通路により区切られており、子どもたちが安全に遊べる工夫がなされている。



コミュニティガーデン
ボランティアと協働での維持管理がなされている花壇

出典：イケ・サンパーク [https://ikesunpark.jp/about/] (2026.2.4アクセス)

国土交通省グリーンインフラ大賞 [https://gi-platform.com/archive/award_result] (2026.2.4アクセス)

事例～オープンスペースによる火災の焼け止まり～

大国公園（神戸市長田区）は、平成7（1995）年の阪神淡路大震災発生時に大規模火災の焼け止まりとなり、延焼防止に貢献しました。

同公園は、4m道路を隔てて焼失地域に接しており、避難地や消火・救助活動の拠点としても機能したとされています。



図：阪神淡路大震災時の大国公園

公園の外郭沿いには、クスノキを主とする樹木が30本近く植栽されており、水分を含んだ樹木が「水の壁」になった上、オープンスペースが延焼を食い止めました。

出典：国土交通省都市局公園緑地・景觀課「ストック効果向上にむけた取組 事例集」

ちょっとPR 防災の工夫を施した公園の事例

若宮大通や久屋大通公園は、第二次世界大戦の教訓をもとに、防火帯としての役割を期待して整備されました。

本市を含むエリアでは、今後、南海トラフ地震等、大きな災害発生可能性があります。その時の避難地や復旧活動の拠点となるよう、防災公園の整備等を進めています。



図：住宅地の中の
オープンスペース



図：津波発生時の避難場所となる高台
船頭場公園（港区）



図：災害時用の器具庫としても
活用できるベンチ

6 地域経済の活性化

“みどり”を取り入れたまちづくりは、拠点にふさわしい景観による企業の立地促進、魅力的な交流・滞在空間での多様な人々の交流によるイノベーション、民間投資による都市公園の質の向上や道路空間等の活用による地域活性化、文化・歴史を活かした景観による観光推進等、地域経済の活性化につながります。

事例～自然環境の活用による不動産価値の向上～

平成27（2015）年4月にオープンした複合商業施設の二子玉川ライズ（東京都世田谷区）では、近隣の豊かな自然を将来にわたって継承してほしいという地元地権者の意見を発端に、多摩川や国分寺崖線等の地域の原風景を取り入れ、これと一体となった施設建築を進めました。

日本固有のミナミメダカが100匹以上生息する4階の「めだかの池」では、近隣の子どもたちを対象に観察会を実施しています。また、多摩川流域産でレッドデータに指定されているカワラノギクの保全に取り組む等、地域固有・在来種の保護育成を図っている他、多摩川流域で採取した砂利や流木を設置する等ランドスケープの再現に取り組んでいます。

3階の菜園広場は、小学校や幼稚園に、自然学習の一環として、サツマイモやカボチャを栽培する機会を提供する他、近隣在住の子どもたちへ芋ほりや七草摘みの体験会を実施する等、食育の機会づくりにも取り組んでいます。



経済効果としても、駅利用者数はここ10年で約30%増加し、令和元（2019）年度の駅周辺の地価公示価格（平均値）は平成24（2012）年度の約1.33倍まで上昇しており、自然環境を活用した投資や人材の呼び込みによる不動産価値の向上が確認されています。外部企業によるイベントも増加しつつあり、賑わいの創出や地区のブランド向上に成功しています。また、水害等に対する街のレジリエンスを強化し、サステナブルなまちづくりにも貢献しています。



※国土交通省発表の公的な地価を用いて、国土交通省が作成

出典：グリーンインフラの市場における経済価値に関する研究会（2024）「グリーンインフラの事業・投資のすゝめ～経済効果の見える化を通じた都市開発・まちづくりにおける投資促進に向けて～」より
国土交通省都市局公園緑地・景観課（2016）「緑による建物の魅力アップガイド」

7 温室効果ガスの削減

植物は光合成の過程で、主要な温室効果ガスであるCO₂（二酸化炭素）を吸収・固定します。また、“みどり”を活かした歩きたくなる空間づくりによる車から徒歩・自転車への交通の転換や、壁面・屋上緑化等による空調負荷低減は、CO₂排出量の削減につながります。

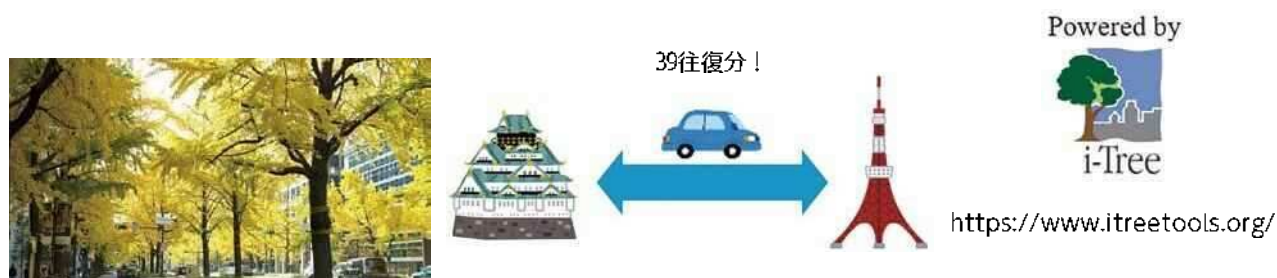
効果の見える化～i-Tree を用いたみどりの価値の可視化～

大阪市では、i-Tree Eco[®]を活用し、同市を代表する街路樹である「御堂筋のイチョウ」約870本を対象に、炭素固定量、大気汚染物質除去量、雨水流出削減量等の樹木が持つ価値を定量的に算定し、令和7（2025）年4月に公表しました。

このうち炭素固定量については、樹木の1年後の乾燥重量と現状値との差を推定して算出しています。「御堂筋のイチョウ」約870本による炭素固定量は、年間4,986kg（大阪―東京間を自動車で39往復した際に出るCO₂量に相当）でした。

※i-Tree Eco

主に都市林や地域林の管理を支援するために米国農務省等が開発したツール群「i-Tree」の1つです。樹木のフィールド調査結果と気象データ等を組み合わせることで、樹木が持つ価値を定量的に評価することができます。



図：「御堂筋のイチョウ」及びi-Tree Ecoにより算出された効果

出典：大阪市建設局、みどりの都市・大阪ONLINE（<https://parksgreenery.city.osaka.lg.jp/article/i-tree-osaka/>、<https://parksgreenery.city.osaka.lg.jp/article/fukabori-street-tree-roles/>）（2026.2.16アクセス）

効果の見える化

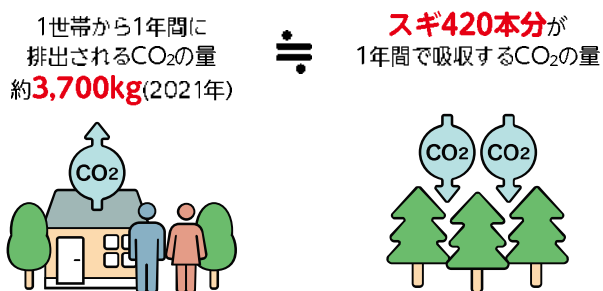
～森林はどのぐらいの量のCO₂を吸収しているの？～

樹木の種類と林齢から平均的な幹の体積を調べることができる「収穫表」を利用し、森林によるCO₂の吸収量を調べることができます。

適切に手入れされた36～40年生のスギ人工林は、1ha当たり約83tの炭素（CO₂の量に換算すると約304t）を蓄えており、1年間に吸収するCO₂の量は約8.8tと推定されます。

1haあたり1,000本のスギの木が生えていると仮定した場合、1本あたりでは、約83kgの炭素を蓄え、年間約8.8kgのCO₂を吸収していることとなります。

1世帯から1年間に排出されるCO₂の量は、2021年の場合、約3,700kgでした。これは、36～40年生のスギ420本分が1年間で吸収するCO₂の量と同じぐらいということになります。



林野庁「森林資源現況調査」：令和4年3月31日現在、の全国集計を用いて算出した36～40年生のスギ人工林の1haあたりの幹材積337m³（おおよそ樹高20m、平均直径20cmのスギが1haに1,000本ある林分の材積率）を元に算出

出典：林野庁ウェブサイト「森林はどのぐらいの量の二酸化炭素を吸収しているの？」

（https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html）（2026.2.16アクセス）

「よくある質問 Q1」（https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/con_5.html）（2026.2.16アクセス）

各主体共通のグリーンインフラ まちづくりの方向性

本市のグリーンインフラまちづくりの方向性は、「名古屋市総合計画2028」において、「あらゆる分野・場面においてグリーンインフラの取り組みを推進し、持続可能で魅力的な地域づくりに取り組むこと」としています。

また、国土交通省の「グリーンインフラ推進戦略2023」においても「あらゆる場面・分野に「グリーン」を取り入れていく」という考えが示されており、「グリーンインフラ推進戦略2030」では「様々な分野・ステークホルダー間においてグリーンインフラが当たり前の実装されている状況」を目指すとしています。

1 あらゆる場面でグリーンインフラを

- 自然の機能はどこでも活用できることから、公園・道路等の公有地だけでなく、市民や事業者の私有地を含め、各主体が積極的に、グリーンインフラをあらゆるところにできるだけたくさん取り入れましょう。
- 郊外に多い樹林地や農地、河川等はもちろん自然の機能を発揮していますが、都心の“みどり”も「にぎわい」や「象徴性」といった特有の魅力があります。量と質を向上させていきましょう。

「グリーンインフラ推進戦略2023」には、次のように記述されています。

我々は、自然がもたらしてくれる様々な恩恵（生態系サービス）を受けながら、社会経済活動を行っている。持続可能な社会を構築するためには、自然が安定し、変化に対するしなやかさを保ち、将来にわたりその恩恵を受けることができるよう、人間とその社会が自然と共生するという考え方のもと、社会経済活動を行っていくことが必要である。

一方で、我々は、明治時代から戦後の高度成長期において、自然を一方的に利用（消費）してきており、自然のみならず、人間やその社会の持続可能性が失われ、人類が生存し続けるための基盤となる地球環境は限界（地球の限界＝プラネタリーバウンダリー）に達しつつある。

こうした中で、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの実現が急務となっており、課題解決に向けた様々な取り組みの中で、自然を取り入れ、その機能を活用すること、すなわち「自然に根ざした社会課題の解決（Nature-based Solutions：NbS）」が強く求められている。

グリーンインフラが必要とされる背景には、人類が生存し続けるための基盤となる地球環境が限界に達しつつある状況があり、その解決のための鍵として「ネイチャーポジティブ」が挙げられています。

グリーンインフラは、まちづくりに自然を取り入れることであり、必然的に「ネイチャーポジティブ」に寄与します。また、「第2章 グリーンインフラの機能・効果」で紹介したように、自然の機能を活用して酷暑や水害等地域の課題に対処でき、それを通じて「カーボンニュートラル」にも寄与することができる点からも地球環境の持続性に資することとなります。こうした効果を期待していることから、グリーンインフラは一定のボリュームでの導入が必要と考えられます。

また、「グリーンインフラ推進戦略2023」には、次のようにも記述されています。

取り組みにあたっての基本的な考え方のひとつとして、「グリーン※」をエリアとして切り分ける（ゾーニング）のではなく、あらゆるところに「グリーン」を取り入れていく（レイヤリング）という発想で進めることが必要である。

グリーンインフラは公園、道路等の公共施設のみではなく、商業施設、物流施設等の市民・事業者の施設、敷地を含め、あらゆる人に関わるものであり、まちづくり全体として取り組む必要があるため、各主体が連携しつつ、ともに主体的・積極的に取り組むことが求められる。

※グリーン

「グリーンインフラ推進戦略2023」では、「自然」という意味で使われている。

本市の土地所有区分による面積は、公有地約4割、民有地約6割となっていますので、各主体があらゆる場面で、主体的・積極的にグリーンインフラ導入に取り組むことが重要です。

本市には、郊外を中心としてまとまった“みどり”が存在し、自然の力を発揮していますが、あらゆる場面で取り組むにあたり、都心のみどり特有の魅力を持っていることを意識する必要があります。

「名古屋市都市計画マスタープラン2030」で示すゾーン別の将来イメージにおいて、次のとおり示されており、みどりにそれぞれ異なる役割が期待されています。

【ゾーン別の将来イメージ（抜粋）】

都心ゾーン^{※1}

- ・高質な緑やオープンスペースの中で、企業等によるコミュニティ活動やイベント活動等が展開しています。
- ・シンボリックな並木等が、ゆとりと風格のある都市景観を演出しています。

駅そば市街地

- ・市民の憩いや高齢者の健康づくり、子どもの遊び場となる公園・緑地や街路樹が充実し、良好な景観が形成され、防災空間としても活用されています。

郊外市街地

- ・農地や水辺空間と一体となったゆとりある緑地空間が充実しています。
- ・樹林地やため池等里山の風景が残る豊かな公園や緑地が充実するとともに、都市農地が多面的に活用されています。

また、「グリーンインフラ推進戦略2030」においては、地域経済の活性化に関し、次のとおり記述されています。

グリーンインフラの実装によって、グローバルに業務を展開する企業の拠点にふさわしい都市環境の整備を進めることで世界的に見た我が国の価値向上を目指す。地域では魅力あるパブリックスペースを創出し地域のにぎわいを創出する他、グリーンインフラの観光資源化を目指す。

巨大交流圏の中核としての役割を担う本市の都心においては、「にぎわい」や「象徴性」を発揮し、企業をはじめとする人々の活動を支えていくことが、グリーンインフラに期待されます。

都心では、緑化地域制度^{※2}の効果もあり、新しいみどりが創出されてきています。今後は、市街地において、草地だけでなく樹木を取り入れる、自然の中で人が憩える空間づくりをする等、その量と質を向上させることで、自然の多様な機能が発揮される魅力あふれる都心をめざしていく必要があります。

一方、東部丘陵等の樹林地、南西部等の農地、庄内川等の河川といったまとまったみどりは、冷気の供給源、生きもののすみか、虫取りや散策等レクリエーションの場等としての効果も大きいものです。居住空間の近くにこのような場所があることは、都心のにぎわいと並んで本市の大きな魅力です。まとまった“みどり”が自然の力を発揮できるよう維持するとともに、これと連携し、建物敷地等においてもグリーンインフラの導入を進めることで、涼しさ、水循環、風土にあった生きもの等を線的、面的に広げて、いっそう魅力的な街をめざしていきます。

※1 都心ゾーン

「名古屋市都市計画マスタープラン2030」で示されている、広域的な交通網と結節し、鉄道密度の高い地域（おおむねJR中央本線・東海道本線、出来町通等で囲まれる範囲で名古屋駅周辺等を含む範囲）のこと。本ガイドにおける「都心」は「都心ゾーン」を指す。

※2 緑化地域制度

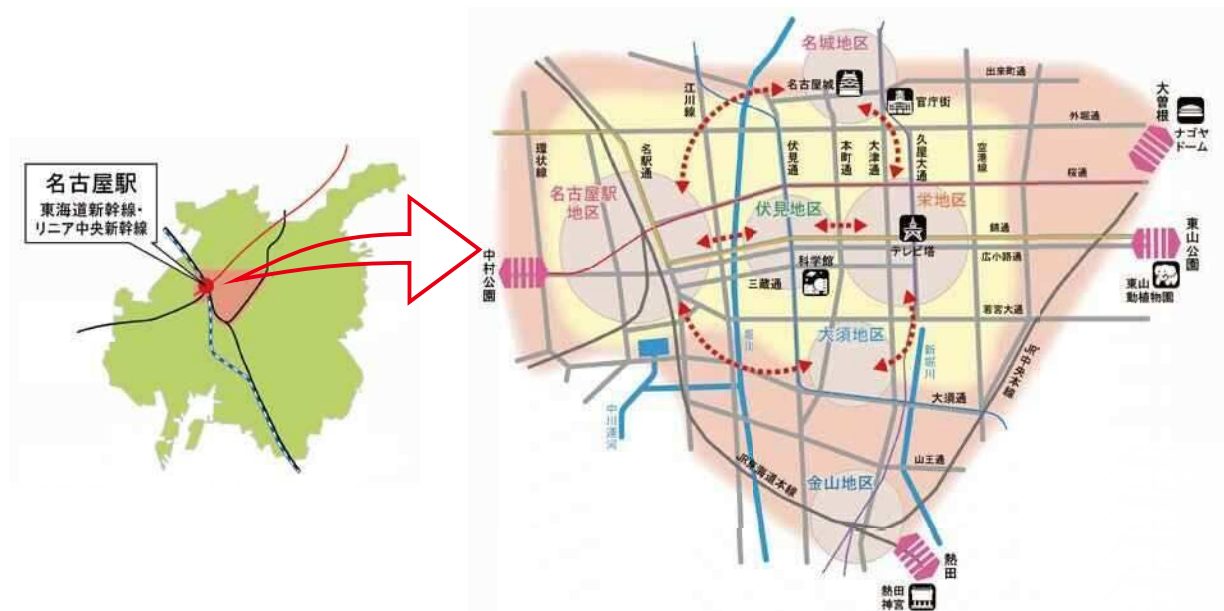
一定規模以上の敷地を有する建築物の新築や増築を行う場合に、定められた割合以上の緑化を義務付ける本市の規制のこと。

本市の状況～都心ゾーンにおけるまちづくり～

リニア中央新幹線の開業を控え、圏域の中核としての重要性がこれまで以上に増すことから、新たな時代を迎えるにあたり、これからも魅力と活力にあふれた名古屋の都心であるために、そして圏域を超えて巨大交流圏の中心都市として日本の成長エンジンとなるためには、官民協働によるまちづくりへの取り組みを速やかに進めていくことが必要となります。

「名古屋市都市計画マスタープラン2030」では、「都心ゾーン」は高次な都市機能が集積し、市民のみならず広域から人が集い、多様な交流活動が営まれる市街地を目指しています。

リニア中央新幹線の開業やアジア・アジアパラ競技大会の開催といった機会を捉え、環境に配慮され、文化芸術を活かしたまちづくりや豊かな公共空間を活用した快適性の向上をはかるとともに、圏域の発展を牽引していくために、産業競争力の強化につながる産業交流機能の強化や外国人にとっても訪れやすく活動しやすい環境の整備をはかり、都市の国際競争力を高めることをまちづくりの方針として掲げています。



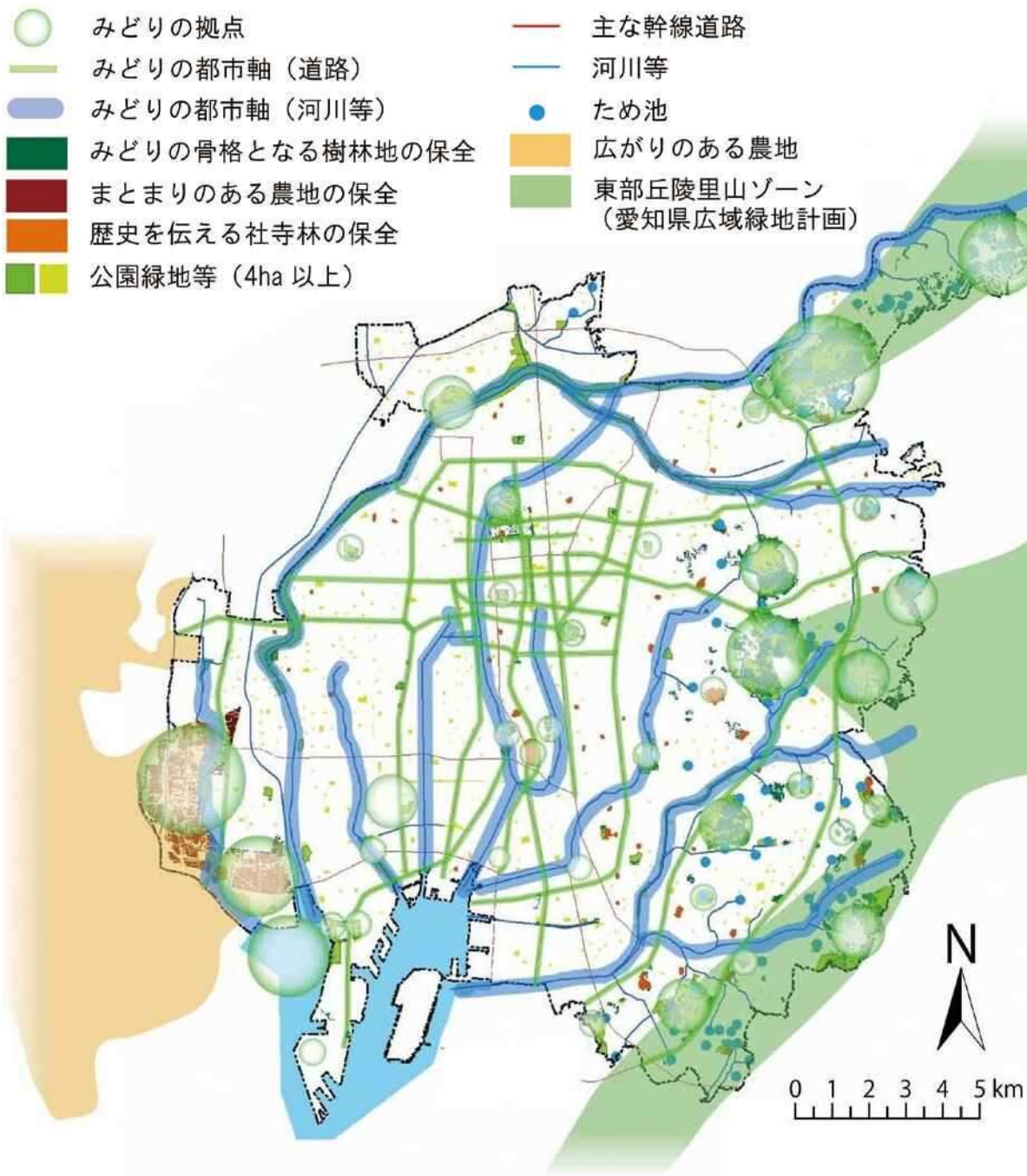
図：都心ゾーンの将来都市構造

- …都心部
都市機能が集積している名古屋駅・伏見・栄地区を中心として官庁街のある名城地区及び大須地区まで含む区域
- …都心ゾーンにおける拠点
ある程度の広がりをもって都市機能が高度あるいは特徴的に集積したエリアとして、地域の特性を活かした名古屋の顔となるまちづくりをめざす地区
- …都市軸
都市の骨格を形成する主要な幹線道路及び河川・運河
- ◀…▶ …拠点連携
各拠点を有機的に結びつけることにより、都心部内の回遊性や都市機能を相乗的に向上させるための拠点間の連携

本市の状況～みどりのネットワーク～

本市は、「みどりの都市像」等をまとめた「名古屋市みどりの基本計画2030」において、施策展開の方向性のひとつとして「みどりのネットワークの形成」を掲げています。これは、大規模な公園緑地等を「みどりの拠点」と位置づけ、拠点を結ぶ広幅員道路や主要な河川等の「みどりの都市軸」により「みどりのネットワーク」を形成することにより、みどりの効果のさらなる発揮をめざすものです。

みどりのネットワークの形成に、行政だけでなく市民や事業者等多様な主体とともに、長期的な展望の中で取り組むことにより、自然共生都市の実現をめざすこととしています。



図：将来的なみどりの構造のイメージ

本市の状況～私たち（市民や事業者）ができる雨水流出抑制～

本市は、「名古屋市総合排水計画」において「ともにつくる大雨に強いまち なごや」を目指し、「治水施設整備」、「雨水流出抑制」、「土地利用・住まい方」、「防災情報の普及・啓発等」の4つの施策を柱として定め、対策を進めています。

このうち「雨水流出抑制」は、降った雨を地中に浸み込ませたり、一時的に貯めたりすることで、下水道や河川に流れ出る雨の量を抑える仕組みのことです。かつては、田畑等が広がり、降った雨を浸み込ませたり、貯めたりする自然の機能がありました。都市化が進むと、地表がコンクリート等で覆われ、雨は浸み込む場所を失い、大雨が降ると雨のほとんどが下水道や河川に流れ出るようになりました。

そのため、本市だけでなく市民・事業者が力を合わせて雨水流出抑制に取り組む必要があります。

	治水施設整備	雨水流出抑制	土地利用・住まい方	防災情報の普及・啓発等
市	<ul style="list-style-type: none"> 河川の整備 下水道や雨水池などの整備 施設機能確保 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水流出抑制に関する普及、啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクを考慮した土地利用の誘導 大雨に強い建物の建設に関する普及、啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報の普及 備蓄促進、提供の実施 避難行動の促進
市民・事業者		<ul style="list-style-type: none"> 雨水流出抑制施設の設置 ため池、緑地、農地の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 地下空間への浸水対策 雨水すずり溝 	<ul style="list-style-type: none"> 水防訓練の実施 地域防災力の強化

家庭ではどんなことができるの？

【家庭でもできる雨水流出抑制】

雨水タンク

雨水を雨どいから分岐し、タンクに貯めて庭の水やりなどに有効利用することができます。災害への備えとしても有効です。大雨が降る前には、水を抜いておきましょう。

浸透雨水ます 穴あき埋設管

穴の開いたますや埋設管から、集めた雨水を地中に浸み込ませます。

緑の地表面

舗装をしていない地面は、雨水を地中に浸み込ませることができます。樹木や芝生などを植えれば涼しくなります。

透水性舗装

雨水が地中に浸み込みやすい舗装です。駐車場やアプローチなどさまざまなエリアで使用できます。水たまりもできにくくなります。

雨水タンクと浸透雨水ますの設置には補助金が出るよ！（事前申請必要）

雨水流出抑制施設のうち、「雨水タンク」、「浸透雨水ます」、「透水性舗装」等はグリーンインフラです。また、本市で実装を検討中の「雨庭」にも浸透貯留の効果があります。

本市では雨水流出抑制をより一層推進するために、市民・事業者による「雨水タンク」と「浸透雨水ます」の設置に対して、補助金制度を設けています。

市民・事業者においても、雨水流出抑制に取り組んでいただき、ともに雨に強いまちづくりに参加しましょう。

詳しくはこちら



最大30,000円！

雨水タンク等の設置に補助金が出ます！

都市化の進展などにより、浸み込む雨の量が大きく減少！

浸水リスク増加・水環境悪化

補助対象 雨水流出抑制施設

雨水タンク
雨水を雨どいから分岐し、タンクに貯めます。（後の水やりなどに有効利用することができます。）

浸透雨水ます
穴の開いたますから、集めた雨水を地中に浸み込ませます。

雨水流出抑制施設を設置すると・・・

- 浸水被害の軽減
- 豊かな水の環境の復活
- 河川の浄化

大雨が降ったとき下水道管などがあふれにくくなることで、浸水に対する安全性が向上します。

樹木に浸み込んだ雨水によって、水質汚濁が回復し、ヒートアイランド現象を緩和する効果が期待されます。

地表の汚れを念入りに取り除いた雨水が河川に流れ出る量が減り、河川の浄化に役立ちます。

2 あらゆる分野でグリーンインフラを

- 子育て、健康、経済等、連携の可能性があるあらゆる分野において、課題解決にグリーンインフラの機能を活用する視点を意識しましょう。
- 道路や河川、公園緑地といった従来から「インフラ」と捉えられてきた分野においても、引き続き、子育て、健康、経済等に寄与する「使われ方」を考えて整備・維持管理を行います。

「グリーンインフラ推進戦略2030」では、社会課題の解決に向けて、グリーンインフラに関わる幅広い技術分野の専門家が関与する体制を構築するとともに、他のハード・ソフト施策等とも連携可能な体制を構築することをグリーンインフラ実装のプロセスのひとつとしています。

グリーンインフラの多様な機能の活用は、「名古屋市総合計画2028」が掲げる「めざす都市像」全ての実現に資するものです。そのため、子育て、健康、経済等の従来「インフラ」とは直接関係していないと考えられてきた分野においても、課題解決にグリーンインフラの機能を活用する視点をもつことが重要となります。また、道路や河川、公園緑地といった従来から「インフラ」と捉えられてきた分野においても、引き続き、子育て、健康、経済等に寄与する使われ方を考えて整備・維持管理することが求められます。

あらゆる分野で、グリーンインフラの導入や活用による課題解決を検討しましょう。

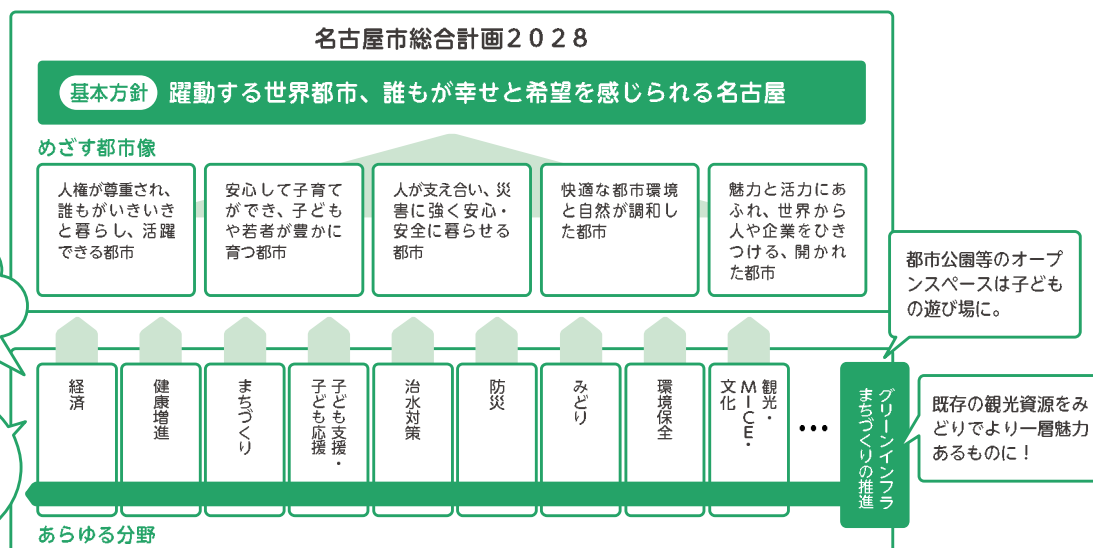
第4回 なごやグッドグリーン賞 大賞受賞



愛知学院大学 末盛キャンパス 歯学部 臨床教育研究棟
(総合設計制度の活用により道路からセットバックした公開空地を緑化し、学生だけでなく、地域住民も利用できるボーダレスな緑のオープンスペースとして、周辺環境との調和と共生をめざす)



西部医療センター（ひだまりの丘）
(低層部屋上の2,500m²の屋上庭園であり、緑や小川を楽しむことができ、癒しの場であるだけでなく、屋外リハビリ場としても利用されている)



図：あらゆる分野におけるグリーンインフラの寄与イメージ

各主体におけるグリーンインフラまちづくりの取り組み方

1 市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの取り組み方

市民・事業者のみなさまは、次の3つのステップでグリーンインフラに取り組みましょう！



STEP 1 知ろう

- 身近な自然を意識して生活し、その機能を見つめなおしましょう。
- 自然に関するイベントに参加して、より深く知りましょう。

STEP 2 導入しよう

- 自分の管理する土地や建物等でグリーンインフラを導入しましょう。
- 導入したグリーンインフラを維持管理しましょう。

STEP 3 広げよう

- グリーンインフラの魅力を発信し、広げましょう。多くの人々がグリーンインフラにより実現した素敵な空間を訪れ、利用することで、まちのにぎわいとなり、企業等によるグリーンインフラまちづくりの後押しとなります。

STEP 1 グリーンインフラを知ろう

本市が実施した「環境対策に関する市民アンケート」によると、「『グリーンインフラ』という言葉も意味も知っていた。」と回答した方は908人中89名（9.8%）でした。

「グリーンインフラ」という言葉は、聞きなじみがなかったり、「インフラ」＝「大規模な整備」という印象があったりすることから、自分には関係のない話と思うかもしれません。

そこで本市では、グリーンインフラとは何か、どのような機能や効果があるのかについて興味・関心をもっていただくため、グリーンインフラのモデル整備等の取り組みを進めています。また、本市のグリーンインフラまちづくりの認知度向上に向け、今後もわかりやすい情報発信を行ってまいります。

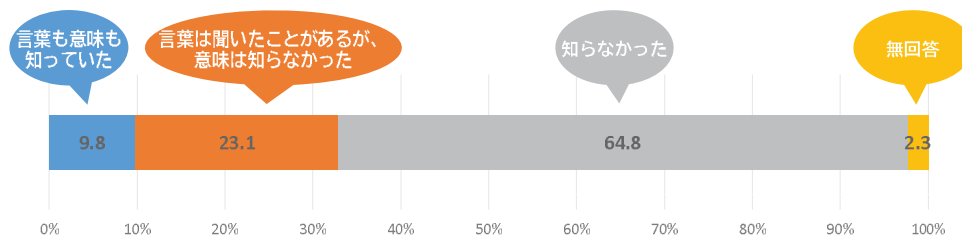
■グリーンインフラについて

自然環境がもつ様々な機能を活用し、持続可能で魅力ある都市づくりを進める取り組みのことをグリーンインフラと言います。自然環境には、樹木や花等の「緑」のみならず、土壌、水、風、地形といったものも含まれ、これらは、雨水貯留・浸透や気候の調整、生物の生育・生息の場の提供、良好な景観の形成など様々な役割を果たします。

問11 あなたは、グリーンインフラを知っていましたか。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1 言葉も意味も知っていた | (9.8%) |
| 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった | (23.1%) |
| 3 知らなかった | (64.8%) |
| 無回答 | (2.3%) |

「グリーンインフラ」知っていましたか？



図：令和7（2025）年5～6月実施「環境対策に関する市民アンケート」
（名古屋市内に居住する満18歳以上の市民2,000人（外国人を含む））

グリーンインフラを知ろう

自然の機能を体感しよう

例えば仕事の休憩時間や通勤、散歩の際に辺りを見渡してみましょう。植物や水、土等、自然がどんな力を発揮しているか、思いを巡らせてみましょう。



自然の機能を活かしたお気に入りの場所を見つけよう

広場、カフェ、図書館、子どもの遊び場…自然がつくるお気に入りの場所がありますか？お気に入りの場所を見つけ、まちをもっと味わいましょう！



生きものを見つけよう

植物は花や実をつけ、鳥やチョウが来るといった季節ごとに楽しみがあります。スマートフォンアプリの中には、生きものの写真を撮ると種名を判定し、ゲーム感覚で自分の図鑑をつくれるスマートフォンアプリもあります。生きものを探しに行こう！



▲本市のオンライン参加型イベント「なごやいきものクエスト」で活用している「Biome」

情報発信をチェックしよう

グリーンインフラの導入例等を情報発信します。みてね！

例えば…

なごやの自然・生きもの情報 Instagramより▶



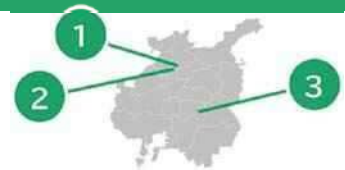
自然観察会等に参加しよう

区役所等の行政や市民団体が地域の環境に根差したイベントを実施しています。「まだこんな場所があったのだ」と気づかせてくれる風景が、あなたのそばにあるかもしれせん。



本市の状況～グリーンインフラの導入に向けたモデル事業～

本市では、グリーンインフラ導入に向け、情報発信や効果検証等のためのモデル整備を行いました。これを活用し、みなさまのグリーンインフラ導入につながる情報発信を行っていきます。



1 グリーンインフラ啓発スポットの整備
▶名城公園

2 道路等への雨庭の導入
▶三の丸地区

3 山崎川周辺での雨水浸透の取り組み
▶瑞穂公園

IGアリーナの来場者動線において、生物多様性緑化や雨庭、保水性舗装を整備

道路等への雨庭の導入に向け、試験整備、追跡調査を実施

市民・事業者が自ら設置しやすい雨水浸透施設をモデル設置



STEP 2 グリーンインフラを導入しよう

「第5章 グリーンインフラの要素技術」や「第6章 グリーンインフラまちづくりに役立つ補助制度等」を参考に、ご自身が管理する土地・建物等におけるグリーンインフラの導入をお願いします。

グリーンインフラを導入しよう

玄関先に植木鉢を置こう

まずは手軽に植木鉢でも雰囲気が変わります。場所の制約があっても鉢なら成長をコントロールしやすくなります。



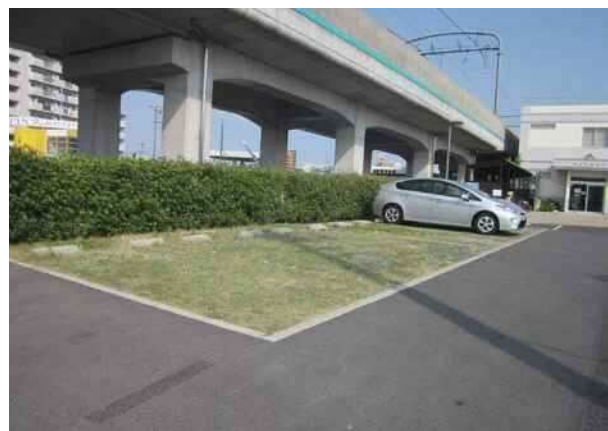
庭に1本の苗木を植えよう

育った姿をイメージし、敷地に余裕をもって植えましょう。



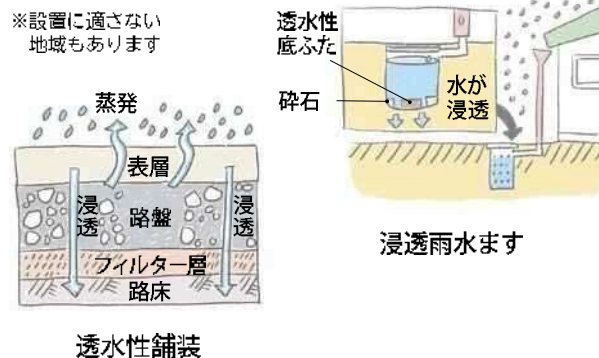
駐車場を緑化しよう

都市部において緑化面積を増やす効果的な手段です。



舗装や雨水ますを設置するときは透水性のものを選びよう

透水性舗装や浸透雨水ますは、土壌の力を活かすグリーンインフラの要素技術のひとつです。



生物多様性を意識した緑化をしよう

緑化の際に生きものに思いを巡らせたり、すみかやエサ場等に少しでも配慮したり、出来ることから生物多様性への配慮を加えてみましょう。



雨水を利用しよう

雨水タンクを設置して、雨水を利用してみましょう。貯めた雨水は植物への水やりや打ち水等に使用できます。



ちょっとPR 自然共生サイト

令和4（2022）年12月に採択された「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の世界目標のひとつ「30by30」。これは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようというものです。自然共生サイトは、この目標達成のため、企業・自治体・団体などが策定した、生物多様性の維持・回復・創出をめざす活動計画の実施区域を国が認定する制度のことです。本市では、市が申請し認定されたものの他、事業者の“みどり”も認定を受けています。いろんな“みどり”がつながって、大切な自然をより守れたらすてきですね！

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
第6回グリーンインフラ大賞
【特別優秀賞】受賞



㈱三五

ECO35の森（令和6（2024）年9月認定）



㈱テクノ中部

本店ビル屋上ビオトープ（令和5（2023）年10月認定）



30by30

ロゴマーク

本市ウェブサイト「自然共生サイト」



2 名古屋市（行政）のグリーンインフラまちづくりの取り組み方



導入

- 再開発や施設更新の機会を逃さずグリーンインフラを導入し、官民連携で環境と経済の好循環を図ります
- 導入・維持管理費用が通常の整備より増す可能性があるため、必要に応じて費用対効果の検証も行いつつ進めます



維持管理

- グリーンインフラがより多様な機能を発揮できるよう、日常の維持管理や機能回復・向上を図ります



情報発信・誘導策の実施

- 情報発信による機運醸成、誘導施策により、市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの更なる推進を図ります

(1) グリーンインフラ導入

第3章「各主体共通のグリーンインフラまちづくりの方向性」を踏まえ、新規のグリーンインフラ導入を進めます。特に、再開発や施設更新の機会を逃さず導入を検討します。

導入にあたっては、通常のインフラ整備に対しプラスαの費用が必要になる場合も想定されます。必要に応じ、費用対効果の検証等も行いながら、公共空間におけるグリーンインフラの実装を進めていきます。

(2) グリーンインフラの維持管理

本市には、公園・緑地、河川・ため池、農地、建物敷地内のみどり等既存のグリーンインフラがあります。これらが自然のもつ多面的な機能を発揮することで、私たちの暮らしを支えています。また、建物敷地等において、浸透雨水ますや透水性舗装、屋上緑化等グリーンインフラの要素技術（第5章）の採用にも取り組んでいます。

グリーンインフラには手入れが必要なものもあり、日常的な維持管理や修繕等を通じて、経年により低下した機能の回復や向上を図ることも必要です。

本市による取り組みとともに、市民・事業者のみなさまに公園等の手入れに協力をいただく仕組みについても継続して運用し、グリーンインフラがより一層多面的な機能を発揮できるよう、着実な取り組みを行っていきます。

(3) グリーンインフラまちづくりに関する情報発信・誘導策等の実施

情報発信による機運醸成、誘導施策により、市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの更なる推進を図ります。

ちょっとPR 名古屋市は“ラムサール条約湿地都市”

みんなでごみ減量に取り組んで守った「藤前干潟」。渡り鳥の重要な休息地としてラムサール条約に登録されていますが、他にもいくつもの機能を発揮しています。自然ってすごいですね。

藤前干潟を守り続け、そこから様々な学びを得てきたみなさまの取り組みが評価され、令和7（2025）年7月、本市はラムサール条約湿地都市として認証されました。

あらためてこれから、自然を守り、自然の力を活かして「自然共生社会」の実現に向けて歩みを進めていきましょう！



図：藤前干潟

本市の状況～再開発等の機会を捉えたグリーンインフラの取り組み～

本市が行う再開発等の機会を捉えたグリーンインフラの取り組みを紹介します。

本市の取り組みに加え、市民・事業者のみなさまによる主体的・積極的なグリーンインフラの導入により、公共空間と建物外構の植栽等民間のみどりが連携し、魅力的な空間をつくり、環境・経済の好循環を創出します。



名古屋駅



リニア駅周辺の面的整備

・事業概要

リニア駅上部空間を、広場利用を主とした公共的空間として活用するとともに、それらに伴う道路の再配置、また、周辺街区の開発誘導や土地の高度利用促進等を図ることにより、まちの顔づくり・拠点づくり、防災性向上を面的に進めます。

・グリーンインフラの視点

人々が集い、憩い、交流する広場をめざすため、にぎわいのある空間や緑あふれる空間形成に努めます。



位置図



イメージパース (西地区)

栄



栄地区まちづくりプロジェクトの推進

久屋大通（南エリア）の再整備

・事業概要

名古屋都心の中心核のひとつである栄地区において、地区の特徴である豊かな公共空間の有効活用等によるまちづくりを進めます。「久屋大通（南エリア）再整備構想」に基づき、再整備によるにぎわい創出を目指します。

・グリーンインフラの視点

生態系の回復に配慮した植栽、雨水浸透構造を持つ園路や広場の設置等、自然環境の持つ多様な機能を活用する「グリーンインフラ」の視点を踏まえた公園設計に努めます。

金山



金山駅周辺まちづくりの推進

・事業概要

金山駅周辺ではアスナル金山の再整備や新たな劇場の整備とあわせ、交通結節点に相應しい都市機能の集積や多様な文化芸術に触れられるウォークブルなまちの形成を目指し、金山駅周辺地域全体の価値向上やブランディングを図ります。

・グリーンインフラの視点

まち全体の緑の量やその質の向上、ヒートアイランド対策等に資するグリーンインフラの取り組みにより、持続可能な未来に向けて環境負荷が少ないまちづくりを行います。



イメージパース

三の丸



三の丸地区まちづくりの推進

・事業概要

名古屋城三の丸地区の役割や位置づけを整理し、当地区をリニア時代のあいち・なごやの新たな顔として成長・発展させていくために、社会経済・環境等の潮流や、名古屋駅地区・栄地区等の周辺地区とのつながりを意識したまちづくりを推進します。

・グリーンインフラの視点

「環境の魅力を活かした価値を再生するまち」を「めざすまち」とし、令和12年度までの短期的な取り組みとして、護国神社前の道路の雨庭や名古屋市役所西庁舎前の花壇の整備を実施する予定です。



本市の状況～市の施設等における雨水流出抑制の取り組み～

本市では、治水施設の整備を着実に推進する一方で、雨水流出抑制等を組み合わせた浸水対策を進めています。

市役所をはじめとする各種庁舎、学校、市営住宅、公園等市の施設は、名古屋市防災条例で雨水流出抑制施設の設置が義務化されています。名古屋市雨水流出抑制施設設計指針では、緑地面積を除く敷地面積100㎡あたり4 m³（1 m²あたり0.04m³=40ℓ）の雨水を貯留・浸透させる施設の整備を目標として定めています。

本市の施設である上下水道局東部営業センターにおいても「雨水タンク」や「透水性舗装」、「浸透雨水ます」等の様々な雨水流出抑制施設を組み合わせて整備を行っています。

これらの整備を進め、降った雨を地中にしみ込ませたり、貯めたりすることで、河川や下水道等へ流れ出る量を減らし、浸水に対する安全度が向上します。

今後も引き続き、市の施設への浸透貯留施設の設置を着実に実施し、雨水流出抑制の推進を図っていきます。



図：雨水貯留浸透施設を設置した上下水道局東部営業センター（千種区）



※AIにより補正しています

整備中



整備後

図：グラウンドに雨水貯留浸透の仕組みを取り入れたかから公園（港区）

本市の状況～市の施設等における敷地内緑化の取り組み～

本市が設置する建築物については、芝生広場の設置や屋上緑化等により、緑の確保を進めています。



名古屋市博物館の前庭
芝生等の草地の広場※



緑土木事務所
駐車場の緑化（舗装面の工夫）



鳴海工場
屋上の緑化

※リニューアル改修を行っている名古屋市博物館の前庭（完成予定図）。天然芝の広場を設け、賑わいと憩いの場となるよう整備を進めています。

本市の状況～市が行うグリーンインフラを維持する取り組み～

本市では、寄附金制度やスポンサー花壇の仕組み、愛護会活動等公共のグリーンインフラの機能効果を維持する取り組みの支援メニューを用意しています。みなさまのご協力により、公共のグリーンインフラが魅力を発揮しています！

市の取り組みには、
市民・事業者のみなさまにも
力を発揮して
いただいています！

名古屋市への寄附

本市では、みなさまからいただいた寄附金により、里山を健全にしていく取り組み等を進めています。

- 里山保全寄附金
- 環境保全事業寄附金
- 中川運河再生寄附金
- 緑のまちづくり寄附金
- さくらの名所応援寄附金
- 公園事業寄附金
- 堀川再生寄附金
- 地産地消推進寄附金
- しだれ梅寄附金 等



▲名古屋市への寄附
本市ウェブサイト



側溝等の清掃

樹木は大切な自然ですが、側溝や雨水ますが落ち葉で詰まってしまうと機能が発揮できません。そのため、市民のみなさまにも、身近な場所での清掃への協力をお願いしています。

本市上下水道局ウェブサイト▶



○雨水が入りやすくなります



×ごみで雨水が入りにくい



×植木鉢で雨水が入りにくい

スポンサー花壇

市民や事業者のみなさまに公園や街路の花壇のスポンサーになっていただく事業です。いただいた協賛金は、花壇に植える花苗や肥料の購入等に活用しています。



▲スポンサー花壇
本市ウェブサイト



愛護会活動

公園や街路樹の愛護会は、公園や街路樹の保全を行う地域のボランティア団体です。



公園
愛護会
本市ウェブ
サイト▶



街路樹
愛護会
本市ウェブ
サイト▶



国土交通省は、「グリーンインフラ推進戦略2030」において、「『グリーンインフラ』とは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画等を通じてより大きな効果の発現が期待できる。」としています。本章では、自然の機能をより賢く使うための効果的な要素技術^{*}を紹介します。

グリーンインフラ						その他のインフラ	
グリーンインフラの要素技術						その他の要素技術	
河川	ため池	雨庭	芝生等の草地の広場	屋上緑化	雨水タンク	雨水ます	通常の舗装
樹林地	農地	生きものへの配慮	花壇、菜園	壁面緑化	舗装面の工夫	ミスト設備	コンクリート舗装
海		建物敷地と道路等との一体的な空間	緑陰	風の道の形成	浸透雨水ます、浸透トレンチ		
					親水空間		

例としてわかりやすく示したもので、グリーンインフラはこれに限るものではありません。
 図：グリーンインフラの範囲

表：要素技術と関連する主な機能効果

要素技術	持続的で快適な都市・生活空間の形成	治水・水循環(雨水の貯留・浸透・蒸発散)	暑熱緩和	生物多様性の確保	防災・減災	地域経済の活性化	温室効果ガスの削減
壁面緑化	○	○	○				
屋上緑化	○	○		○			
芝生等草地の広場	○			○	○		
花壇、菜園	○			○			
生きものへの配慮	○			○			
緑陰	○		○				○
親水空間	○		○				
雨庭		○	○				
浸透雨水ます、浸透トレンチ		○					
舗装面の工夫	○	○					
雨水タンク		○			○		
建物敷地と道路等との一体的な空間	○					○	
風の道の形成	○		○				

それぞれの要素技術につき主な機能効果を3つまで記載しています。

※要素技術

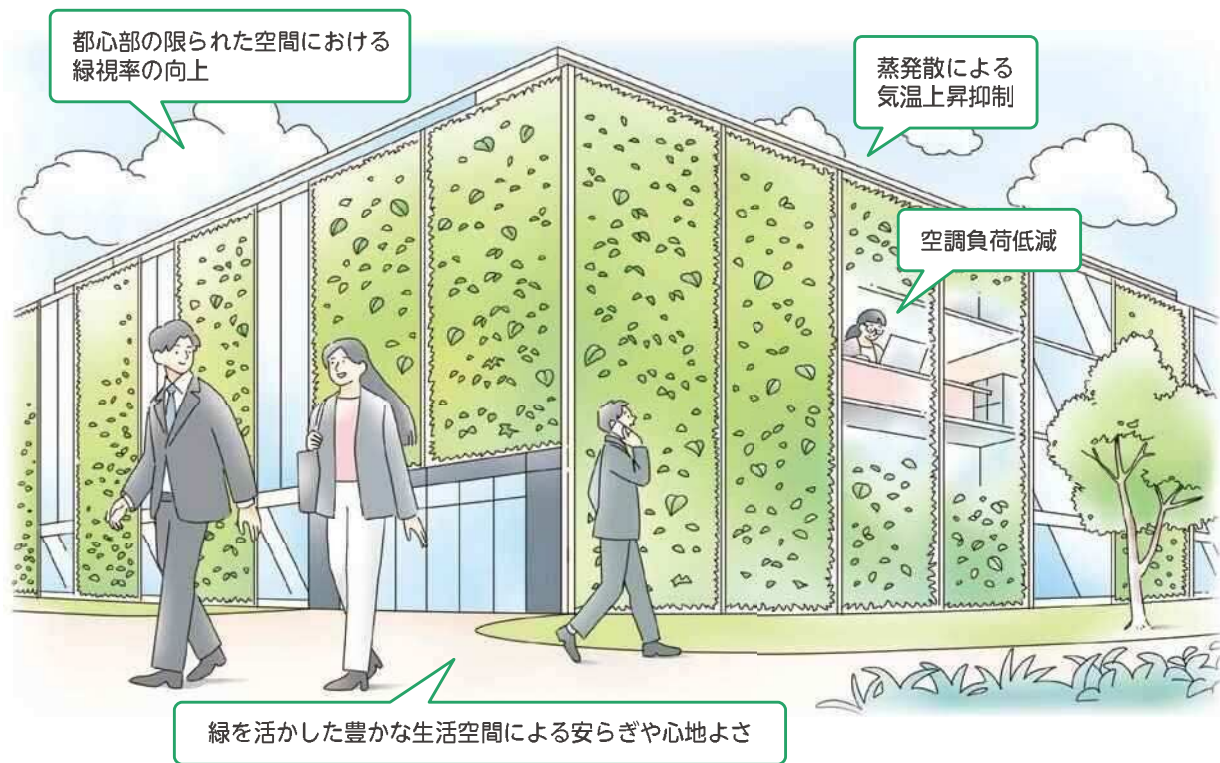
自然が持つ多様な機能を活用している技術、もしくは自然が持つ機能を活用することでインフラが本来有する機能の向上を促す技術等（出典：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム 技術部会（2025）「グリーンインフラ技術集 令和7年3月版」）

グリーン
インフラ
技術集

技術指針の策定や評価手法の開発等に向けた参考情報として、グリーンインフラ官民連携プラットフォームがその会員からグリーンインフラに関連する技術を幅広く収集し、整理したものです。併せてご活用ください。



1 壁面緑化



📍 中日ビル



📍 荒子川公園ガーデンプラザ

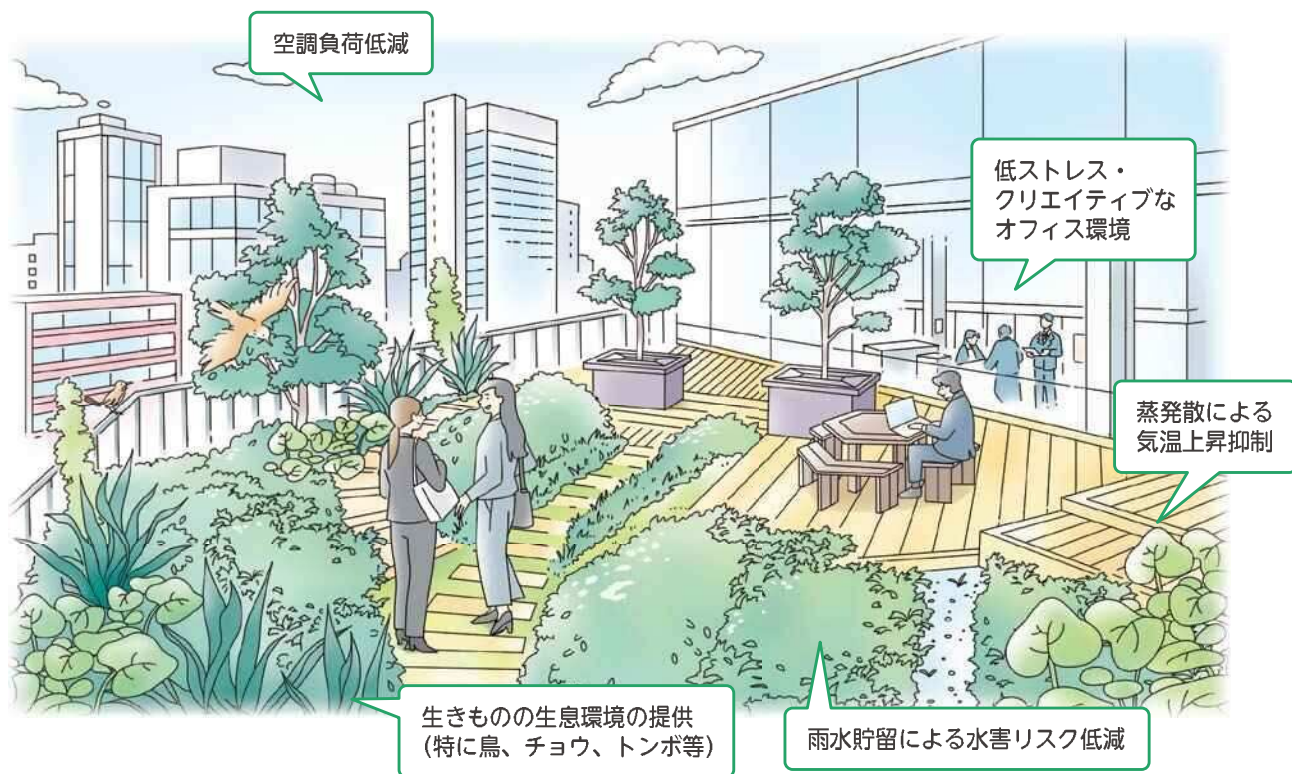


期待される主な効果

建築物の壁面を植物により緑化するものです。植物の葉からの蒸散に伴う周辺の気温低減効果や、日射を遮ることによる建築物内の空調負荷低減効果があります。都心部の限られた空間における緑視率の向上に寄与し、人々に安らぎや心地よさを与えます。壁面にプランター等植栽基盤を配置する場合は、壁面に当たる雨水を一時貯留し、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。



2 屋上緑化



期待される主な効果

建築物の屋上や屋根の上を植物により緑化するものです。都心部の限られた空間における緑視率の向上に寄与し、人々に安らぎや心地よさを与えます。オフィスのある建物では、建物内の就労者のストレス軽減やクリエイティブな感性を伸ばすことに繋がると言われています。鳥、チョウ、トンボ等をはじめとする生きものの生育環境を形成し、生物多様性の保全に貢献します。植物の葉からの蒸散に伴う周辺の気温低減効果や、日射を遮ることによる建築物内の空調負荷低減効果があります。土壌等植栽基盤が、屋上に降る雨水を一時貯留し、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。



(株)鹿島建設 名古屋伏見Kフロンティア



名古屋市役所本庁舎 (中央廊下から撮影)



3 芝生等草地の広場



期待される主な効果

芝生の広場は、自然的で広がりのある空間を楽しめる場所となります。また、子どもたちには、走ったり、寝転んだりする等の多様な遊び方ができる遊び場となります。芝や多様な野草が混在する草地まで、その豊かさに応じて、生きものの生息環境となります。まちなかの貴重なオープンスペースとして、災害時の避難場所や復旧拠点等としても機能します。

4 花壇、菜園

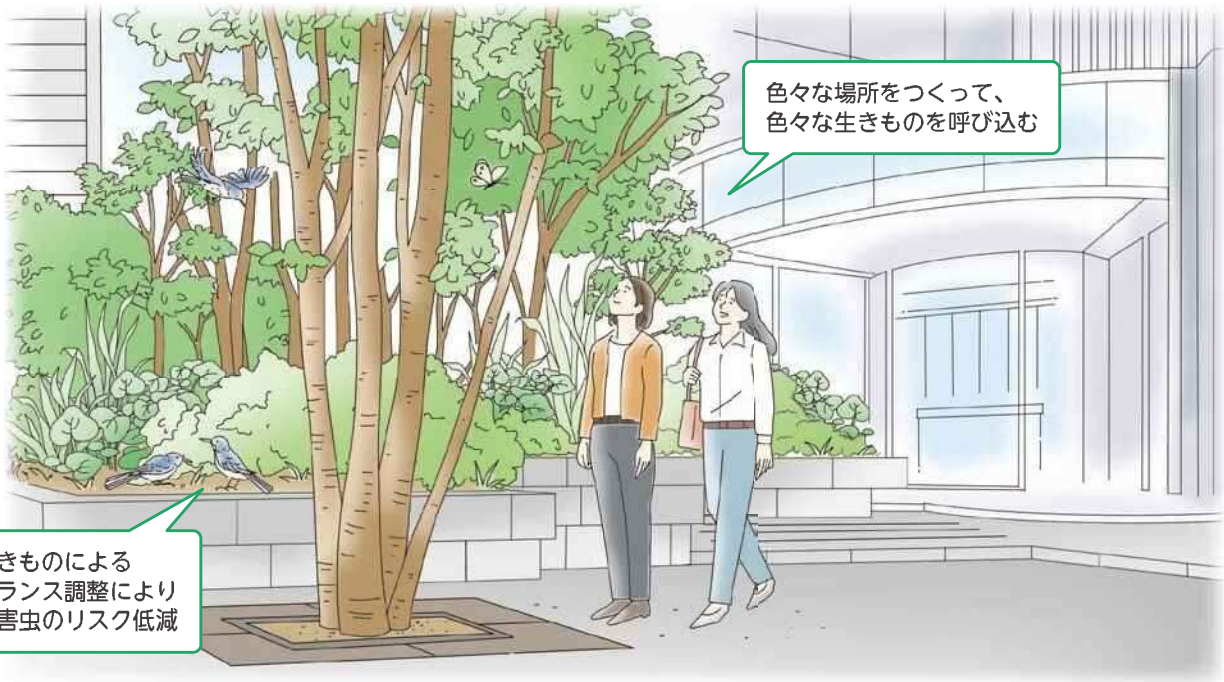


期待される主な効果

住宅や事業場等の敷地内の花壇・菜園のうち街路から見えるものは、個人の楽しみだけでなく、みどりある街並みも形成します。草花や野菜は、生きもののエサ等にもなり、生息・生育環境を提供します。住宅地等に発生する空閑地に緑を取り入れ、地域住民が中心となって花壇・菜園等に活用することで、住民の憩いや日常的な交流の場が生まれている事例や、オフィスビル等に花壇・菜園を設け、働く人々が植物の育成に取り組んだり収穫して楽しんでいる事例があります。

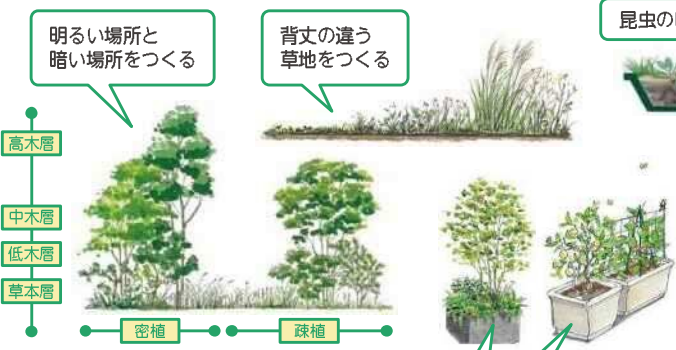


5 > 生きものへの配慮



生きものによる
バランス調整により
病害虫のリスク低減

色々な場所をつくって、
色々な生きものを呼び込む



明るい場所と
暗い場所をつくる

背丈の違う
草地をつくる

昆虫の吸水、トンボの産卵

鳥の水飲み、
水浴び



草地と水辺が連続する
エコトーン[※]を形成

本格的なビオトープ池

※エコトーン：陸域と水域の境界になる水際のことをいいます。水の深さや土の水分条件が少しずつ変化するため、エコトーンには様々な植物や生物が生息しています。

生きものに配慮した
緑化について
詳しくはこちら



在来種を
選ぶなら
こちら



▲なごやのまちなか
生物多様性緑化
ガイドライン

▲なごや地域
在来植物
リスト

！注意！

植栽について、侵略性のある植物の使用は避けてください。詳細は「植えてはいけない／植えることを推奨していない外来種リスト」をご確認ください。



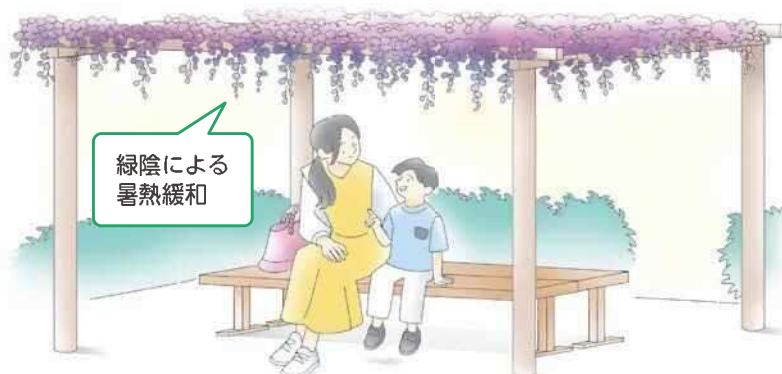
期待される主な効果

緑や水等に関する整備や維持管理の際、生きものすみか・エサ場・休息場所等となるよう配慮することで、この地域に従来から暮らしてきた生きものたちの生息環境が広がり、地域の個性ある生態系の回復につながります。人の心身にとっては、四季を通じて多様な自然を感じられる心地よさがあったり、生きもの数やバランスの調整がはかられ病害虫のリスクが低減されたりするといった効果があります。



星が丘テラス

6 > 緑陰



期待される主な効果

樹木や、つる性植物等により形成される日陰です。木漏れ日を伴うやわらかな日陰や、葉の擦れる音等が、人々に安らぎや心地よさを与え、緑陰のある歩行空間や広場が活用されることで、快適な空間を形成します。葉からの蒸散による冷却効果等により、人工の日陰に比べて高温になりにくく、効果的に暑熱を緩和します。植物は、温室効果ガスである二酸化炭素を光合成により吸収し、炭素として自らの体に固定しながら成長します。草より長期間生育し、長く存在し続ける樹木では、幹等への炭素固定による地球温暖化の緩和効果が期待できます。



7 > 親水空間



久屋大通公園



納屋橋地区

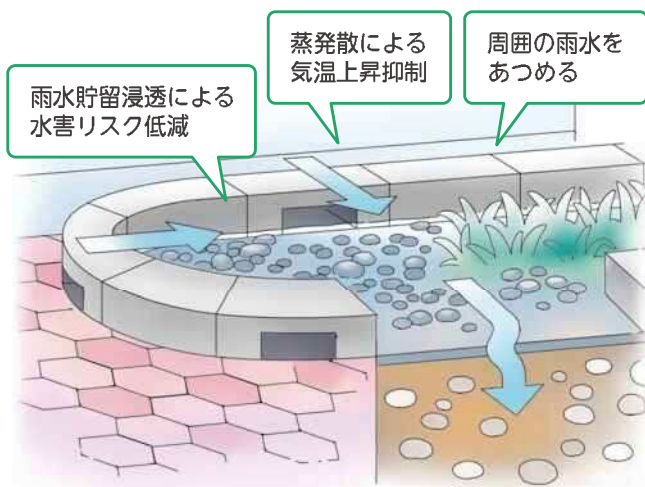


期待される主な効果

噴水、水遊び場、川沿いの遊歩道等、気軽に散策を楽しみ、自然と触れ合える水辺空間です。水に触れて遊べるものは、特に子どもたちにとって、市街地で不足しがちな、見て、触れて、楽しむことができる場所となります。水面への映り込みや周囲のみどりと一体となった空間を形成すること等により、美しく、居心地のよい場所となります。水面等からの蒸発散は、暑熱対策となり、気温上昇を抑制します。

8

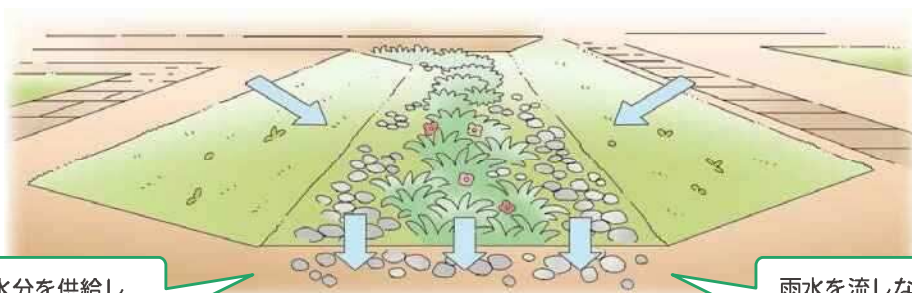
あめ にわ 雨庭



雨庭の例



雨花壇の例



緑溝の例

期待される主な効果

道路面や屋根面等に降った雨を集め、一時的に貯留しながら地中に浸透させる植栽空間です。窪ませた地表面に貯留するもの、敷き詰めた碎石の隙間に貯留するもの等があります。大雨の際、降った雨が一気に下水道等に行くと、水害につながります。雨庭は、雨水を一時貯留し、ゆっくりと時間をかけて浸透させることで、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。また、土壌に水を供給し、周囲の植物の健全な生育に寄与するとともに、地下水を涵養します。花壇に雨庭の要素を施したものを「雨花壇」、雨水を移動させながら貯留浸透させるものを「りょくこう緑溝」といいます。地表面からの蒸発散は、気温上昇の抑制につながり、暑熱対策となります。



UR都市機構 神宮東パークハイツ

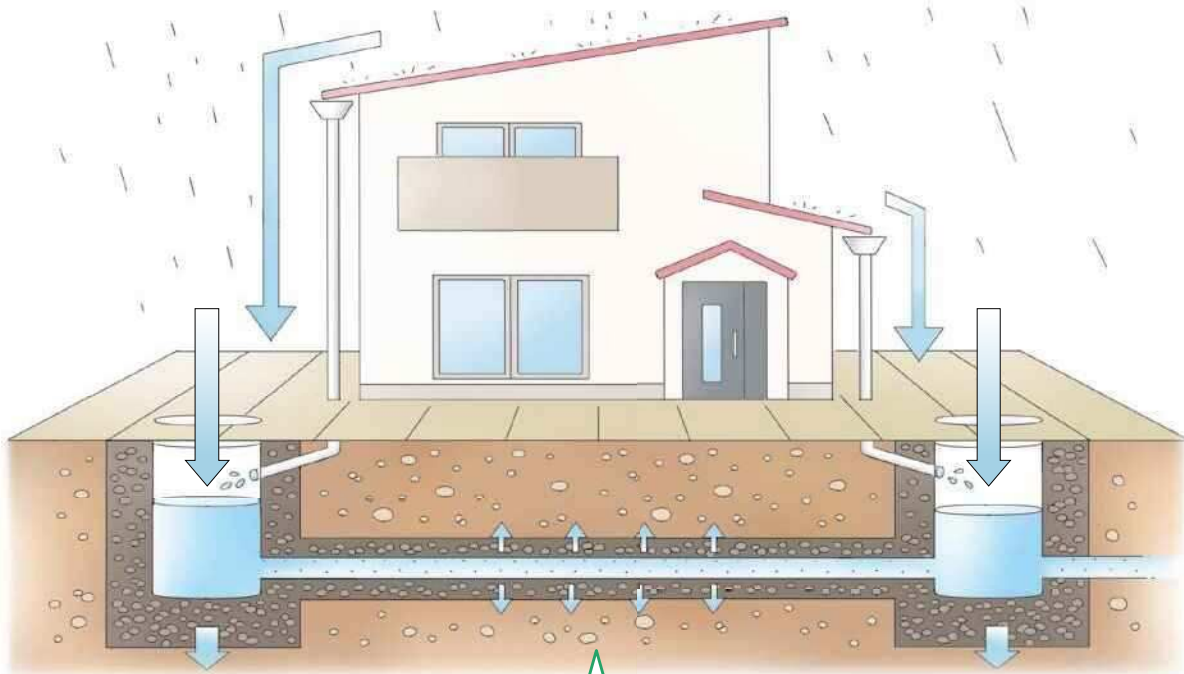


東海国立大学機構 Common Nexus (ComoNe)



▲緑溝

9 > 浸透雨水ます、浸透トレンチ



雨水浸透による水害リスク低減

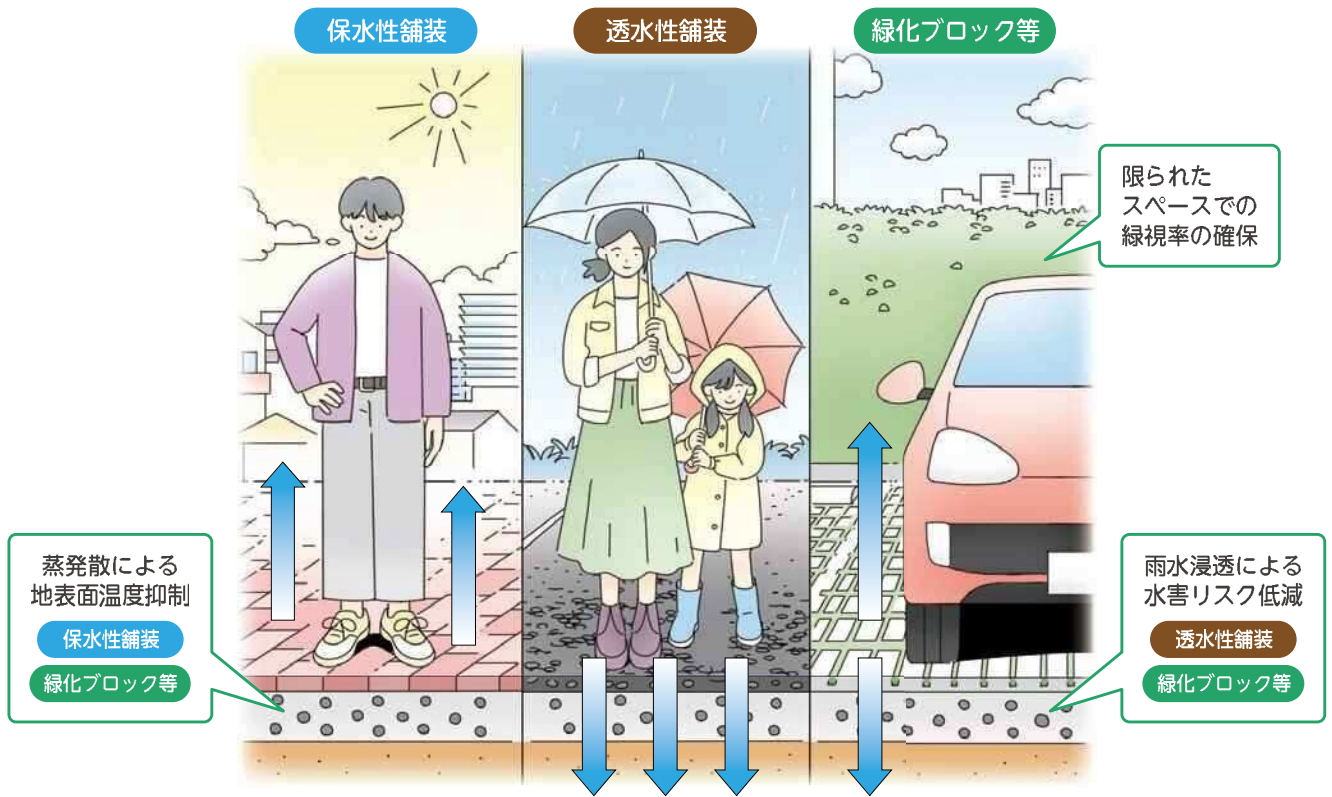
期待される主な効果

雨どいから下水道の排水経路に設置する「雨水ます」や「トレンチ」のうち、水を通すような開口部を有するものです。周囲に、碎石を敷き詰める施工方法が一般的です。雨水をゆっくりと地中に浸み込ませることで、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。



▲浸透トレンチの例

10 舗装面の工夫



期待される主な効果

雨水を蓄え時間をかけて蒸発させる保水性舗装、雨水を通過させて地中に浸透させる透水性舗装、隙間を空けて施工することで草地を残しながら車両の重さを支える緑化ブロック等があります。透水性舗装、緑化ブロックは雨水をゆっくりと地中にしみ込ませることで、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。保水性舗装、緑化ブロックは、地表面温度抑制の効果があります。また、緑化ブロックは、まちなかの限られたスペースで緑視率を確保する効果があります。



名古屋市役所西庁舎 駐車場



名城公園北園エントランス



11 > 雨水タンク



期待される主な効果

屋根に降った雨水を雨どいからタンクに導き、一時的に貯留するものです。雨水を一時的に貯留することで、河川や下水道に流れ出る雨の量を抑える効果があります。貯留した雨水は、庭の水やりや災害時の生活用水等として利用できます。



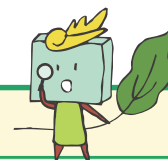
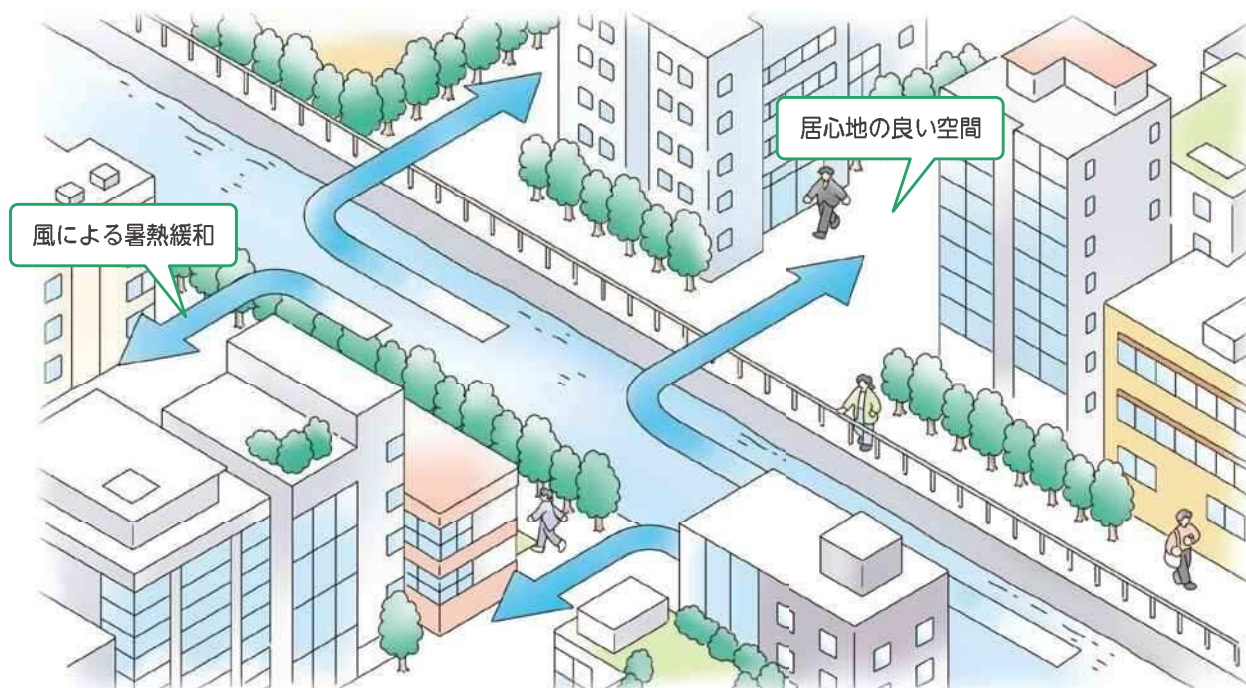
12) 建物敷地と道路等との一体的な空間



期待される主な効果

建物敷地の外構等を、隣接する道路等との一体的な利用を考えて計画するものです。建築敷地のみどり豊かなオープンスペースと道路等の植栽が調和した空間を一体的に利用することにより、建物居住者や就労者だけでなく、道行く人にも安らぎや楽しさ、涼しさ等を提供し、ウェルビーイングを向上させる効果があります。また、道路等と一体となった魅力的な空間は、まちなぎわいを呼び地域経済の活性化につながります。

13) 風の道の形成



期待される主な効果

河川等の冷気の供給源から歩行者空間に風を導いたり、風下となる地域への風の通り道を遮らないよう建築物の配置・形状を配慮したりすることです。風を呼び込むことにより、暑熱緩和の効果や居心地の良い空間を形成し、エリアを訪れる人々のウェルビーイングが向上するとともに、地域の魅力アップやにぎわいの形成にもつながります。

グリーンインフラまちづくりに 役立つ補助制度等

行政は、グリーンインフラの導入を推進する指針や制度を用意していますので、概要や実施主体のリンク先と併せて紹介します。

1 指針等



国土交通省
ウェブサイト

グリーンインフラ推進戦略2030 [令和8(2026)年1月 国土交通省]

国土交通省の環境行動計画に係る実行計画で、2030年度までが計画期間です。2030年には「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」で、2050年には「自然共生社会」の実現を目指すとしています。グリーンインフラの定義、特徴、実装に向けた留意点等を示すとともに、国土交通省の施策等をまとめています。

グリーンインフラ実践ガイド [令和5(2023)年10月 国土交通省総合政策局環境政策課]

グリーンインフラの基本的な考え方や事業のプロセス(計画・設計、施工、維持管理、活用)に着目した実装のポイント等についての、地方公共団体をはじめとする多様な地域主体に向けたガイドです。

グリーンインフラ支援制度集 [毎年更新 国土交通省、農林水産省、環境省]

国土交通省、農林水産省、環境省等の支援制度のうち、グリーンインフラの導入に関連して利用が想定される制度(補助金・助成制度・技術支援等)を紹介しています。対象は、事業者や自治体となります。

グリーンインフラの事業・投資のすゝめ

[令和6(2024)年9月 グリーンインフラの市場における経済価値に関する研究会]

主に地域におけるまちづくり事業者・金融機関に対し、グリーンインフラによる多様な経済効果を示すとともに、投資を促進するための入門書となります。

市 (主な計画等)

第4次名古屋市環境基本計画 [令和3(2021)年9月]

名古屋市環境基本条例に掲げられた「すべての市民の参加と協働により、人と自然が共生することができる健全で恵み豊かな環境を保全するとともに、人と都市の活動を環境への負荷の少ないものに変えていくことにより持続的発展が可能な社会をつくりあげていく」という理念の実現に向け、環境の保全に関する施策を総合的・計画的にすすめるための計画です。本計画においては、「人にも生きものにも住み心地のよいまちの形成」のため、グリーンインフラの取り組みを推進するとしています。



名古屋市みどりの基本計画2030 [令和3(2021)年3月]

都市緑地法に基づく計画。「みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや」をめざし、みどりにより都市力、地域力、持続力の3つの力を高めることを基本方針としています。また、施策展開の方向性のひとつに、グリーンインフラの取り組みの推進を掲げています。



市（主な計画等）

名古屋市都市計画マスタープラン2030【令和2（2020）年6月】

都市計画法に規定されている都市計画に関する基本方針で、長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示しています。



水の環復活2050なごや戦略【平成21（2009）年3月】

低炭素都市2050なごや戦略【平成21（2009）年11月】

生物多様性2050なごや戦略【平成22（2010）年3月】

長期的視点を持った市政のため、健全な水循環の回復、地球温暖化対策、生物多様性の保全の3つの視点から、2050年のめざす都市像等を示しています。それぞれに中期的な取り組み等を記載した実行計画があります。



左から「水の環復活」、「低炭素都市」、「生物多様性」の各戦略の本市ウェブサイトです。

名古屋市地球温暖化対策実行計画2030【令和6（2024）年3月】

本市が多様な主体との連携のもと、名古屋市域において地球温暖化対策を進めていくための2030年度までの具体的な施策を示しています。また、本計画を地球温暖化対策推進法及び気候変動適応法に基づく法定計画として位置付けています。



水の環復活なごや戦略実行計画2030【令和7（2025）年3月】

水の環復活2050なごや戦略と第4次名古屋市環境基本計画におけるビジョン、方向性を踏まえ、本市が多様な主体の協力を得ながら、2030年度までに重点的・優先的に取り組む事柄について、より具体的に示しています。



生物多様性なごや戦略実行計画2030【令和5（2023）年10月】

新たな世界目標や国家戦略ができた機会を捉え、本市における生物多様性に関する取り組みの強化と着実な進捗管理をはかるため、本市が2030年までに重点的・優先的に取り組む具体的な事柄やロードマップを定めています。



市（関連する指針等）

名古屋市雨水流出抑制施設設計指針【平成18（2006）年1月】

名古屋市雨水流出抑制実施要綱に基づいて、設置する貯留施設および浸透施設の計画、設計、施工並びに維持管理に係る一般原則を示すことを目的とした指針となります。グリーンインフラ要素技術のうち、「浸透雨水ます」、「浸透トレンチ」等が対象に含まれます。



なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン【令和5（2023）年3月】

本市の都心部を中心とする市街地において、多様な主体と、生きもののすみか・エサ場・休息場所等の配慮を行う生物多様性に配慮した緑化「生物多様性緑化」を進め、生態系を回復させていくための指針となります。

また、「植えていけない／植えることを推奨していない外来種リスト」と「なごや地域在来植物リスト」も参照のうえ、生物多様性緑化を行いましょう。



左から「なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン」、「植えてはいけない／植えることを推奨していない外来種リスト」、「なごやの地域在来植物リスト」の本市ウェブサイトです。

Nagoまちスペースづくりのガイドライン【令和5（2023）年3月】

Nagoyaまちなかオープンスペース制度の利用者に向けて、基準の運用と解説を記載したガイドラインとなります。「Nagoyaまちなかオープンスペース制度」については、次ページで紹介しています。



2 補助制度等



グリーンインフラ活用型都市構築支援事業

地方公共団体だけでなく、民間主体の取り組みも一体的に支援するもので、地域におけるグリーンインフラの取り組みを支援する制度です。



グリーンインフラの新技术開発支援事業

グリーンインフラに関する新技术・サービスの開発を促進するため、民間企業等による自然環境の多様な機能を利用する技術で実用段階に達していないものの開発支援を行う制度です。



市（建築関係）

建築物環境配慮制度（CASBEE名古屋）

建築物の環境性能を総合的に評価し、環境に配慮した建物づくりを促進する制度です。条例に基づき、床面積2,000m²を超える建築物の新築・増築をする建築主に対し、届出を義務付けています。グリーンインフラの要素技術では、「屋上・壁面緑化」、「生きものへの配慮（一部）」、「雨水タンク」等が含まれます。



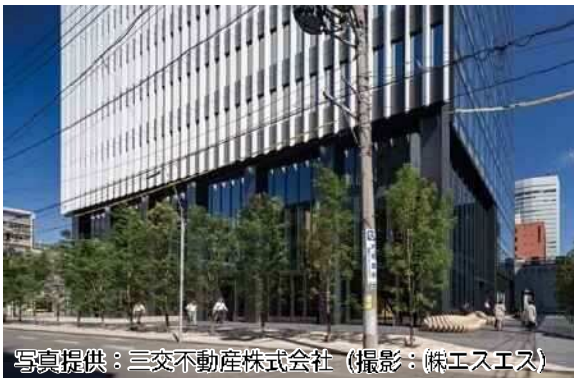
Sランク事例



Nagoya まちなかオープンスペース制度

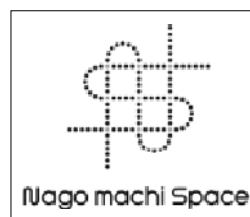
都心部に緑や広場等憩い・賑わいのある空間を形成するため、従来の公開空地等の制度を見直したものです。

オープンスペースの評価にあたり、「NICE GREENなごや」の認定取得を推奨項目のひとつとしています。



写真提供：三交不動産株式会社（撮影：株エスエス）

制度活用事例



本制度のロゴマーク



市（緑化関係）

みどりの補助金（名古屋市 民有地緑化助成事業）

「あいち森と緑づくり税（県民税）」を財源に、緑豊かな景観の創出と都市環境の改善を積極的に推進するため、質・量ともに優れた民有地の緑化工事に対して助成を行っています。



名古屋市環境保全・省エネルギー設備資金融資

中小企業が、名古屋市内で公害防止や省エネルギー推進等の環境保全対策を実施するための資金を長期かつ低金利で融資する制度です。

グリーンインフラでは、「緑化の推進（建築物・施設および敷地の緑化等）」「雨水の浸透・保水（透水性・保水性舗装等）」が対象に含まれます。



市（雨水流出抑制関係）

雨水流出抑制施設設置補助金

雨水流出抑制施設である雨水タンクと浸透雨水ますの設置に対して助成する制度です。市民・事業者による雨水流出抑制を推進しています。



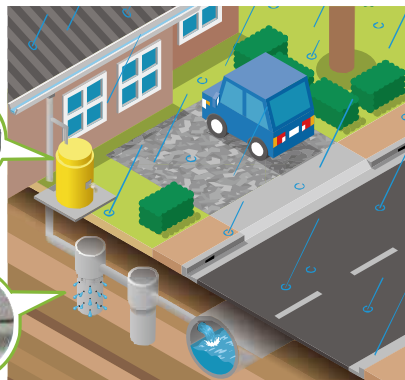
雨水タンク

雨水を雨どいから分岐し、タンクに貯めます。庭の水やり等に有効利用することができます。



浸透雨水ます

穴の開いたますから、集めた雨水を地中にしみ込ませます。



※詳細はP.51・53へ

3 認定制度

国

優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）

都市緑地法に基づき、国土交通大臣が民間事業者等による良質な緑地確保の取り組みを、気候変動対策・生物多様性の確保・Well-beingの向上等の「質」と緑地の「量」の観点から評価・認定する制度です。



【TSUNAG事例】
グラングリーン大阪



自然共生サイト

ネイチャーポジティブの実現に向けて、生物多様性の維持・回復・創出を目指し、企業・自治体・団体等が策定した活動計画の実施区域のことで、「地域生物多様性増進法」に基づき、国が認定します。



㈱三五
ECO35の森



㈱テクノ中部
本店ビル屋上ビオトープ



※P.36でも紹介しています。

市

NICE GREEN なごや

申請により、市内の建築物の敷地内等で整備される緑化施設の内容を、市が一定の基準により評価し、ランクを認定する制度です。認定ランクに応じて認定証や認定ラベルが発行されます。住宅ローン融資の優遇や補助金の交付等が受けられる場合があります。



本ガイドをここまで読んでくださり、ありがとうございました。
グリーンインフラまちづくりに、ぜひあなたの力を貸してください。

名古屋市公式ウェブサイト
なごやグリーンインフラまちづくりガイドのページ



名古屋市 グリーンインフラまちづくり推進会議
(総務局、環境局、住宅都市局、緑政土木局、上下水道局)
事務局 環境局環境企画部環境企画課
電話：052-972-2684
メールアドレス：a2684@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp



なごやグリーンインフラ まちづくりガイド 概要版

令和8年3月版

名古屋市に関わる
すべての市民・
事業者の皆様に向けて
コンパクトに
まとめました



はじめに

●グリーンインフラとは

植物や水、土等自然は様々な機能を備えています。例えば1本の大きな樹は、日陰をつくって夏の暑さを和らげ、風にそよぐ木の葉が人々に心の安らぎをもたらし、木の実や枝が子どもたちの遊び道具になります。その他、水害リスクの低減、生きものすみかとなる等、自然には、多様な機能があります。

「グリーンインフラ」は、こうした自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング*1向上に貢献するものを、広く意味します。

グリーンインフラとその機能の例（久屋大通公園）▶



みんなが導入できるグリーンインフラは「要素技術 (P.7、8)」を参照してね



●本ガイドの位置づけ

本市は、国土交通省の「グリーンインフラ推進戦略*2」と本市の状況を踏まえ、各分野の計画*3でグリーンインフラを取り上げてきました。そして、令和6(2024)年10月、「名古屋市総合計画2028」の重点戦略を推進する取り組みに「グリーンインフラの取り組みによる自然共生社会の実現」を掲げ、令和10(2028)年までに加速させるプロジェクトとして「グリーンインフラまちづくりの推進」を位置づけています。

「グリーンインフラまちづくりの推進」の目的は「名古屋市総合計画2028」の「めざす都市像」の実現を後押しすることであり、また、市域での取り組みを通じて、世界的な目標であるネイチャーポジティブ*4やカーボンニュートラル*5の達成にも寄与することです。

本ガイドは、「グリーンインフラまちづくりの推進」のための手引きであり、市民、事業者、行政等、本市に関わるすべての方を対象としています。

▼グリーンインフラの範囲

グリーンインフラ					
グリーンインフラの要素技術					
河川	ため池	雨庭	芝生等の草地の広場	屋上緑化	雨水タンク
樹林地	農地	生きものへの配慮	花壇、菜園	壁面緑化	舗装面の工夫
海		建物敷地と道路等との一体的な空間	緑陰	風の道の形成	浸透雨水ます、浸透トレンチ
					親水空間

例としてわかりやすく示したもので、グリーンインフラはこれに限るものではありません。



*1 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいいます。
 *2 グリーンインフラ推進戦略：国土交通省の環境行動計画にかかる実行計画で、最新版は、令和8(2026)年1月策定の「グリーンインフラ推進戦略2030」です。同戦略は2030年までに「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」を目指し、グリーンインフラの定義、特徴、実装に向けた留意点等を示しています。
 *3 各分野の計画：「第4次名古屋市環境基本計画」、「名古屋みどりの基本計画2030」、「名古屋市都市計画マスタープラン2030」等があります。
 *4 ネイチャーポジティブ：「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること」です。詳細は「生物多様なごや戦略実行計画2030」を参照ください。
 *5 カーボンニュートラル：「二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量と森林等による吸収量の間の均衡が保たれた状態」です。詳細は「名古屋市地球温暖化対策実行計画2030」を参照ください。

グリーンインフラまちづくりの方向性

方向性 1

あらゆる場面でグリーンインフラを

- 自然の機能はどこでも活用できることから、公園・道路等の公有地だけでなく、市民や事業者の私有地を含め、各主体が積極的に、グリーンインフラをあらゆるとこにできるだけたくさん取り入れましょう。
- 郊外に多い樹林地や農地、河川等はもちろん自然の機能を発揮していますが、都心※1の“みどり”※2も「にぎわい」や「象徴性」といった特有の魅力があります。量と質を向上させていきましょう。

第4回 なごやグッドグリーン賞 大賞 受賞



愛知学院大学 末盛キャンパス 歯学部 臨床教育研究棟

総合設計制度の活用により道路からセットバックした公開空地を緑化し、学生だけでなく、地域住民も利用できるボーダレスな緑のオープンスペースとして、周辺環境との調和と共生をめざす



西部医療センター（ひだまりの丘）

低層部屋上の2,500㎡の屋上庭園であり、緑や小川を楽しむことができ、癒しの場であるだけでなく、屋外リハビリ場としても利用されている

方向性 2

あらゆる分野でグリーンインフラを

- 子育て、健康、経済等、連携の可能性があるあらゆる分野において、課題解決にグリーンインフラの機能を活用する視点を意識しましょう。
- 道路や河川、公園緑地といった従来から「インフラ」と捉えられてきた分野においても、引き続き、子育て、健康、経済等に寄与する「使われ方」を考えて整備・維持管理を行います。

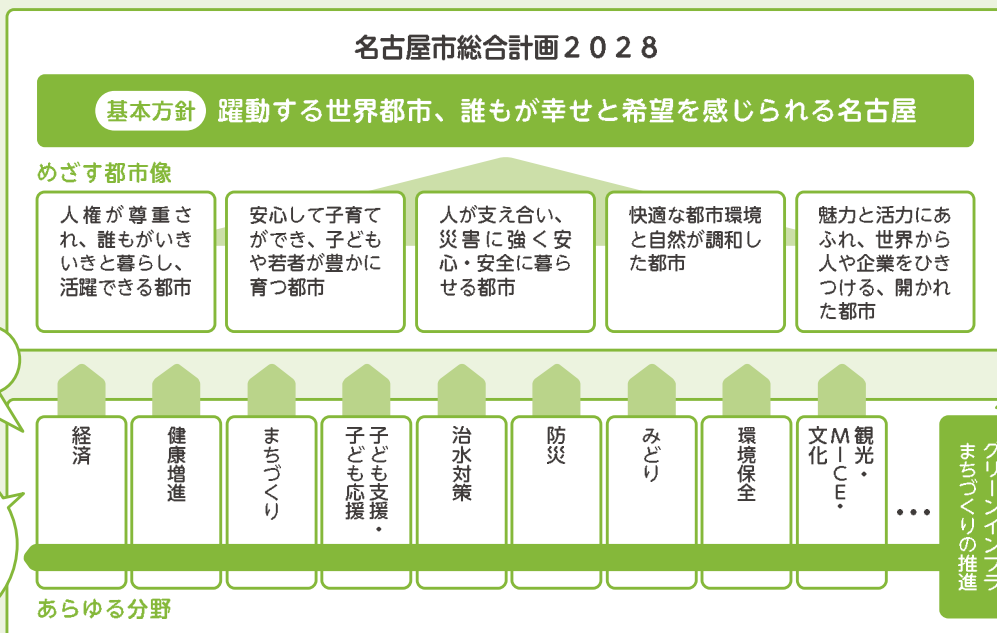
※1 都心：「名古屋市都市計画マスタープラン2030」で示されている「都心ゾーン」（広域的な交通網と結節し、鉄道密度の高い地域（おおむねJR中央本線・東海道本線、出来町通等で囲まれる範囲で名古屋駅周辺等を含む範囲）をいう。

※2 みどり：公園や街路樹、樹林地、農地や水面等を含めて平仮名で“みどり”と呼んでいます。（P.10参照）

あらゆる分野って？

グリーンインフラによるウォークアブルなまちづくりは健康寿命の延長に。

みどりの導入により都市の価値を高め、様々な企業が集まる産業振興都市へ！



都市公園等のオープンスペースは子どもの遊び場に。

既存の観光資源をみどりでより一層魅力あるものに！

グリーンインフラの機能・効果

薄い緑の網掛けは、その機能が必要とされている背景や効果を發揮している事例だよ

1 持続的で快適な都市・生活空間の形成

樹林地や河川から屋上緑化といったさまざまな“みどり”や生きものを通じて自然とつながることは、私たちの心と体の健康を保つ働きがあります。また、環境教育や子育ての場として利用したり、そこでの活動を通じて人と人とのつながりを得られたりします。



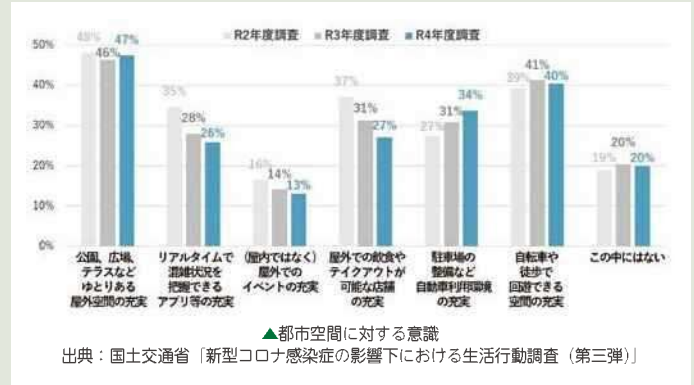
国土交通省は令和2~4年度、「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活行動調査」を実施しました。

グラフは「都心や中心市街地等、人が集まる街なかにおいて、どのような取り組みを充実すべきだと思いますか（複数回答可）」に対する回答の推移です。

人々の活動場所の傾向が新型コロナ流行前に概ね戻ってきていることが確認された令和4年度調査においても、他の期間と同様、「ゆとりある屋外空間の充実」や「自転車や徒歩で回遊できる空間の充実」へのニーズが高い結果となっています。

本市は、大都市としては空間にゆとりがあり、今後のグリーンインフラの取り組みにより魅力を高められるポテンシャルを有しています。

調査方法：調査会社を通じたWebアンケート 回収数：各年度とも約13,000件



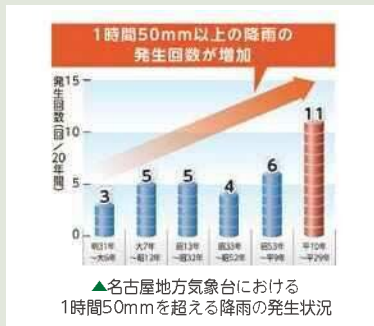
2 治水・水循環※(雨水の貯留・浸透・蒸発散)

降った雨は、低い方に流れて川や下水道へと集まりますが、一気に集まりすぎると、あふれて水害となります。樹林地や農地、ため池、建物敷地の雨水貯留浸透施設、緑化等は、降った雨をその場に留め、水害リスクを低減する働きがあります。また、地中にしみ込んだ雨は、草木を潤したり、地下水や湧き水となったりして、それぞれの機能を発揮します。

※水循環：「水が気体・液体・固体と姿を変えながら地球をめぐること」です。詳細は「水の循環活なごや戦略実行計画2030」を参照ください。

本市では、河川改修や雨水貯留浸透施設等の整備によって浸水に対する安全性は一定の向上が図られました。

しかし、気候変動により雨の降り方は激しさを増しており、1時間50mmを超える大雨の発生回数が増加傾向、1時間100mmを超える豪雨も発生しており、こうした豪雨には、行政によるハード整備のみで対応することは困難です。



▼近年、市内で発生した1時間100mm前後の降雨

年月日	1時間最大雨量	雨量観測区
平成25年9月4日	111.0mm	中川区
平成26年8月6日	104.5mm	守山区
平成28年8月2日	85.5mm	中村区
平成29年7月12日	106.5mm	東区

3 暑熱緩和

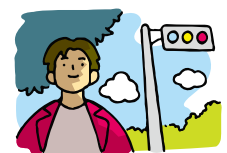
植物や水面は、緑陰をつくったり、水を蒸発散させたりすることで、暑さを和らげる働きがあります。



▲水面の蒸発散による暑熱緩和



▲植物の緑陰による暑熱緩和



本市は、日本の大都市の中で有数の暑さであり、年々気温が上昇しています。国内の都市（人口100万人以上）で近年の値を比較すると、猛暑日（最高気温が35℃以上となる日）日数は京都に次いで多く、8月の最高気温は最も高くなっています。

まちづくりにおける暑熱対策は、本市の魅力にも関係する重要な課題です。

○川崎は市内に気象台・気象観測所がない



▲国内の人口100万人以上の都市の猛暑日日数（令和3(2021)~令和7(2025)年）



▲国内の人口100万人以上の都市の8月の最高気温（令和3(2021)~令和7(2025)年）

4 生物多様性の確保

まちなかに“みどり”を取り入れることにより、樹林地や河川といったまとまった“みどり”とのネットワークができ、チョウや鳥といった生きものがやってくる等自然が回復します。また、私たち人間は、生きものとのふれあいを通じて生きものに関心を持ち、地球規模の課題である生物多様性の保全に役立つ行動ができるようになります。



ベニシジミ

▲まちなかに来る生きもの▲



ハラビロカマキリ

▲葉っぱで遊ぶ子どもたち



ヒメボタル

▲名古屋城周辺に生息する生きもの

5 防災・減災

公園等のオープンスペースは、災害時の避難場所や避難路、復旧・復興の拠点として役立ちます。また、こうした空間や耐火性のある樹木は、火災での燃え広がりを防ぎます。

防災の工夫を施した公園の事例

若宮大通や久屋大通公園は、第二次世界大戦の教訓をもとに、防火帯としての役割を期待して整備されました。

本市を含むエリアでは、今後、南海トラフ地震等、大きな災害発生の可能性があります。その時の避難地や復旧活動の拠点となるよう、防災公園の整備等を進めています。



▲住宅地の中の
オープンスペース



▲津波発生時の避難場所となる高台

船頭場公園（港区）



▲災害時の器具庫としても
活用できるベンチ

6 地域経済の活性化

“みどり”を取り入れたまちづくりは、拠点にふさわしい景観による企業の立地促進、魅力的な交流・滞在空間での多様な人々の交流によるイノベーション、民間投資による都市公園の質の向上や道路空間等の活用による地域活性化、文化・歴史を活かした景観による観光推進等、地域経済の活性化につながります。



▲堀川沿いのにぎわいの様子
飲食店を中心とした建物と広場の整備、
運営を行い、にぎわいと魅力ある水辺空間を創出



▲二子玉川ライズ（東京都世田谷区）
再開発時に地域の原風景と一体となった施設建築を進めた。
経済効果として、駅利用者数の増加と地価の上昇が挙げられる



▲グラングリーン大阪（大阪府大阪市）
ホテルや企業のテナントが入る建築物と
公園を一体的に整備

7 温室効果ガスの削減

植物は光合成の過程で、主要な温室効果ガスであるCO₂（二酸化炭素）を吸収・固定します。また、“みどり”を活かした歩きたくなる空間づくりによる車から徒歩・自転車への交通の転換や、壁面・屋上緑化等による空調負荷低減は、CO₂排出量の削減につながります。

樹木の種類と林齢から平均的な幹の体積を調べることで「収穫表」を利用し、森林によるCO₂の吸収量を調べることができます。

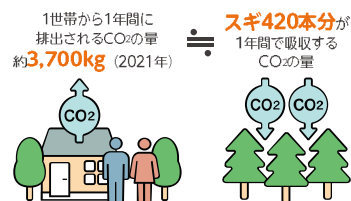
適切に手入れされた36～40年生のスギ人工林は、1ha当たり約83tの炭素（CO₂の量に換算すると約304t）を蓄えており、1年間に吸収するCO₂の量は約8.8tと推定されます。

上記は、1haあたり1,000本のスギの木が生えていてと仮定しているため、1本あたりでは、約83kgの炭素を蓄え、年間約8.8kgのCO₂を吸収していることになります。

1世帯から1年間に排出されるCO₂の量は、2021年の場合、約3,700kgでした。これは、36～40年生のスギ420本分が1年間で吸収するCO₂の量と同じぐらいということになります。

参考：林野庁ウェブサイト「森林はどのぐらいの量の二酸化炭素を吸収しているの？」
(https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html)

「よくある質問 Q1」(https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/con_5.html) (2026.2.16アクセス)



※林野庁「森林資源現況調査」(令和4年3月31日現在)の全国累計を用いて算出した36～40年生のスギ人工林の1haあたりの幹材積337m³(おおよそ樹高20m、平均直径20cmのスギが1haに1,000本ある林分の材積量)を元に算出

市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの取り組み方

まずは自然の力に気づくところから
はじめましょう！
暮らしを楽しむひとりひとりの行動で、
グリーンインフラまちづくりを加速します。



STEP1 知ろう

- 身近な自然を意識して生活し、その機能を見つめなおしましょう。
- 自然に関するイベントに参加して、より深く知りましょう。

STEP2 導入しよう

- 自分の管理する土地や建物等で、グリーンインフラを導入しましょう。
- 導入したグリーンインフラを維持管理しましょう。

STEP3 広げよう

- グリーンインフラの魅力を発信し、広げましょう。多くの人々がグリーンインフラにより実現した素敵な空間を訪れ、利用することで、まちのにぎわいとなり、企業等によるグリーンインフラまちづくりの後押しとなります。

STEP1 グリーンインフラを知ろう

自然の機能を体感しよう

例えば仕事の休憩時間や通勤、散歩の際に辺りを見渡してみましょ。植物や水、土等、自然がどんな力を発揮しているか、思いを巡らせてみましょう。



自然の機能を活かしたお気に入りの場所を見つけよう

広場、カフェ、図書館、子どもの遊び場…
自然がつくるお気に入りの場所はありますか？
お気に入りの場所を見つけて、まちをもっと味わいましょう！



情報発信をチェックしよう

グリーンインフラの導入例等を情報発信します。見てね！

例えば…

なごやの自然・
生きもの情報
Instagram
より▶



自然観察会等に参加しよう

区役所等の行政や市民団体が地域の環境に根差したイベントを実施しています。



生きものを見つけよう

植物は花や実をつけ、鳥やチョウが来るといった季節ごとに楽しみがあります。スマートフォンアプリの中には、生きものの写真を撮ると種名を判定し、ゲーム感覚で自分の図鑑をつくれるスマートフォンアプリもあります。生きものを探しに行こう！



市ウェブサイト

▲本市のオンライン参加型イベント「なごやいきものクエスト」。アプリ「Biome」使用

グリーンインフラの導入に向けたモデル事業

本市では、グリーンインフラ導入に向け、情報発信や効果検証等のためのモデル整備を行いました。これを活用し、みなさまのグリーンインフラ導入につながる情報発信を行っていきます。

チェック
してね！



名城公園

IGアリーナの来場者動線において、生物多様性緑化や雨庭※、保水性舗装を整備

※雨庭
P.8「グリーンインフラの要素技術」参照



▲名城公園グリーンインフラ啓発スポット

三の丸地区

道路等への雨庭の導入に向け、試験整備、追跡調査を実施



▲雨庭試験整備(愛知県護国神社付近)

瑞穂公園

市民・事業者が自ら設置しやすい雨水貯留浸透施設をモデル整備



▲瑞穂公園の雨花壇

雨どいからの
流入口



STEP2 グリーンインフラを導入しよう

市民・小規模な事業場で取り組みやすい事例を挙げているよ



玄関先に植木鉢を置こう

まずは手軽に植木鉢でも雰囲気が変わります。
場所の制約があっても鉢なら成長をコントロールしやすくなります。



庭に1本の苗木を植えよう

育った姿をイメージし、敷地に余裕をもって植えましょう。



駐車場を緑化しよう

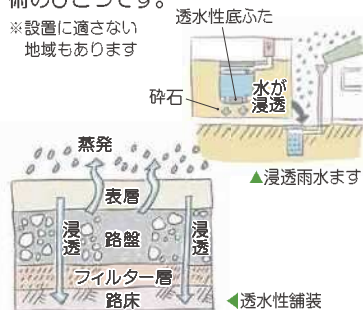
都市部において緑化面積を増やす効果的な手段です。



舗装や雨水ますを設置するときは透水性のものを選ぼう

透水性舗装や浸透雨水ますは、土壌の力を活かすグリーンインフラの要素技術のひとつです。

※設置に適さない地域もあります



生物多様性を意識した緑化をしよう

緑化の際に生きものに思いを巡らせたり、すみかやエサ場等に少しでも配慮したり、出来ることから生物多様性への配慮を加えてみましょう。



雨水を利用しよう

雨水タンクを導入して、雨水を活用してみましょう。
貯めた雨水は植物への水やりや打ち水等に使用できます。



STEP3 グリーンインフラを広げよう

“みどり” がつくるお気に入りの場所をみんなに知らせよう

例えば、あなたが見つけた素敵な場所をSNS等で発信してみよう！企業等のグリーンインフラまちづくりの後押しになります。

#やさなご

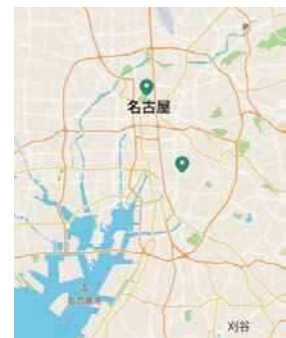
#グリーンインフラまちづくり



グリーンインフラマップで紹介しよう

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム*ウェブサイト「グリーンインフラマップ」が作成されています。企業敷地等でのグリーンインフラの導入事例は、周囲の方々の参考として、登録をご検討ください。

グリーンインフラマップ



©Mapbox©OpenStreetMap

*グリーンインフラ官民連携プラットフォーム：グリーンインフラの社会実装を推進するために設立され、国、地方公共団体、民間企業、大学・研究機関等の多様な主体が幅広く参画する。

自然共生サイト

令和4(2022)年12月に採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の世界目標のひとつ「30by30」。これは、令和12(2030)年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようというものです。自然共生サイトは、この目標達成のため、企業・自治体・団体などが策定した、生物多様性の維持・回復・創出をめざす活動計画の実施区域を国が認定する制度のことで、本市では、市が申請し認定されたものの他、事業者のみどりも認定を受けています。いろんなみどりがつながって、大切な自然をより守れたらすてきですね！



本市ウェブサイト「自然共生サイト」

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
第6回グリーンインフラ大賞
【特別優秀賞】受賞 (株)三五 ECO35の森

(株)三五 ECO35の森



(株) テクノ中部
本店ビル屋上ビオトープ

グリーンインフラの要素技術

まちなかで、自然の機能を活かすための技術を紹介するよ



1) 壁面緑化

蒸発散による気温上昇抑制

都心の限られた空間における緑視率の向上

空調負荷低減

豊富な生活空間による安らぎや心地よさ

2) 屋上緑化

生きものの生息環境の提供 (特に鳥、チョウ、トンボ等)

蒸発散による気温上昇抑制

空調負荷低減

低ストレス・クリエイティブなオフィス環境

雨水貯留による水害リスク低減

3) 芝生等草地の広場

周囲の自然と一体となった景観

転んでも安心な遊び場

災害時の避難場所や復旧拠点

コミュニティ形成

生きものの生息環境の提供

4) 花壇、菜園

コミュニティの形成

楽しみの創出

生きものの生息・生育環境の提供

5) 生きものへの配慮

緑化の例 ▶ 高さや密度に変化をつけたり、在来種を選ぶことで、鳥やチョウ等の住処をつくる

明るい場所と暗い場所をつくる

背丈の違う草地をつくる

色々な場所をつくって、色々な生きものを呼び込む

生きもののエサとなる植物を植える

高木層

中木層

低木層

草本層

密植

疎植

生きものに配慮した緑化について詳しくはこちら

なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン

在来種を選ぶならこちら

なごや地域在来植物リスト

水を活かした取り組みの例

▶ まちなかでは不足しがちな、生きものが利用できる水場を提供する

昆虫の吸水、トンボの産卵

めだか・スイレン鉢

ミニビオトープ

鳥の水飲み、水浴び

バードバス

草地と水辺が連続するエコトーン※を形成

本格的なビオトープ池

※エコトーン：陸域と水域の境界になる水際のことをいいます。水の深さや土の水分条件が少しずつ変化するため、エコトーンには様々な植物や生物が生息しています。

！注意！ 植栽について、侵略性のある植物の使用は避けてください。詳細は「植えてはいけない／植えることを推奨していない外来種リスト」をご確認ください。



6) 緑陰

自然を活かした日差し対策の例

▶ ネットや格子を用いてツル性植物を育て、日陰をつくる（緑のカーテン、藤棚、パーゴラ等）

緑陰による暑熱緩和

蒸発散による気温上昇抑制

冷房の使用量を抑え、CO₂排出量を削減

樹木による例

▶ 涼しい木陰をつくる大きな樹木

豊かな屋外空間の形成

温室効果ガスの吸収

緑陰による暑熱緩和

7) 親水空間

蒸発散による気温上昇抑制

見て、触れて、楽しむ遊び場

水面に映る景色の美しさ

8) 雨庭

▶ 道路面や屋根面等に降った雨を集め、一時的に貯留しながら地中に浸透させる植栽空間
花壇に雨庭の要素を施したものを「雨花壇」、雨水を移動させながら貯留浸透させるものを「緑溝（りょっこう）」という

雨水貯留浸透による水害リスク低減

蒸発散による気温上昇抑制

周囲の雨水をあつめる

雨庭の例

雨樋

土壌に水分を供給し植栽の健全性を高める

雨水を流しながら浸透させる

雨花壇の例

緑溝の例

9) 浸透雨水ます、浸透トレンチ

▶ 雨どいから下水道への排水経路に設置する「雨水ます」や「トレンチ」のうち、水を通すような開口部を有するもの

雨水浸透による水害リスク低減

10) 舗装面の工夫

▶ 雨水を蓄え時間をかけて蒸発させる保水性舗装、雨水を通過させて地中に浸透させる透水性舗装、隙間を空けて施工することで草地を残しながら車両の重さを支える緑化ブロック等がある

保水性舗装

透水性舗装

緑化ブロック等

限られたスペースでの緑視率の確保

蒸発散による地表温度抑制

保水性舗装 緑化ブロック等

雨水浸透による水害リスク低減

透水性舗装 緑化ブロック等

11) 雨水タンク

▶ 屋根に降った雨水を雨どいからタンクに導き、一時的に貯留するもの

雨水貯留による水害リスク低減

災害時の備えに

庭の水やりにも有効

12) 建物敷地と道路等との一体的な空間

▶ 建物敷地の外構等を、隣接する道路等との一体的な利用を考えて計画するもの

より多くの人に自然の多様な機能の恩恵を



まちのにぎわいを呼び地域経済の発展に

13) 風の道の形成

▶ 河川等の冷気の供給源から歩行者空間に風を導いたり、風下となる地域への風の通り道を遮らないよう建築物の配置・形状を配慮したりすること

居心地の良い空間

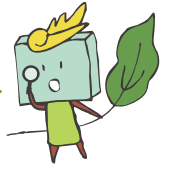


風による暑熱緩和



名古屋市のグリーンインフラの取り組み

名古屋市は何をしているの？



本市は、「導入」「維持管理」「情報発信・誘導策の実施」により、グリーンインフラまちづくりに取り組みます。



導入

- 再開発や施設更新の機会を逃さずグリーンインフラを導入し、官民連携で環境と経済の好循環を図ります
- 導入・維持管理費用が通常の整備より増す可能性があるため、必要に応じて費用対効果の検証も行いつつ進めます



維持管理

- グリーンインフラがより一層多様な機能を発揮できるよう、日常の維持管理や機能回復・向上を図ります



情報発信・誘導策の実施

- 情報発信による機運醸成、誘導施策により、市民・事業者のグリーンインフラまちづくりの更なる推進を図ります

市の主な取り組み

1

主な都心のまちづくりにおけるグリーンインフラの導入

本市が実施する再開発等の機会を捉え、積極的にグリーンインフラを導入します。事業者・市民のみなさまによる建物外構の植栽等と連携し、魅力的な空間づくりの実現に向けた取り組みを進めます。

特に力を入れている事業を紹介するよ



▲「リニア駅周辺の面的整備」より



▲「金山周辺まちづくり計画」より



▲主な都心の再開発等

市の主な取り組み

2

市の施設等における雨水流出抑制及び敷地内緑化

雨水流出抑制

「雨水タンク」や「透水性舗装」、「浸透雨水ます」等の様々な雨水流出抑制施設の整備を行っています。



▲雨水貯留浸透施設を設置した上下水道局東部営業センター



▲グラウンドに雨水貯留浸透の仕組みを取り入れたかわら公園

普段利用している公園や建物にも工夫されていることがあるんだね



敷地内緑化

本市が設置する建築物については、芝生広場の設置や屋上緑化等により、緑の確保を進めています。



▲名古屋博物館の前庭芝生等の草地の広場※



▲緑土木事務所駐車場の緑化（舗装面の工夫）



▲鳴海工場屋上の緑化

※リニューアル改修を行っている名古屋博物館の前庭（完成予定図）。天然芝の広場を設け、賑わいと憩いの場となるよう整備を進めています。

道路・河川・公園等におけるグリーンインフラの取り組み

道路、河川・ため池、公園・緑地等各分野において、グリーンインフラをつくり・守る取り組みを進めてきました。これらがより一層多面的な機能を発揮できるよう、日常的な維持管理や修繕等を通じて、機能回復や機能向上を図っていきます。



心地よい散歩道

緑陰による暑熱緩和

▲大津通



潤いのある景観に

雨を海へと運ぶ

▲山崎川



希少な動植物種の
生息の場に

市民・事業者・
行政の協働による
環境教育の場に

冷気の供給源に

▲東山の森



本市の緑のまちづくりの方向性を示す「名古屋みどりの基本計画 2030」では、公園や街路樹、樹林地、農地や水面等を含めて平仮名で“みどり”と呼んでいます。こうした“みどり”が、グリーンインフラとして多様な機能を発揮しているよ。

市の取り組みには、
市民・事業者のみなさまにも
力を発揮して
いただいています！

名古屋市への寄附

本市では、みなさまからいただいた寄附金により、里山を健全にしていく取り組み等を進めています。

- 里山保全寄附金
- 環境保全事業寄附金
- 中川運河再生寄附金
- 緑のまちづくり寄附金
- さくらの名所応援寄附金
- 公園事業寄附金
- 堀川再生寄附金
- 地産地消推進寄附金
- しだれ梅寄附金 等



▲名古屋市への寄附
本市ウェブサイト



側溝等の清掃

樹木は大切な自然ですが、側溝や雨水ますが落ち葉で詰まってしまうと機能が発揮できません。そのため、市民のみなさまにも、身近な場所での清掃への協力をお願いします。

本市上下水道局ウェブサイト▶



○雨水が入りやすくなります



✗ごみで雨水が入りにくい



✗植木鉢で雨水が入りにくい

スポンサー花壇

市民や事業者のみなさまに公園や街路の花壇のスポンサーになっていただく事業です。いただいた協賛金は、花壇に植える花苗や肥料の購入等に活用しています。



▲スポンサー花壇
本市ウェブサイト



愛護会活動

公園や街路樹の愛護会は、公園や街路樹の保全を行う地域のボランティア団体です。

公園
愛護会
本市ウェブ
サイト▶



街路樹
愛護会
本市ウェブ
サイト▶



名古屋市は“ラムサール条約湿地都市”

みんなでごみ減量に取り組んで守った「藤前干潟」。渡り鳥の重要な休息地としてラムサール条約に登録されていますが、他にもいくつもの機能を発揮しています。自然ってすごいですね。

藤前干潟を守り続け、そこから様々な学びを得てきたみなさまの取り組みが評価され、令和7(2025)年7月、本市はラムサール条約湿地都市として認証されました。

あらためてこれから、自然を守り、自然の力を活かして「自然共生社会」の実現に向けて歩みを進めていきましょう！



二酸化炭素の
吸収・固定

渡り鳥の重要な
休息地に

生態系により、水をきれいに

▲藤前干潟

グリーンインフラまちづくりに役立つ 補助制度等

グリーンインフラの導入を推進する制度の概要や
実施主体のリンク先を紹介するよ



補助制度



グリーンインフラ活用型都市構築支援事業

地域におけるグリーンインフラの取り組みを支援する制度です。地方公共団体だけでなく、民間主体の取り組みも一体的に支援します。



グリーンインフラの新技术開発支援事業

グリーンインフラに関する新技术・サービスの開発を促進するため、民間企業等による自然環境の多様な機能を利用する技術で実用段階に達していないものの開発支援を行う制度です。



市（緑化関係）

みどりの補助金 （名古屋市民有地緑化助成事業）

「あいち森と緑づくり税（県民税）」を財源に、緑豊かな景観の創出と都市環境の改善を積極的に推進するため、質・量ともに優れた民有地の緑化工事に対して助成を行っています。



名古屋市環境保全・ 省エネルギー設備資金融資

中小企業が、名古屋市内で公害防止や省エネルギー推進などの環境保全対策を実施するための資金を長期かつ低金利で融資する制度です。

グリーンインフラでは、「緑化の推進（建築物・施設および敷地の緑化等）」「雨水の浸透・保水（透水性・保水性舗装等）」が対象に含まれます。



市（建築関係）

建築物環境配慮制度（CASBEE 名古屋）

建築物の環境性能を総合的に評価し、環境に配慮した建物づくりを促進する制度です。条例に基づき、床面積2,000m²を超える建築物の新築・増築をする建築主に対し、届出を義務付けています。

グリーンインフラの要素技術では、「屋上・壁面緑化」、「生きものへの配慮（一部）」、「雨水タンク」等が含まれます。



▲Sランク事例

Nagoya まちなか オープンスペース制度

都心部にみどりや広場など憩い・賑わいのある空間を形成するため、従来の公開空地等の制度を見直したものです。

オープンスペースの評価にあたり、「NICE GREEN なごや」の認定取得を推奨項目の一つとしています。



▲写真提供：三交不動産株式会社
（撮影：（株）エスエス）



市（雨水流出抑制関係）

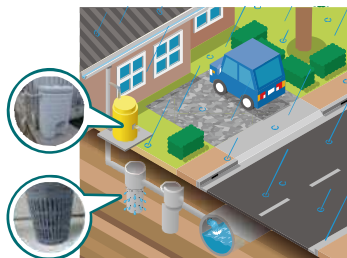
雨水流出抑制施設設置補助金

雨水流出抑制施設である雨水タンクと浸透雨水ますの設置に対して助成する制度です。



雨水タンク

雨水を雨どいから分岐し、タンクに貯めます。（庭の水やりなどに有効利用することができます。）



浸透雨水ます

穴の開いたますから、集めた雨水を地中にしみ込ませます。

名古屋市公式ウェブサイト

なごやグリーンインフラまちづくりガイドのページ



発行元

名古屋市 グリーンインフラまちづくり推進会議

（総務局、環境局、住宅都市局、緑政土木局、上下水道局）

事務局：環境局環境企画部環境企画課 電話：052-972-2684

メールアドレス：a2684@kankyokuyoku.city.nagoya.lg.jp



認定制度



優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）

都市緑地法に基づき、国土交通大臣が民間事業者等による良質な緑地確保の取り組みを、気候変動対策・生物多様性の確保・Well-beingの向上等の「質」と緑地の「量」の観点から評価・認定する制度です。



▲【TSUNAG事例】
グラングリーン大阪

自然共生サイト

ネイチャーポジティブの実現に向けて、生物多様性の維持・回復・創出を目指し、企業・自治体・団体等が策定した活動計画の実施区域のことです。「地域生物多様性増進法」に基づき、国が認定します。













市

NICE GREEN なごや

申請により、市内の建築物の敷地内等で整備される緑化施設の内容を、市が一定の基準により評価し、ランクを認定する制度。認定ランクに応じて認定証や認定ラベルが発行され、住宅ローン融資の優遇や補助金の交付等が受けられる場合があります。



事項	フルクローズ型ワークブースの導入について																
内容	<p>住宅都市局では、職員の職場環境を改善するため様々な方策を講じている中で、今回、民間企業を中心に他の自治体でも導入が進む「フルクローズ型ワークブース」を市役所庁舎内で初めて、下記のとおり導入いたしました。</p> <p>局外の皆様もご利用いただけますので、ぜひご体感ください。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 導入内容</p> <p>(1) 使用する機器 テレキューブエアー（アイリスチトセ製）</p> <p>(2) 設備内容</p> <table border="1" data-bbox="371 994 1401 1568"> <tr> <td data-bbox="371 994 545 1310">本体写真</td> <td data-bbox="545 994 971 1310"></td> <td data-bbox="971 994 1401 1310"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1310 545 1361">定員</td> <td data-bbox="545 1310 971 1361">4名</td> <td data-bbox="971 1310 1401 1361">2名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1361 545 1413">設置場所</td> <td data-bbox="545 1361 971 1413">西庁舎 2階吹き抜け</td> <td data-bbox="971 1361 1401 1413">西庁舎 4階企画経理課</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1413 545 1464">予約対象</td> <td data-bbox="545 1413 971 1464">庁内（局外を含む）</td> <td data-bbox="971 1413 1401 1464">住宅都市局内</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1464 545 1568">ブース内設備</td> <td colspan="2" data-bbox="545 1464 1401 1568">ソファ、机、AC電源、換気装置、冷房機器、施錠機能</td> </tr> </table> <p>2 利用開始日 令和8年4月1日（水）</p> <p>3 主な用途</p> <p>(1) 対面及びオンラインの会議 (2) 職務状況面談や機密情報を扱う電話</p> <p>4 その他 利用方法等の詳細については、別途ご案内いたします。</p>		本体写真			定員	4名	2名	設置場所	西庁舎 2階吹き抜け	西庁舎 4階企画経理課	予約対象	庁内（局外を含む）	住宅都市局内	ブース内設備	ソファ、机、AC電源、換気装置、冷房機器、施錠機能	
本体写真																	
定員	4名	2名															
設置場所	西庁舎 2階吹き抜け	西庁舎 4階企画経理課															
予約対象	庁内（局外を含む）	住宅都市局内															
ブース内設備	ソファ、机、AC電源、換気装置、冷房機器、施錠機能																

内 容	(参考) これまでの住宅都市局での取組み	
	内容及び効果	写真等
	【PC周辺の2画面化】 <ul style="list-style-type: none"> • Excel や図面を見やすい。 • 複数画面を同時に開くことで、作業効率が向上する。 	
	【スタンディングテーブル】 <ul style="list-style-type: none"> • 立ち話のスタイルで、気軽に打合せを始められる。 • 所属間の交流や連携を生み、部署を越えてアイデアを共創する。 • 各所属の施策をPRするパンフレットを設置し、鮮度の高い情報を共有できる。 	
	【窓口改革】 <ul style="list-style-type: none"> • 床面にカラーリングを施すことで、窓口の動線を明確化する。 • 電子申請の増加を踏まえ、窓口時間を短縮することで、職員の事務処理時間を確保する。 	
【会議室予約簿の電子化】 <ul style="list-style-type: none"> • One Drive 上の Excel で予約簿を管理することで、複数人が同時に閲覧及び編集をすることができる。 		
備考		

(住宅都市局総務課 内線 2704)

ワーキングブース

Working booth

遮音 + 冷房 = 快適ワーク

TELECUBE Air

by IRIS CHITOSE

夏のワークブース内の暑さ問題をエアコンを導入することで解決。
一年中集中力を高める空間を実現しました。
実用性の高い機能が豊富にありWEB会議等に適した快適な個室ブースです。



Technology and Detail

機能



換気ファンの標準装備

ブース内は常に新鮮な空気を保つことができます。



天井+前方左右のLED照明

リモコンを通して調を明るくはっきりと映します。



遮音性能

WEB商談やミーティングの際に音がクリアに聞こえつつ、会話の内容が外に漏れないので安心して業務に集中できます。



広い室内

従来品と比較して幅が86mm、奥行きが72mm広くなりました。ゆったりとした空間で快適なソロワークが可能となります。

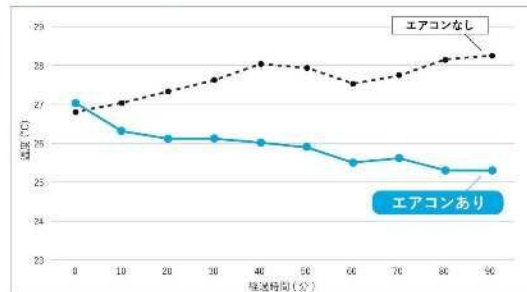


フラットな床

ブースには床がなく、設置場所の床がそのまま内部につながるため畳などの高まりととりに致傷のないフラットな入りが可能です。

夏場の暑さ対策! 快適なブース内空間を実現!

■ブース内の室温推移結果(1人利用) ※開始前 ブース外温度27.8℃ / 湿度42%



※設置環境によっては、計測値が異なることがあります。



ドレン水のお手入れも簡単!

排水ポンプが点火したら、タンクを取り出して排水するだけ。

商品価格には配送料は含まれておりません。商品価格には輸入税付・加工納立諸費用が含まれておりません。別途見積もりさせていただきます。

TELECUBE AIR by IRIS CHITOSE

グリーン購入法適合 労務環境 音環境 空気環境 おすすめ NEW



1人用



●パネルタイプ W1205mm×D1105mm×H2252mm



ガラスタイプ W1205mm×D1105mm×H2252mm

2人用



パネルタイプ W2105mm×D1194.3mm×H2252mm



ガラスタイプ W2105mm×D1194.3mm×H2252mm

4人用



ガラスタイプ W2105mm×D1594.3mm×H2252mm



パネルタイプ W2105mm×D1594.3mm×H2252mm

Option



1人用コンパクトクーラー



4人用ポータブルクーラー



吸音パネル



液晶モニター・発音金具
※液晶モニターご希望の方はお問い合わせください。



住居用下方放出型自動消火装置



ソファ

■共通仕様

- 本体: スチール塗装仕上げ
- ドア: アルミ押出材連続仕上げ、ガラス
- パネル: 不燃素材、ガラスワール
- メラミン基板: メラミン化粧板
- 標準装備:
入板、天井照明、フロント照明(1人用のみ)
天板上スイッチ付コンセント、換気ファン、吸音パネル

■カラーバリエーション

本体カラー



ブラック ホワイト

内装カラー (ファブリック) ソファカラー (ファブリック) 天板 (メラミン化粧板)



アイボリー ダークグレー オーク柄 (KM307)

コンパクトクーラー使用上の注意事項

■排気

排気ダクトからは温風が出ます。
ダクト付出口は物を置かないでください。
※推奨排気距離: 100cm以上
壁との隙間も150mmは必要。

■ドレン水交換方法(1人用)

- ①海水になるとアラームが鳴る。
※漏水表示: 本体上部の操作パネル内
 - ②クーラー部のタンクを外す。
 - ③タンクの水を捨てる。
- ※2人用4人用はドレンレス仕様です。
※設置時に配管工事が必要となります。

ドレン水排水量測定試験結果
→1時間あたりに換算すると約189ml/h
タンクが約1,800ml程度貯水できるので、
約9時間程度は交換なしで運転可能です。
※設置する環境の温度・湿度によっては、
排出量に差異が生じます。

ワーキングブース

デスク

事務用チェア

会議・ミーティング用チェア

折りたたみチェア

テーブル

ワーキングブース

居室材 送付家具

DX・ICT・オフィスアイテム

既設のローバーション

システム取付庫

湿熱・取付庫

ロッカー・シューズボックス

カウンター

金庫

ロビーラウンジチェア

エグゼクティブ用家具

応接用家具

ホワイトボード 掲示板

オフィスアパーサリー

屋外用家具

メタルフラック

物品棚・移動棚

工場用什器

セキュリティ: 防災

宴会・イベント

会議室用家具

医療・高齢者施設家具

おすすめ NEW